

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 野田 明	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・現代英語で書かれた論説やストーリーを題材として使用します。
- ・主にReading力を伸ばすことに主眼を置きます。高校までに学習した文法事項、構文などを確認しつつ、語彙力の強化、正確に読む力の強化を図ります。
- ・授業は演習方式で行うので、決められた範囲については必ず予習をして授業に臨んでください。
- ・授業中に辞書を引くことがあるので、各自で用意してください。

#### 授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	Unit 7 国産ジェット機
第2回	Unit 1 「美しい」ビル解体	第17回	Unit 7 国産ジェット機
第3回	Unit 1 「美しい」ビル解体	第18回	Unit 8 日本の治水事業
第4回	Unit 2 エボラ出血熱に挑む	第19回	Unit 8 日本の治水事業
第5回	Unit 2 エボラ出血熱に挑む	第20回	Unit 9 六本木ヒルズのドア
第6回	Unit 3 下町ロケット	第21回	Unit 9 六本木ヒルズのドア
第7回	Unit 3 下町ロケット	第22回	Unit 10 東洋ゴムの不正
第8回	Unit 4 ドローンの使用	第23回	Unit 10 東洋ゴムの不正
第9回	Unit 4 ドローンの使用	第24回	Unit 11 科学における責任
第10回	Unit 5 東電のトラブル隠し	第25回	Unit 11 科学における責任
第11回	Unit 5 東電のトラブル隠し	第26回	Unit 12 カブトガニの保護
第12回	Unit 6 人工知能が書く小説	第27回	Unit 12 カブトガニの保護
第13回	Unit 6 人工知能が書く小説	第28回	総合演習
第14回	前期のまとめ	第29回	後期のまとめ
第15回	まとめと確認（筆記試験）	第30回	まとめと確認（筆記試験）

- ・受講生の学習進捗度などにより、授業の進度は随時調整します。

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・『リーディング・レイディアスー科学技術の多様な側面を考える』  
(三修社)

#### 成績評価方法

- ・予習と授業での発表、取り組みをおおよそ3割、前期・後期各最終回に行う筆記試験の成績をおおよそ7割として評価します。

#### その他

- ・授業中の私語、携帯電話等通信機器の使用は厳禁とします。
- ・必要に応じて基礎的な文法事項も確認しながら進みますが、高校1年生程度の学習内容は必要になるので、その点留意して受講してください。

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 武田 治美	

#### 講義の内容・方法および到達目標

若い世代に関心のある最新的话题を扱ったテキストを読む。リーディングから初め、テキストの内容をグローバルに把握できる読解力を養う。各章に設けられた練習問題で理解度を確認する。さらに内容に基づく自分自身の考えをスピーキングやライティングによって英語で表現する能力を身につける事を目標にする。

今までの英語学習の基礎の上に、「クリティカル・シンキング」を取り入れた、オールラウンドな英語力向上を目指している。

#### 授業計画

授業では、全受講生に少なくとも一度は発言の機会を与える。

必要に応じて、関連教材のプリントを配布しテキストを補充する。

常に受講生の理解度に考慮し、授業を進行していく。

	前期		後期
第1回	オリエンテーション	第16回	第11章 Kawaii 可愛い
第2回	第1章 Physical Fitness フィットネス	第17回	第12章 Same-Sex Marriage 同性結婚
第3回	第2章 Blood Types 血液型	第18回	第13章 Japan Dresses Casual 日本のカジュアルな服装
第4回	第3章 Dreams 夢	第19回	第14章 World Happiness この世の幸せ
第5回	1章から3章までの復習	第20回	11章から14章までの復習 小テスト
第6回	第4章 Speed Dating お見合いパーティー	第21回	第15章 The Right to Die 死ぬ権利
第7回	第5章 Pets in Japan 日本のペット	第22回	第16章 Pet Cloning ペットのクローニング
第8回	第6章 Stress ストレス	第23回	第17章 Salt, Sugar, Fat 塩分、糖分、脂肪分
第9回	4章から6章までの復習 小テスト	第24回	第18章 Artificial Insemination 人工授精
第10回	第7章 Fast Food: Super Size Me ファーストフード「スーパーサイズ・ミー」	第25回	15章から18章までの復習
第11回	第8章 Shopping Trends ショッピングの流行	第26回	第19章 Smoking 喫煙
第12回	第9章 Women and Work 女性と職場	第27回	第20章 Photoshop Advertising フットショップによる修正広告
第13回	第10章 The Internet インターネット	第28回	第21章 Are Men Necessary? 男性は必要?
第14回	前期学習内容のまとめ	第29回	後期学習内容のまとめ
第15回	テスト	第30回	テスト

#### 教材・テキスト

Life Topics <Advanced> 南雲堂

#### 成績評価方法

- ・ 毎回出席をとる。
- ・ 前期最終授業時と後期最終授業時に試験を行う。  
全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・ 成績は試験（60%）、課題提出（20%）、出席（20%）で評価する。

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 林 姿穂	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 国外のインターネットに掲載された様々なニュース15項目をまとめたテキストを通年で2冊読む。メディア英語に慣れ、情報の要点を即座に把握できる読解力・速読力を養う。
- ・ 各章にはリーディング課題だけでなく、要約文の穴埋め、短い英文内容の理解を問う問題も用意されている。また自宅学習のためのeラーニングのサイトにも一定期間自由にアクセスできるので、日ごろから英語学習の習慣をつけていくことを目標とする。

#### 授業計画

- ・ 1つの章を1回の授業で読み終える予定。ただし、受講生の学習の進捗度などによって、授業進行の速度は随時調整する。

第1回	オリエンテーション	第16回	Unit 1 Kimchi
2回	Unit 1 A Burger	17回	Unit 2 Ginkgo Biloba
3回	Unit 2 Hold Me?	18回	Unit 3 Our Best Friends
4回	Unit 3 Spices	19回	Unit 4 Gaming Online
5回	Unit 4 Making Peace	20回	Unit 5 China
6回	Unit 5 Glaciers Come	21回	Unit 6 More Salt
7回	中間テスト Unit13-15	22回	中間テスト Unit 14-15
8回	Unit 6 Picking Up	23回	Unit 7 Homes
9回	Unit 7 Space Travel	24回	Unit 8 Exoskeleton
10回	Unit 8 A Talent	25回	Unit 9 Health
11回	Unit 9 Robots	26回	Unit 10 E-books
12回	Unit 10 Video Games	27回	Unit 11 Health
13回	Unit 11 The Internet	28回	Unit 12 Skateboards
14回	Unit 12 Social Networking	29回	Unit 13 High-tech Dreams
15回	前期学習内容のまとめ	30回	後期学習内容のまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

『VOA New Clip Collection』（前期）『VOA News Plus』（後期）（三修社）

#### 成績評価方法

- ・ 前期の7回目、15回目授業時と後期の7回目（22回）最終授業時（30回目）に授業内で30分程度の試験を行う。全授業回数のおよそ3分の2以上の出席がない場合や合計4回（前期2回、後期2回）の試験を受験していない場合、評価の対象外とする。試験をやむを得ず欠席する場合は公的な証明書（診断書や遅延届）を後日提示すること。その上で追加課題などの措置を取る。
- ・ 成績は出席状況や課題の提出状況、学習態度などから総合的に判断する。評価基準の目安は、試験：平常点＝6：4とする。毎回出席を取る。

#### 実務経験

英会話学校で英会話および英語の資格対策の講師として勤務していました。実務経験を活かし、授業では実践的な英語力の養成に努めます。

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 平川 和	

### 講義の内容・方法および到達目標

Reading力の向上をめざす。英語には大きく分けて4技能（Reading、Listening、Writing、Speaking）があるが、まずReading力の基礎がなければ、他の3技能を伸ばすことは難しい。具体的な到達目標は以下の4つになる。①語彙力の強化・重要文法事項の習得。②構造が複雑な文でも正確に和訳できるようになる。③比較的長い英語の文章を読みことに慣れ、その内容を正確に理解できるようになる。④様々なテーマの英文エッセーを読み、教養を身につける。

### 授業計画

第1回	イントロダクション	第16回	イントロダクション
第2回	Unit1: Cross-Cultural	第17回	Unit5: Fashion
第3回	Unit1: Cross-Cultural	第18回	Unit5: Fashion
第4回	Unit1: Cross-Cultural	第19回	Unit5: Fashion
第5回	Unit1: Cross-Cultural	第20回	Unit7: Art
第6回	Unit1: Cross-Cultural	第21回	Unit7: Art
第7回	Unit2: Foods	第22回	Unit7: Art
第8回	Unit2: Foods	第23回	Unit14: Legal Issues
第9回	Unit2: Foods	第24回	Unit14: Legal Issues
第10回	Unit2: Foods	第25回	Unit14: Legal Issues
第11回	Unit4: Sports	第26回	Unit15: Technology
第12回	Unit4: Sports	第27回	Unit15: Technology
第13回	Unit4: Sports	第28回	Unit15: Technology
第14回	Unit4: Sports	第29回	Unit15: Technology
第15回	まとめ（筆記試験）	第30回	まとめ（筆記試験）

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・ Ambitions: Pre-intermediate（静哲人他編著、金星堂）

### 成績評価方法

- ・ 「出席」「授業中に実施する小テスト」「授業中に実施するグループワーク」（合わせて50%）、まとめの筆記試験（50%）を基準に評価する。
- ・ 提出物や小テスト、まとめの試験の形式についてはその都度説明するが、いずれもテキストの内容とレベルに基づいたものである。
- ・ 授業に取り組む姿勢も成績評価に含む。
- ・ 欠席が5回を越えた場合は評価の対象外とする。

### その他

- ・ 辞書は各自持参すること。授業中の携帯電話その他通信機器の使用は禁じる。
- ・ 受講生の理解度によっては上記授業計画の一部を変更することもある。

講義科目 :独語 I	単位数 :2
マークシート略 :〔独語 I〕	学習形態 :選択必修科目
担当 :竹添 敦子	

### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 音声を聴いてドイツ語の発音に慣れ、映像を観てドイツ文化の一端に触れます。
- ・ 平易な初級文法の範囲内で会話練習と反復繰り返しに徹し、確実な基礎力をつけます。
- ・ ドイツ語はローマ字読みができれば発音できます。学び始めが楽なことばです。そこで、発音をきちんとできるようになること、ごく初歩のドイツ語コミュニケーションができるようになることが目標です。

### 授業計画

第1回 ドイツ語圏の話・発音 (挨拶)	第16回 前期の復習・確認 (ドイツあれこれ)
第2回 ドイツ語の綴り (発音)	第17回 ドイツの旅 (前置詞の格支配)
第3回 自己紹介 (動詞の人称変化)	第18回 応用練習 (前置詞と定冠詞の融合形)
第4回 応用練習 (動詞の位置・語順)	第19回 ドイツの旅2 (話法の助動詞)
第5回 2種類の「あなた」 (使い分け)	第20回 応用練習 (枠構造・manの使い方)
第6回 質問と答え (職業や立場)	第21回 比べてみよう (形容詞)
第7回 応用練習 (決定疑問文・定冠詞)	第22回 応用練習 (分離動詞)
第8回 中性って何? (名詞の性と格)	第23回 食べる・飲む (非分離動詞)
第9回 応用練習 (不定冠詞)	第24回 週末の予定 (動詞の三基本形)
第10回 趣味は何? (動詞の人称変化2)	第25回 ドイツの映画 (さまざまな過去分詞)
第11回 応用練習 (人称代名詞)	第26回 応用練習 (現在完了形)
第12回 天気・気分 (慣用表現)	第27回 ドイツのクリスマス (祝祭表現)
第13回 買い物 (複数形)	第28回 独語Ⅱへの橋渡し (再帰表現)
第14回 応用練習 (否定表現)	第29回 独語Ⅱへの橋渡し (過去形)
第15回 まとめと確認 (試験)	第30回 まとめと確認 (試験)

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・ テキスト 小野寿美子・他『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』(朝日出版社)
- ・ 辞書 講義冒頭で説明します。ただし、新たに購入する場合は『新アクセス独和辞典』(三修社)が手ごろです。電子辞書は初学者には不向きです。

### 成績評価方法

- ・ 参加型授業のため出席を重視します。年間10回以上欠席した場合、評価の対象外とします。
- ・ 前期、後期の試験(50%)、小テスト等受講状況(50%)を基準に判断します。

講義科目 : 独語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [独語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 今本 幸平	

### 講義の内容・方法および到達目標

初めてドイツ語を学習する人のための授業です。

まず教員による文法の説明、その後に各自で練習問題を解き、答えを口頭で発表（あるいは黒板に板書）してもらいます。音読の練習も毎回行います。講義の方法は一般的な語学の授業とほぼ同様の形式ですが、講義を聴くだけでなく、「説明に基づいて自分でやってみる」という受講態度が求められます。

アルファベットや単語の読み方（発音）から入り、簡単な文を理解して自分でも作れるようになり、ドイツ語検定試験の5級から4級程度（中学1、2年の英語と同程度）のドイツ語が理解できるようになることを目指します。

### 授業計画（下記は予定です。実際の進度は受講生の理解度に応じて調整します）

第1回 ガイダンス、アルファベット	第16回 前期の復習
第2回 アルファベット、単語の読み方	第17回 第5課 複数形
第3回 単語の読み方（挨拶、数字など）	第18回 第5課 人称代名詞
第4回 第1課 文の作り方（動詞）	第19回 第5課 練習問題
第5回 第1課 重要な動詞、語順の原則	第20回 第6課 前置詞①
第6回 第1課 練習問題	第21回 第6課 前置詞②
第7回 第2課 名詞の性（冠詞）	第22回 第6課 練習問題
第8回 第2課 名詞の格	第23回 第7課 形容詞の使い方
第9回 第2課 練習問題	第24回 第7課 練習問題
第10回 第3課 不規則動詞	第25回 第8課 助動詞、未来形
第11回 第3課 命令形、練習問題	第26回 第8課 練習問題
第12回 第4課 定冠詞の仲間	第27回 第9課 分離動詞
第13回 第4課 不定冠詞の仲間	第28回 第9課 文のつなぎ方
第14回 第4課 練習問題	第29回 第9課 練習問題
第15回 前期まとめ、テスト	第30回 後期まとめ、テスト

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・『PANORAMA Deutsch（パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール）』白水社
- ・独和辞典（初回の授業で紹介します）
- \*教科書と辞書は両方とも必ず毎回持参すること。

### 成績評価方法

原則的には前、後期末に行うテストの平均点で評価します。授業中に理解度確認のための小テストを行う場合がありますが、その点数は参考程度とします。前後期とも10回以上の出席がなければ成績評価の対象外とします（遅刻・早退は0.5回の欠席とみなします。出席状況による減点や加点は行いません）。欠席、遅刻等の回数は必ず各自で把握しておいてください。

### その他

週一度の授業だけでは記憶が定着しにくいので、こまめに予習と復習をしてください。単語の意味を辞書で調べる、授業でやった個所の例文を教科書付属のCDで聴き、暗唱してみるなど、自分でできることはたくさんあります。

講義科目 : 仏語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [ 仏語 I ]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 井出 勉	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・フランス語の綴り字と発音の関係を学び、きちんと発音できるようになることを目指します。
- ・フランス語の基本的な文法と簡単な日常会話を覚える。
- ・実用フランス語技能検定試験（仏検）5級を習得できるレベルまでの到達も目指します。

#### 授業計画

第1回	フランス紹介・発音	第16回	数字・年齢
第2回	綴り字の読み方・挨拶	第17回	部分冠詞
第3回	発音練習・挨拶	第18回	食べ物・飲み物
第4回	挨拶・自己紹介の仕方	第19回	カフェでの注文の仕方
第5回	名詞の性と数・不定冠詞	第20回	～に行く・～から来た
第6回	形容詞①	第21回	所有形容詞・強勢形
第7回	形容詞②・定冠詞	第22回	比較級
第8回	基本動詞の活用	第23回	命令形
第9回	3通りの疑問文の作り方	第24回	曜日と日付
第10回	指示代名詞・～が好き	第25回	天候・時刻
第11回	否定文	第26回	近接未来・近接過去
第12回	動詞～を持つとその慣用表現	第27回	過去分詞の作り方
第13回	疑問形容詞	第28回	複合過去①
第14回	動詞～をするとその慣用表現	第29回	複合過去②
第15回	まとめと確認：試験	第30回	まとめと確認：試験

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキスト：藤田裕二『パリのクール・ジャパン』朝日出版社  
辞書：講義冒頭で紹介  
参考文献については講義中に紹介

#### 成績評価方法

平常点（積極的な学習態度を評価する）30%、期末試験70%  
年間10回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

講義科目 : 中国語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [中国語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 花尻 奈緒子	

#### 講義の内容・方法および到達目標

正しい中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語を学び、簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになる。また、単純な文を聞いて意味を理解できるようになる。

#### 授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	前期の復習
第2回	基礎発音 声調と母音	第17回	名詞句「～する○○」
第3回	基礎発音 鼻韻母と子音	第18回	動詞述語文
第4回	基礎発音 ピンインの規則	第19回	動詞の重ね形・数字②
第5回	基礎発音 軽声	第20回	選択疑問文
第6回	基礎発音 声調の変化・数字①	第21回	疑問詞疑問文
第7回	人称・指示代名詞	第22回	完了形「～しました」
第8回	名詞句「～の○○」①	第23回	「有」と金額の言い方
第9回	名詞句「～の○○」②	第24回	二重目的語をとる動詞
第10回	是述語文「～は…です」	第25回	年月日・曜日・時刻
第11回	程度を表す副詞	第26回	名詞述語文・時間状語
第12回	名詞句「どんな○○」	第27回	助数詞
第13回	形容詞述語文①	第28回	方位詞・存在文
第14回	形容詞述語文②	第29回	前置詞・連動文
第15回	主術述語文	第30回	復習と総括

#### 教材・テキスト・参考文献等

「パイロットテキスト・中国語 I 基礎」

#### 成績評価方法

出席50%、前・後期の期末試験50%

#### その他

予習復習を欠かさずに行うこと。



講義科目 : 法学入門	単位数 : 2
マークシート略 : [法学入門]	学習形態 : 必修科目(法律コース)
担当 : 法律コース教員	

### 講義の内容・方法および到達目標

初めて法学を学ぶ者を想定して、専門科目である憲法、刑法、民法、行政法、労働法、行政学への入門となることを目的とし、それぞれの分野の最も基礎的な知識の定着を目指す。法律コースの教員のリレー形式による。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス（図書館・情報処理室）
- 第2回 法学入門：法の構造
- 第3回 憲法：人権
- 第4回 憲法：統治機構
- 第5回 民法：契約の仕組み
- 第6回 民法：民法上の「家族」
- 第7回 刑法：裁判員制度①裁判官の役割と裁判員の役割
- 第8回 刑法：裁判員制度②刑法の解釈と適用
- 第9回 行政法：行政の実行性を確保する制度－行政上の強制執行制度
- 第10回 行政法：行政の実効性を確保する制度－行政上の制裁制度
- 第11回 労働法：アルバイトをする時の注意点
- 第12回 労働法：労働組合の活動による権利実現
- 第13回 行政学：議会制民主主義と国政選挙
- 第14回 行政学：地方選挙
- 第15回 まとめ

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は指定しない。

参考文献は、講義の中で各教員が紹介する。

各教員から必要に応じて資料を配布する。

### 成績評価方法

6名の教員が1人17点満点（平常点50%、レポート・小テスト50%）で採点し、 $6 \times 17 = 102$ 点満点のうち、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可、60点未満を不可とする。

再試験は行わない。

出席は成績評価の重要な要素になる。ただし、各教員の成績評価の方法は教員ごとに異なるので注意して欲しい。

講義科目 : 経済学入門	単位数 : 2
マーケット略 : [経済入門]	学習形態 : 必修科目(経商コース)
担当 : 経商コース教員	

#### 講義の内容・方法および到達目標

高等学校における社会科の学習と、大学での経済（経営）学の講義の間には大きなギャップがあるから、新入生諸君がとまどいを感じることも少なくない。この講義では、経商コースの学生を対象に、現代経済（社会）の見方、その分析方法をはじめ、文献の入手方法や学習の進め方などについて講義し、学生諸君が大学での経済学・経営学の学習にスムーズに移行できるようにすることを目的としている。

また、レポート作成及び添削指導を通じて、資料収集、整理、レポートの書き方など、経済学・経営学分野のレポート作成の手法について学ぶ。

#### 授業計画

第1回	図書館の使い方/情報処理室の使い方	9回	政府2
2回	ガイダンス/社会科学とは何か	10回	市場1
3回	レポートの書き方	11回	市場2
4回	経済を測る1	12回	会計1
5回	経済を測る2	13回	会計2
6回	国際1	14回	金融1（東海財務局）
7回	国際2	15回	金融2（東海財務局）
8回	政府1		

#### 教材・テキスト・参考文献等

- テキストは特に指定しない。適宜、レジュメや説明資料を配付する。
- 下記文献以外の関連文献は、講義時間中に紹介する。
  - ・新井明『経済の考え方が分かる本』岩波ジュニア新書511、2005年
  - ・眞淳平『世界の国1位と最下位』岩波ジュニア新書664、2010年
  - ・堤未果『社会の真実の見つけかた』岩波ジュニア新書673、2011年
  - ・一橋大学経済学部 編『教養としての経済学 -- 生き抜く力を培うために』有斐閣、2013年
  - ・井堀利宏『コンパクト経済学 第2版』新世社、2017年
  - ・川本明・他『世の中の見え方がガラッと変わる経済学入門』PHP研究所、2016年
  - ・山田久監修、大久保研治 他著『Primary大学テキスト これだけはおさえたい経済学 学びのガイダンス』実教出版、2014年
  - ・白井利明『社会への出かた 就職・学び・自分さがし』新日本出版社、2014年
  - ・渡辺峻・伊藤健市編著『学生のためのキャリアデザイン入門 第3版』中央経済社、2015年

#### 成績評価方法

- 出席とレポート（2回実施）とで評価する。なお、レポート課題は、7回目終了時と13回目終了時に連絡する。  
【評価基準】出席：30%、レポート：70%

講義科目 : 体育講義	単位数 : 2
マークシート略 : [体育講義]	学習形態 : 選択科目
担当 : 大西 範和	

#### 講義の内容・方法および到達目標

健康が人生をよりよく生きるための基盤であることは誰もが知っており、人々の健康志向が高まっています。一方、健康や運動に関する情報は溢れていて、適切に選び、役立てることは難しくなっています。本科目では、特に運動についての生理学的な知識や考え方をグループで様々な課題について話し合いながら学び、適切な情報をもとに健康づくりについて考え、実践するための基本的な力を育てます。到達目標は以下の3点とします。

1. 健康づくりや運動に関する生理学的な用語や記述を理解できる。
2. 健康づくりや運動に関する生理学的な考え方の概要を説明できる。
3. グループでの話し合いにおいて、課題解決のために協調することができる。

#### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、体力と健康の関係、健康づくりの施策
- 第2回 筋肉の構造と収縮の仕組み
- 第3回 筋力を左右する要因と筋力トレーニング
- 第4回 筋肉収縮のためのエネルギー
- 第5回 運動と呼吸、換気の仕組みと呼吸の調節
- 第6回 運動と呼吸、酸素の運搬
- 第7回 運動と循環、心臓や血管の構造と機能
- 第8回 運動と循環、循環器系の調節機構
- 第9回 運動と水分の調節、腎臓による水分調節と飲水
- 第10回 運動と熱中症
- 第11回 運動時の体温調節
- 第12回 運動と栄養、糖質の消化吸収とその働き
- 第13回 運動と栄養、タンパク質の消化吸収とその働き
- 第14回 サルコペニアと運動、栄養
- 第15回 テスト

#### 教材・テキスト・参考文献等

朝山正己・彼末一之・三木健寿編著 「イラスト運動生理学」東京教学社

#### 成績評価方法

テストの成績で評価する(100%)。

#### その他

グループでの意見交換は、使える知識として学ぶための重要な鍵です。自信がなくても積極的に話し、聞く側は話し手の話す努力を讃え、尊重しましょう。

講義科目	: 体育実技	単位数	: 1
マークシート略	: [体育実技]	学習形態	: 選択科目
担当	: 松尾 浩世	実務経験	: 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

日本では超高齢化が社会問題となっており、健康寿命を長くするために様々な取り組みがなされています。健康的な生活を一生を送るために、運動は大事です。生涯スポーツでは、健康づくりのための運動、生活の楽しみとしての運動を実践することを目標とします。スポーツから各種目のスキルだけでなく、マナー・ルールを身に付け、コミュニケーション能力・協調性・課題克服力などを学ぶこと。

#### 授業計画

第1回	体力レベル確認、基本的なトレーニング
第2回	卓球（1）基本的なストローク
第3回	卓球（2）ダブルスのルール
第4回	卓球（3）総当たり戦
第5回	卓球（3）総当たり戦
第6回	バドミントン（1）基本的なストローク
第7回	バドミントン（2）ダブルスのルール
第8回	バドミントン（3）リーグ戦
第9回	バドミントン（4）リーグ戦
第10回	バドミントン（4）リーグ戦
第11回	バスケットボール 個人技能の獲得
第12回	バスケットボール 3on3
第13回	バスケットボール
第14回	バレーボール（1）個人技能の獲得
第15回	バレーボール（1）個人技能の獲得

#### 教材・テキスト・参考文献等

必要な資料は授業で適宜配布します

#### 成績評価方法

- ・出席態度（回数含む）30%（欠席3回で不可）。
- ・受講姿勢 50%
- ・スポーツへのマナー・ルールの理解、個人技能の向上度20%

#### 実務経験

南山大学勤務、体育の講師経験約15年（テニス・卓球・バスケ・バレーボール）、公財）スポーツ医科学研究所（愛知県）研究員25年勤務、健康運動指導士、体育学修士の経験に基づいて講義を実施予定。

#### その他

- ・能動的に受講することが求められる授業です。積極性を欠いた態度の場合は減点あるいは不可となります。
- ・履修者数を30名程度とします。最後まで履修する意思を必要とします。
- ・実技にふさわしい服装（スポーツウェア、髪型、爪などを含む）とシューズを着用すること。
- ・授業計画に挙げた運動種目は受講者の人数や体力レベルに応じて適宜変更します。
- ・心身の問題や不安、またはその経歴がある場合は、必ず学生部に事前相談すること。そして受講することになった場合、授業担当者にその旨を伝えること

講義科目 : 生命科学	単位数 : 2
マークシート略 : [生命科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 狩野 幹人	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・生命科学 (Life Science) は、21世紀の科学技術を担う重点分野の1つである。2003年、ヒトの遺伝子の解読が終了したが、「いのち」の仕組みの全てが解明されたわけではない。また、環境問題、生物の多様性等を考えるうえでも、生物学の知識が必要となる。本講義では、生物の基本構造である「細胞」と「細胞」内に存在する「分子」に焦点をあてる。
- ・「細胞」内の「分子」のうち、とくにタンパク質を中心とした機能・役割、細胞から多細胞生物個体への展開、細胞間の情報交換についても解説を加え、生物学の基本的な枠組みを理解することを目標とする。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス (科学、自然科学における生命科学)
- 第2回 細胞の構造
- 第3回 細胞の形質、機能
- 第4回 細胞の活動
- 第5回 タンパク質の役割
- 第6回 多細胞生物への展開 (1)
- 第7回 多細胞生物への展開 (2)
- 第8回 免疫システム (1)
- 第9回 免疫システム (2)
- 第10回 免疫システム (3)
- 第11回 細胞の再生と死
- 第12回 環境の認識、調節
- 第13回 生物の進化と多様性、生物多様性条約とは
- 第14回 生命科学と知的財産 (1)
- 第15回 生命科学と知的財産 (2)

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 (第3版)、和田勝、羊土社 (2015)」を教科書として用いる。また必要な補足資料を、講義の中で随時配布する。
- ・参考文献としては、生命科学については「分子生物学講義中継、井出利憲、羊土社」シリーズが挙げられる。知的財産については「産業財産権標準テキストー総合編ー、特許庁発行」や「産業財産権標準テキストー特許編ー、特許庁発行」等が挙げられる。その他、参考文献については、講義の中で随時紹介する。

#### 成績評価方法

- ・毎回出席をとる。出席率70%以上を評価の対象とする。
- ・出席率およびレポート (2回を予定) により評価する。

講義科目 : 自然と科学	単位数 : 2
マークシート略 : [自然科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 松井 博和	

#### 講義の内容・方法および到達目標

身近な生活の中で体験したり、利用したりする自然現象や科学技術を理解してもらう。その中で、いわゆる理系の人でも知らないようなことも織り交ぜ簡単な説明や実験器具をみてもらい理解してもらう。講義の進め方は、授業内に計算問題を主とするレポートを毎回実施し、主体的に問題理解に取り組めるようにする。また、ニュースなどで科学に関して取り上げられれば、適宜授業に取り込む。

#### 授業計画

- 第1回 長さ、速さ、時間などの単位と定義について
- 第2回 天体（地球と月と太陽）について
- 第3回 天体（恒星と惑星）について
- 第4回 機械機構（車輪）について
- 第5回 電気（電流・電圧）について
- 第6回 電気（電力量と生活）について
- 第7回 音（周波数・音量・デシベル）について
- 第8回 音（音声）について
- 第9回 光と色について（物理的説明）
- 第10回 光と色について（科学的利用）
- 第11回 生命と遺伝について
- 第12回 人工知能について
- 第13回 私の研究紹介
- 第14回 天体（宇宙と科学）について
- 第15回 自然と科学について

#### 教材・テキスト・参考文献等

教材・テキスト等は特になく、授業中に用いたプレゼン資料をネット上で取得できるようにする。

#### 成績評価方法

毎回の授業中にレポートを書いてもらい 50 点満点の出席点とする（ただし、レポートを 7 回以上提出しない場合は成績を不可とする）。期末試験を 50 点満点とする。

出席点と期末試験の点数の合計 100 点を用いて成績評価をする。

講義科目 : 情報と科学	単位数 : 2
マークシート略 : [情報科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	

### 講義の内容・方法および到達目標

情報科学から生み出された技術により、人間の生活は大きく変化している。特に、コンピュータの出現は、人間の暮らしを劇変させた。コンピュータの歴史や仕組みを学び、日常的に利用している情報技術の中身を理解することで、情報技術を高度かつ的確に利用できるようになることを本講義の到達目標とする。

ITパスポート試験、及び、基本情報技術者試験対策となるように配慮する。

### 授業計画

- 第1回 コンピュータの歴史
- 第2回 コンピュータの構成
- 第3回 情報の表現1 (2進数)
- 第4回 情報の表現2 (16進数、文字コード)
- 第5回 論理回路
- 第6回 ネットワーク1 (LANとWAN、無線LAN)
- 第7回 ネットワーク2 (ネットワーク機器、TCP/IP)
- 第8回 ネットワーク3 (WWW、電子メール)
- 第9回 データベース
- 第10回 アルゴリズムとデータ構造1
- 第11回 アルゴリズムとデータ構造2
- 第12回 プログラミング演習1 (変数、データ型)
- 第13回 プログラミング演習2 (if文、for文、while文)
- 第14回 プログラミング演習3 (応用)
- 第15回 期末試験、まとめ

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書は使用しない予定
- ・適宜プリント等を配布

### 成績評価方法

- ・期末試験を実施する。50%程度成績に反映させる。
- ・小テストを毎回実施する。40%程度成績に反映させる。
- ・出席を取り、10%程度成績に反映させる。
- ・5回以上欠席した場合は、単位認定しない。

### その他

小テストを毎回実施するので、小テストを通して講義時間外でも復習するように。

講義科目 : 情報と社会	単位数 : 2
マークシート略 : [情報社会]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	

#### 講義の内容・方法および到達目標

本講義は、現在の情報社会で求められる「情報に関する知識」と「情報倫理」を習得することを到達目標とする。また、以下の三つの内容で構成されている。

一つ目は、情報倫理・リテラシに関することである。近年、ITの発達により、社会の生活様式は大きく変化し、誰もが簡単に情報を取得・発信できる世の中になっている。その一方で、個人情報流出、ネット上での誹謗中傷・不法行為などの新たな問題が発生している。このような社会で、他人の権利を侵すことなく、互いが快適に過ごす方法を解説する。

二つ目は、言語処理技術に関することである。現在、インターネット上を中心に、多くの言語データが蓄積されており、それらのデータに対して、言語処理技術を活用することで、多くのサービスが提供され、人々に利用されている。講義では、言語処理技術を用いたシステムの仕組みを紹介する。

三つ目は、情報処理システムに関することである。情報処理システムの開発・管理の仕組みを紹介する。

#### 授業計画

- 第1回 インターネット概論
- 第2回 ネットワーク利用におけるマナー
- 第3回 個人情報とプライバシー
- 第4回 電子商取引
- 第5回 知的財産権・メディアリテラシ
- 第6回 ネットワーク不法行為
- 第7回 情報技術とセキュリティ
- 第8回 情報倫理とリテラシ
- 第9回 言語処理技術（文字コード、形態素解析）
- 第10回 言語処理技術（構文解析、意味解析）
- 第11回 言語処理技術を用いたシステム（機械翻訳）
- 第12回 言語処理技術を用いたシステム（対話システム、情報検索）
- 第13回 システム開発とマネジメント
- 第14回 システム構成と故障対策
- 第15回 まとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書：大島他「ケースで考える情報社会」【第2版】 三和書籍

#### 成績評価方法

出席をとる。結果を10%程度成績評価に反映させる。ただし、出席率が著しく悪い場合（1/3程度以下）は評価対象外とし、単位を認定しない。

毎回、課題を課す予定。その結果を90%程度成績評価に反映させる。



講義科目 : 情報処理実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 森田 賢太	

#### 講義の内容・方法および到達目標

現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

#### 授業計画

- 第1回 導入、コンピュータリテラシー
- 第2回 コンピュータの基本操作
- 第3回 Wordの基礎(1)
- 第4回 Wordの基礎(2)
- 第5回 Wordの基礎(3)
- 第6回 Wordの基礎(4)
- 第7回 演習 Wordのまとめ
- 第8回 Excelの基礎(1)
- 第9回 Excelの基礎(2)
- 第10回 Excelの基礎(3)
- 第11回 Excelの基礎(4)
- 第12回 演習 Excelのまとめ
- 第13回 資料を作る際の心構え(1)
- 第14回 資料を作る際の心構え(2)
- 第15回 総合演習

#### 教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』noa出版、2016  
ISBN978-4-908434-17-4

#### 成績評価方法

成績は、課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は、課題あわせて40点程度、演習はそれぞれ20点程度である。

#### その他

コンピュータの操作は、本を読んだだけでは修得できない。そのため、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は、この点に留意すること。

講義科目 : 情報処理実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 真田 耕輔	

#### 講義の内容・方法および到達目標

現在、コンピュータの操作は必須技術であり、職場等ではコンピュータを利用した書類や資料作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel, PowerPoint)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

#### 授業計画

第1回	導入、コンピュータリテラシー
2回	コンピュータの基本操作
3回	Wordの基礎(1): 基本操作
4回	Wordの基礎(2): 表の作成
5回	Wordの基礎(3): 図の挿入
6回	Wordの基礎(4): Wordを用いたレポート作成
7回	演習 Wordのまとめ
8回	Excelの基礎(1): 基本操作
9回	Excelの基礎(2): 関数の使い方
10回	Excelの基礎(3): 図の作成
11回	Excelの基礎(4): データベース
12回	演習 Excelのまとめ
13回	資料を作る際の心構え、Power Point実習
14回	Power Pointを用いたプレゼンテーション実習
15回	総合演習

#### 教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』noa出版、2016  
ISBN978-4-908434-17-4

#### 成績評価方法

成績は、課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は、課題あわせて40点程度、演習はそれぞれ20点程度である。

#### その他

コンピュータの操作は、本を読んだだけでは取得できず、実際に自分で手を動かして慣れることが大事である。そのため、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合はこの点に留意すること。

講義科目	: 情報処理実習 I	単位数	: 1
マーケット略	: [情報実 I]	学習形態	: 選択科目
担当	: 高瀬 治彦		

#### 講義の内容・方法および到達目標

現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

#### 授業計画

- 第1回 導入、コンピュータリテラシー
- 第2回 コンピュータの基本操作
- 第3回 Wordの基礎(1)
- 第4回 Wordの基礎(2)
- 第5回 Wordの基礎(3)
- 第6回 Wordの基礎(4)
- 第7回 演習 Wordのまとめ
- 第8回 Excelの基礎(1)
- 第9回 Excelの基礎(2)
- 第10回 Excelの基礎(3)
- 第11回 Excelの基礎(4)
- 第12回 演習 Excelのまとめ
- 第13回 資料を作る際の心構え(1)
- 第14回 資料を作る際の心構え(2)
- 第15回 総合演習

#### 教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』 noa出版、2016  
ISBN978-4-908434-17-4

#### 成績評価方法

成績は、課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は、課題あわせて40点程度、演習はそれぞれ20点程度である。

#### その他

コンピュータの操作は、本を読んだだけでは修得できない。そのため、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は、この点に留意すること。

講義科目 : 情報処理実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	

### 講義の内容・方法および到達目標

現在、あらゆる場面でコンピュータの利用が欠かせなくなっている。そのコンピュータについての基礎知識を習得することを到達目標に指導する。

特に、実際のアプリケーションソフト（Word, Excel, PowerPoint）を利用した課題に取り組むことで、パソコンの使用方法の基礎を習得できるよう指導する。

### 授業計画

- 第1回 実習室の利用方法とコンピュータの基本操作
- 第2回 Word の基礎 1（各部の名称）とタイピング練習
- 第3回 Word の基礎 2（ページ設定、文書入力、スタイル、脚注）
- 第4回 Word の基礎 3（表の作成、SmartArtグラフィック）
- 第5回 Word の基礎 4（図の作成、ヘッダーとフッター）
- 第6回 Word の基礎 5（段組み、数式）
- 第7回 Excel の基礎 1（入力方法、オートフィル、書式設定）
- 第8回 Excel の基礎 2（絶対参照、関数、グラフ）
- 第9回 Excel の基礎 3（表計算の応用）
- 第10回 PowerPointの基礎
- 第11回 最終課題作成 1
- 第12回 最終課題作成 2
- 第13回 最終課題作成 3
- 第14回 最終課題発表
- 第15回 まとめ

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書については、第1回の講義で指示する。

### 成績評価方法

出席を毎回取り、成績評価に加味する。各課題の配点と出席点は下記のとおりである。

- Word課題：15点程度
- Excel課題：20点程度
- PowerPoint課題：10点程度
- 最終課題：40点程度
- 出席：15点程度

### その他

- ・実習の講義は欠席するとついていけなくなります。欠席しないように。
- ・パソコンに不慣れな人は、講義の予習と復習を積極的にするように。
- ・パソコンに習熟した人は、追加の課題に取り組んだり、周りの人に教えたりすることで、さらに理解を深めるように。

講義科目 : 情報処理実習Ⅱ	単位数 : 1
マークシート略 :〔情報実Ⅱ〕	学習形態 : 選択科目
担当 :	

後日揭示

講義の内容・方法および到達目標

授業計画

- 第1回
- 第2回
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

教材・テキスト・参考文献等

成績評価方法

その他

講義科目 :心理学	単位数 :2
マークシート略 :〔心理学〕	学習形態 :選択科目
担当 :高橋 彩	

#### 講義の内容・方法および到達目標

心理学は一般に生活体（人や動物）の行動の科学と言われている。行動は人の内的要因とその人がおかれている環境的要因によって決まるが、こうした行動を引き起こすような心の仕組みや働きを科学的に明らかにし、人間そのものの理解を目指す学問が心理学といえる。心理学には、認知心理学、教育心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など多くの分野がある。

この講義では、心理学の各分野の基本的概念について紹介することで、受講生が、人間の行動や心の働きについて、心理学的な視点から理解できることを目指す。

#### 授業計画

- 第1回 心理学とはどのような学問か
- 第2回 知覚（大きさの恒常性、錯視）
- 第3回 学習（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習）
- 第4回 記憶（短期記憶、長期記憶）
- 第5回 動機づけ（内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己効力）
- 第6回 感情（感情の機能、ストレス）
- 第7回 パーソナリティ（パーソナリティの調べ方）
- 第8回 知能（知能検査とIQ）
- 第9回 思考（推論、ヒューリスティックス）
- 第10回 発達（社会性の発達）
- 第11回 対人認知（印象形成、対人魅力）
- 第12回 集団（社会的促進、同調、態度変容）
- 第13回 臨床 精神的健康（気分障害）
- 第14回 心理学の応用（法、スポーツ、産業・組織）
- 第15回 まとめと最終試験

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキスト 二宮克美（編著）2017 ベーシック心理学第2版 医歯薬出版  
ISBN978-4-263-42223-6

#### 成績評価方法

試験70%と授業内での課題レポート30%で評価する。

講義科目 : 環境論	単位数 : 2
マークシート略 : [環境論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有哲	

#### 講義の内容・方法および到達目標

環境問題は今日、人類が直面する最重要課題のひとつであるとみなされるに至っている。本講義の目的は、生物多様性、地球温暖化、核エネルギーという3つの大きなテーマについて概観することである。

#### 授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 地球温暖化のメカニズム
- 第3回 地球温暖化がもたらすもの
- 第4回 懐疑論について
- 第5回 地球温暖化にどう対応すべきなのか
- 第6回 核分裂と核融合
- 第7回 核分裂発電の仕組み
- 第8回 核エネルギー生産の利点と難点①
- 第9回 核エネルギー生産の利点と難点②
- 第10回 日本はなぜ「原発列島」と化したのか
- 第11回 生物多様性とは何か
- 第12回 生物多様性はなぜ大事なのか
- 第13回 生物多様性破壊の現状と背景①
- 第14回 生物多様性破壊の現状と背景②
- 第15回 試験とまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義中に適宜指示する

#### 成績評価方法

- ・ 毎回小レポート…50%
- ・ 試験…50%

講義科目 : 教育の基礎理論	単位数 : 2
マークシート略 : [教育基礎]	学習形態 : 選択科目
担当 : 大日方 真史	

#### 講義の内容・方法および到達目標

教育の営みの現在を深く理解し、課題を理論的に発見・把握できるようになることを目標に、教育の基礎となる諸理論を取り上げる。  
対話的な講義方法を採用する。

#### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人間の発達と教育の意義
- 第3回 社会における教育の意義
- 第4回 学校という場所（1）
- 第5回 学校という場所（2）
- 第6回 子どもの生活と学校教育
- 第7回 学習と学力
- 第8回 学習権と参加権
- 第9回 教師の役割・地位・責任
- 第10回 子ども理解とケア
- 第11回 教育権
- 第12回 教育制度
- 第13回 家庭・地域と学校
- 第14回 教育改革の展開
- 第15回 まとめ（レポート提出を含む）

#### 教材・テキスト・参考文献等

適宜資料を配布する。

#### 成績評価方法

平常点（活動への参加、提出物）40%、レポート60%



講義科目 : 発達と学習	単位数 : 2
マークシート略 : [発達学習]	学習形態 : 選択科目
担当 : 高橋 彩	

#### 講義の内容・方法および到達目標

人間の生涯にわたる発達を規定する要因と、学習、記憶、動機づけなど人間の認知について解説する。また、発達と学習の分野における重要な理論を提唱した理論家についても紹介する。受講者が、人の認知活動や発達に関する心理学の基本的な概念を理解し、自分自身の学びに生かすことが出来るようになることを目標とする。

#### 授業計画

- 第1回 発達と学習に関する理論
- 第2回 ピアジェの認知発達（1）感覚運動期、前操作期
- 第3回 ピアジェの認知発達（2）具体的操作期、形式的操作期
- 第4回 行動発達と遺伝（1）行動遺伝学とは
- 第5回 行動発達と遺伝（3）遺伝と環境の相互作用
- 第6回 脳と行動発達（1）可塑性 ニューロンとシナプス
- 第7回 脳と行動発達（2）ミラーニューロンと自閉スペクトラム症
- 第8回 学習理論（パブロフ、スキナー、バンデューラ）
- 第9回 ワトソンの行動主義とプログラム学習
- 第10回 試行錯誤学習、洞察学習、潜在学習
- 第11回 人間の記憶（1）短期記憶と長期記憶
- 第12回 人間の記憶（2）スキーマとメタ記憶
- 第13回 動機づけ 目標理論
- 第14回 自己効力と自尊感情
- 第15回 まとめと最終試験

#### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。必要な資料は講義内で配布する。

#### 成績評価方法

試験70%と授業内の課題レポート30%で評価する。

講義科目 :生涯学習論	単位数 :2
マークシート略 :〔生涯学習〕	学習形態 :選択科目
担当 :長島 洋	実務経験 :有

### 講義の内容・方法および到達目標

生涯学習は、生まれたときから死ぬときまでのながいスパンのなかで、学びを通して人と人がつながり、その学んだ成果を地域に活かしあい、それを評価しあう、そんな社会の実現に向けて取り組むものです。学んだ成果をどうやって社会に還元していくか それをテーマに講義を進めます。

だれもが、いつでも、生涯をとおして学ぶことにより、自分の生活や人生感が豊かになり、その学んだ力、成果を地域や学校、職場でどのように活かしていくかを学習します。特に、三重県を中心に自分のふるさとの課題解決にむけた生涯学習のあり方を、学びあい、実際の活動へとつながるよう学習します。

具体的には、生涯学習概論をはじめに学び、後半には、三重県内等のふるさともを見つめ直し、課題を考え、その課題解決にむけた生涯学習プログラムを立案、企画してもらいます。ふるさとや三重が輝けるよう進めていきます。

### 授業計画

- ① 生涯学習の意義と生涯学習社会の構築
- ② 生涯学習・社会教育行政の展開
- ③ 生涯学習・社会教育指導者の役割
- ④ 地域社会と生涯学習の実際 事例研究
- ⑤～⑧自分たちの住んでいる（ふるさと・三重県等）まちでの実際の生涯学習事例を集め研究します。また、課題を解決するための方策を考えます。
- ⑨ 三重県内生涯学習関連施設の実際
- ⑩ 学社融合（学校教育と社会教育の融合）学校支援と生涯学習
- ⑩ 人権教育と生涯学習
- ⑪ 家庭教育と生涯学習
- ⑫～ ふるさとの地域課題解決に向けた生涯学習プログラム立案
- ⑬ 地域課題解決のための生涯学習プログラムの企画・立案・評価

### 教材・テキスト・参考文献等

その都度、資料を配布します。  
参考文献は講義中紹介。

### 成績評価方法

毎回小レポート提出60%、生涯学習プログラム立案・発表等40%による出席重要視。毎回レポートが得点に。レポートは必ず授業の最後に回収。4回以上欠席は評価の対象外。つまり無効になります。

### 実務経験

生涯学習・社会教育分野において、三重県教育委員会・文部科学省・三重県生涯学習センターにおいて15年勤務。現在、三重県生涯学習センターにおいて所長をしている。国立社会教育研修所において、指導主事として、全国生涯学習・社会教育行政職員等に指導及び助言。社会教育主事の資格も有しており、研修講師として実績がある。

### その他

自分のまち・三重県内の生涯学習イベント事業に関心をもって資料等を集めてください。

講義科目 : 差別と人権	単位数 : 2
マークシート略 : [差別人権]	学習形態 : 選択科目
担当 : 上田 浩	

#### 講義の内容・方法および到達目標

現代社会において重視されるようになってきた基本的人権の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようなになっているのか、等の問題です。労働者の企業での無権利状態、男女差別などの人権をめぐる現状についても考えたいと思います。

基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ることによって人権の普遍的な意味を考えたいと思います。さらに、日本国憲法や世界人権宣言、子どもの権利条約の内容について理解を深め、現代社会での生存権、労働権、教育権をめぐる人権の実態などを検討していきたいと思ひます。

#### 授業計画

- 第1回 現代社会と人権：授業概説
- 第2回 近代的人権の成立の歴史
- 第3回 ロックの人権思想
- 第4回 近代的人権の特徴と課題
- 第5回 近代的人権の問題点
- 第6回 人権の拡張の過程
- 第7回 基本的人権と日本国憲法
- 第8回 現代的人権の諸問題
- 第9回 職場における人権
- 第10回 ワーキング・プアを考える
- 第11回 男女賃金格差の現状
- 第12回 DVと女性の権利
- 第13回 不登校・いじめと子どもの権利
- 第14回 児童虐待と社会
- 第15回 まとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しません。授業時にプリントを配布します。  
参考文献については授業時に指示します。

#### 成績評価方法

レポート試験を行い、授業態度と出席率によって評価します。  
出席を重視し、授業内容について考えたことや意見を書いてもらいます。  
6回以上欠席した場合、評価の対象外とします。  
レポート試験60%、出席・意見などの平常点40%

講義科目	:ジェンダー論	単位数	:2
マークシート略	:〔ジェンダ〕	学習形態	:選択科目
担当	:松田 いりあ		

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・この授業では、ジェンダーに関わる私たちの一般的な認識が、一定の歴史的社会的条件下で定着したものであること、またその認識が世代を越えて伝えられる仕組みを、国内外の事例とともに解説する。
- ・授業は基本的に講義形式で行うが、随時、授業内課題を実施し、提出された課題をもとに、受講生とともに考える機会を設ける。
- ・この授業では、受講生が現在のジェンダーをめぐる課題を理解するだけでなく、社会生活全般においてジェンダーに関心を持つことが目標になる。

#### 授業計画

- 第1回 はじめに：この授業の概要の説明
- 第2回 ジェンダーとは(1)
- 第3回 ジェンダーとは(2)
- 第3回 社会化(1)
- 第4回 社会化(2)
- 第5回 家族(1)
- 第6回 家族(2)
- 第7回 社会史とジェンダー
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 社会階級・階層とジェンダー
- 第10回 アンペイド・ワーク
- 第11回 メディアとジェンダー
- 第12回 サブカルチャーとジェンダー
- 第13回 身体とジェンダー(1)
- 第14回 身体とジェンダー(2)
- 第15回 まとめ：この授業をふりかえって

#### 教材・テキスト・参考文献等

使用しない。授業中に適宜指示する。

#### 成績評価方法

レポート70%、授業内課題30%

#### その他

成績評価の対象者になるためには、規定の出席回数を満たす必要がある。

講義科目 : 歴史学	単位数 : 2
マークシート略 : [歴史学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 望月 秀人	

#### 講義の内容・方法および到達目標

西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思ひます。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大航海時代と世界の一体化
- 第3回 「宗教戦争」と「世俗化」
- 第4回 封建制から「絶対王政」へ
- 第5回 「絶対王政」の意義と限界
- 第6回 出版資本主義と啓蒙
- 第7回 「市民革命」と近代国家
- 第8回 ナショナリズムと国境問題
- 第9回 工業化とその影響
- 第10回 第一次世界大戦の衝撃
- 第11回 大恐慌の時代
- 第12回 ファシズムの脅威
- 第13回 第二次世界大戦
- 第14回 社会主義と冷戦
- 第15回 グローバル化とその課題

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にしてください。ただ、山川出版社の高校世界史教科書程度のものは持っていた方が良いでしょう。

#### 成績評価方法

試験60%、レポート40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。5回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。

#### その他

言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにしてください。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにしてください。

講義科目 : 地理学(地誌を含む)	単位数 : 2
マークシート略 : [地理学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山崎 智博	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 私たちが生活している地域はそれぞれが様々な特徴を持っています。本講義ではそうした地域がどのようにして形成されてきたかをみていくことにより、地域の特徴や抱えている問題を考えていけることを目標にします。

#### 授業計画

- ・ 1つのテーマを2回の授業で扱う予定です。ただし、地図や映像資料等を扱うので授業進行の速度は調整することもあります。

- 第1回 地域・都市の形成(ガイダンス)
- 第2回 明治維新と都市の近代化
- 第3回 市区改正と都市計画法の制定①
- 第4回 市区改正と都市計画法の制定②
- 第5回 関東大震災復興都市計画①
- 第6回 関東大震災復興都市計画②
- 第7回 戦時期の都市・地域①
- 第8回 戦時期の都市・地域②
- 第9回 戦災復興都市計画①
- 第10回 戦災復興都市計画②
- 第11回 現代地域開発政策の展開①
- 第12回 現代地域開発政策の展開②
- 第13回 地域の現状と課題①
- 第14回 地域の現状と課題②
- 第15回 まとめ(筆記試験)

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・ テキストは使用しません。
- ・ 参考文献はその都度紹介しますが、以下に2冊挙げておきます。  
藤井正・神谷浩夫編著「よくわかる都市地理学」ミネルヴァ書房 2014年  
平岡昭利・野間晴雄編「近畿Ⅰ 地図で読む百年」古今書院 2006年

#### 成績評価方法

- ・ 出席は毎回取ります。
- ・ 最終授業時に試験を行います。
- ・ 試験(85%)・出席(15%)を基準に判断します。

#### その他

- ・ 地図、写真、映像等を適宜使用する予定です。
- ・ 津市など三重県に関する内容も折に触れ取り上げる予定です。

講義科目 : 哲学	単位数 : 2
マークシート略 : [哲学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 吉本 陵	

#### 講義の内容・方法および到達目標

二十世紀後半になって急速に発展してきた医療技術によって、私たちは生と死の意味について再考する必要に迫られている。本講義では、生命倫理学ないし医療倫理学の基本的な論点を学び、そこから浮かび上がる私たちの生と死の意味の問題を哲学的に考察する。授業は講義形式で行い、上記の論点について自ら論述できるようになることを目標とする。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス&イントロダクション
- 第2回 哲学的・倫理的なもの考え方 (I)
- 第3回 哲学的・倫理的なもの考え方 (II)
- 第4回 生命倫理学の成立とその背景 (I)
- 第5回 生命倫理学の成立とその背景 (II)
- 第6回 インフォームドコンセントと自己決定の問題 (I)
- 第7回 インフォームドコンセントと自己決定の問題 (II)
- 第8回 インフォームドコンセントと自己決定の問題 (III)
- 第9回 ケアの倫理――「尊厳死」をめぐるいのちの対話 (I)
- 第10回 ケアの倫理――「尊厳死」をめぐるいのちの対話 (II)
- 第11回 ケアの倫理――「尊厳死」をめぐるいのちの対話 (III)
- 第12回 脳死の倫理的問題 (I)
- 第13回 脳死の倫理的問題 (II)
- 第14回 脳死の倫理的問題 (III)
- 第15回 全体の総括

#### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。

#### 成績評価方法

最終回に行う論述形式の試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。五回以上の欠席が認められた場合には評価の対象外とする。

#### その他

各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。

講義科目 : 文学 I	単位数 : 2
マークシート略 : [文学 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

#### 講義の内容・方法および到達目標

この講義では有名なヨーロッパの文学作品を取り上げます。時代も国も我々がいる日本からは遠く離れたところで書かれた作品ですが、そこに描かれる人間の姿は今の我々にも通じる部分が多々あると思います。とはいえ、何の手掛かりもなく読んでもピンとこない部分も出てくると思いますので、適宜画像や音声などの資料も使い、作者、当時の社会背景、文化など、周辺の事柄も視野に入れつつ文学作品を味わう上での要点を示していきたいと思います。

文学作品に親しみ、読んだ作品に対する感想や意見などを自分の言葉で表現できるようになることがこの授業の目標です。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 シェイクスピア『ロミオとジュリエット』①
- 第3回 『ロミオとジュリエット』②
- 第4回 『ロミオとジュリエット』③
- 第5回 『ロミオとジュリエット』④
- 第6回 シェイクスピアの喜劇『夏の夜の夢』①
- 第7回 『夏の夜の夢』②
- 第8回 『夏の夜の夢』③
- 第9回 民衆本の世界『ティル・オイレンシュピーゲル』
- 第10回 伝説と文学① 民衆本『ファウスト博士』
- 第11回 伝説と文学② モリエール『ドン・ジュアン』
- 第12回 文学作品とオペラ① メリメ『カルメン』
- 第13回 文学作品とオペラ② デュマ・フィス『椿姫』①
- 第14回 『椿姫』②
- 第15回 前期まとめ、テスト

\* 取り上げる作品、順序などは変更する場合があります。

#### 教材・テキスト・参考文献等

使用する資料は授業開始前に教室前方に置いておくので各自取ってください。

#### 成績評価方法

- ・学期末に800～1000字程度の小論文のテストを行い、その内容で成績評価をします。テーマは事前に通知します（6月半ばに通知予定）。
- ・出席が全授業の3分の2に満たない場合は成績評価の対象外となります。自分の欠席回数は各自で把握しておいてください。
- ・毎回作品に関連する課題コメント（100～200字程度）を書いて提出してもらい、それで出席の確認をします（授業時に教室にいてもコメントを提出しなければ欠席扱いとなります）。出席状況による成績の減点・加点はしません。

#### その他

講義を聴くだけでなく、作品を自分でも読んで味わってください。



講義科目 : 文学Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [文学Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

#### 講義の内容・方法および到達目標

この講義では18世紀から20世紀のドイツ文学の作品を取り上げます。難しそうに感じるかもしれませんが、文学の読み方に決まりや正解はありません。等身大で読めばよいのです。とはいえ、古い作品では手掛かりなしでは良く分からないことも出てくると思いますので、随時画像や音声などの資料も使って作者、当時の社会背景、文化など、作品以外の事柄も視野に入れて説明し、文学作品を味わう糸口を示していきたいと思えます。

文学作品に親しみ、読んだ作品に対する感想や意見などを自分の言葉で表現できるようになることがこの授業の目標です。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ゲーテ『魔王』
- 第3回 ゲーテ『若きウェルテルの悩み』①
- 第4回 『若きウェルテルの悩み』②
- 第5回 ゲーテ『ファウスト』第1部①
- 第6回 『ファウスト』第1部②
- 第7回 「グリム童話」
- 第8回 シャミッソー『影をなくした男』
- 第9回 ホフマン『砂男』
- 第10回 シュピーリ『ハイジ』
- 第11回 カフカ『変身』
- 第12回 ジュースキント『コントラバス』
- 第13回 シュリンク『朗読者』①
- 第14回 『朗読者』②
- 第15回 まとめ、テスト

\* 取り上げる作品、順序などは変更する場合があります。

#### 教材・テキスト・参考文献等

使用する資料は授業開始前に教室前方に置いておくので各自取ってください。

#### 成績評価方法

- ・学期末に800～1000字程度の小論文のテストを行い、その内容で成績評価をします。テーマは事前に通知します（12月半ばに通知予定）。
- ・出席が全授業の3分の2に満たない場合は成績評価の対象外となります。自分の欠席回数は各自で把握しておいてください。
- ・毎回作品に関連する課題コメント（100～200字程度）を書いて提出してもらい、それで出席の確認をします（授業時に教室にいてもコメントを提出しなければ欠席扱いとなります）。出席回数による成績の減点・加点はしません。

#### その他

- ・講義を聴くだけでなく、自分で作品を読んで味わってください。
- ・「文学Ⅰ」を履修していなくても受講可能です。

講義科目 : 美学	単位数 : 2
マークシート略 : [美学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 岡野 智子	

### 講義の内容・方法および到達目標

日本の調度や衣装には、古来様々な意匠=デザインが施されてきた。それらは四季折々の身近な花鳥風月をはじめ、物語や和歌などの古典文学、また歌舞伎などの芸能とも深い関わりをもつ。本講義では日本の美意識を象徴する意匠の成立と展開につき、主に絵画や工芸品を通じて多方面から考察する。今日も見出される伝統的な意匠の意義を知ることは、個性的な表現を求められる現代においてこそ深い示唆となり得よう。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・日本美術の成立1（縄文～平安）
- 第2回 日本美術の成立2（平安～江戸）
- 第3回 吉祥の意匠―福を招く図様―
- 第4回 桜の意匠―桜への想いとその表象―
- 第5回 涼を呼ぶ意匠―実用と装飾の出会い―
- 第6回 秋を彩る意匠―情趣と洗練の美―
- 第7回 冬を楽しむ意匠―雪の姿さまざま―
- 第8回 五節句1―邪を祓い季節を楽しむ―
- 第9回 五節句2―邪を祓い季節を楽しむ―
- 第10回 月次の花鳥と行事―歌絵の広がり―
- 第11回 伊勢物語の意匠―燕子花と問えば―
- 第12回 源氏物語の意匠―留守模様遊ぶ―
- 第13回 歌舞伎の意匠―粹と飾りの美意識―
- 第14回 動物の意匠―霊獣からペットまで―
- 第15回 渡来の意匠―憧れの南蛮ファッション―

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。参考文献は『日本の意匠』、『続日本の意匠』シリーズ（京都書院）、『日本の文様』シリーズ（小学館）、『カラー版 日本美術史』（美術出版社）、『すぐわかる日本の美術』（東京美術）他。

### 成績評価方法

出欠票を兼ね、毎回講義で触れた作品の中から1点を選びコメント提出を求める。受講者は提出回数が原則として10回以上の者のみ④の提出資格が得られる。

評価は①出席点25% ②コメント内容の評価25% ③事前事後の自己学習として全国各地の展覧会等の見学レポートの提出25% ④レポート（②・③を応用した独自の展覧会企画案）25%

### その他

日本で育まれてきた美意識や伝統の背景にある多様な文化。その成立と魅力を知ることが即ち自身を知ることと気づき、豊かな人間性の構築に役立ててほしい。授業の予習復習として、各自で美術館・博物館等で実作品を鑑賞し、見る目を養うこと。さらに展覧会カードに感想をまとめ、提出することを強く推奨する。

講義科目 : 比較文化論	単位数 : 2
マークシート略 : [比較文化]	学習形態 : 選択科目
担当 : 竹添 敦子	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 西欧と日本を比較しながら、身近な文化現象を再考し、その背後にあるものとの見え方、考え方の違いを探ります。本年度は「視線・境界」を軸に東西文化を比較します。
- ・ 当たり前だと思っている現象も、歴史をさかのぼると興味深い事実が見えてきます。また私たちの「常識」について、一度立ちどまってみると、思いもかけない発見があります。こういったことを確認するために、毎回映像を観て講義内容を要約し、自分の意見をまとめるレポートを作成します。
- ・ 「伝統」や「慣習」のことで片づけられていた現象を再検討し、西欧の文化、日本の文化について自分なりの考えを導き出すことが目標です。

#### 授業計画

第 1回 文化を比較するとはどういうことか	第 9回 日本の境界 (曖昧・引き算)
第 2回 おとぎ話の比較 (日本の昔話)	第10回 西欧の境界 (明確・足し算)
第 3回 おとぎ話の比較 (西欧の昔話)	第11回 日本の姿勢 (「座」を考える)
第 4回 文化の特徴を見つける (視線を通じ)	第12回 西欧の姿勢 (「立」を考える)
第 5回 日本の視線 (菓子の色彩など)	第13回 日本の道具 (「包む」文化)
第 6回 西欧の視線 (菓子の形など)	第14回 西欧の道具 (「入れる」文化)
第 7回 日本の視線 (陰影・間取りなど)	第15回 まとめと確認 (試験)
第 8回 西欧の視線 (光の意味)	

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・ 使用しません。
- ・ 毎回A4一枚にまとめたレジュメを配付し、それに基づいて講義を進めます。

#### 成績評価方法

- ・ 小レポート (毎回実施、70%) と最終試験 (論述式、30%) を基準に評価します。
- ・ 出席を重視します (毎回の小レポートによって出席の確認をします)。
- ・ 小レポートは採点 (5点満点) 後、返却します。講義開始前の教室に、コースごと、学籍番号順に並べていますので、各自受け取ってください。欠席した場合でも前回のレジュメを添付して並べています。
- ・ 5回以上欠席した場合、評価の対象外とします。4回休んだ時点で小レポートの氏名欄にイエローラインがはいります。5回休むとレッドラインとなります。レッドライン以降欠席があると無資格となります (まとめの最終試験を受けることはできません)。

講義科目 :英会話	単位数 :2
マークシート略 :〔英会話〕	学習形態 :選択科目
担当 :Jon Richards	

#### 講義の内容・方法および到達目標

This course is designed for beginner to low-intermediate students and will focus on spoken English. The goal of this course is to give students the opportunity to challenge their English ability in a positive environment while also building upon the fundamental skills of reading, hearing, and speaking. Basic grammar will be taught and reviewed over the duration of this course. Each unit of the textbook will be covered followed by a unit test to evaluate students progress.

Both individual and group projects will be assigned in this course.

**Students are expected to speak only English in this course!**

#### 授業計画

##### first semester

第1 - 2回 Introductions and orientation

第3 - 4回 Hello Everybody

第5 - 6回 Meeting people

第7 - 8回 The world of work

第9 - 10回 Take it easy!

第11 - 12回 Where do you live?

第13 - 14回 Can you speak English?

第15回 End of first semester test

##### second semester

第16 - 17回 Then and now

第18 - 19回 A date to remember

第20 - 21回 Food you like!

第22 - 23回 Looking Good!

第24 - 25回 Life is an adventure

第26 - 27回 Have you ever?

第28 - 29回 Have you ever?

第30回 End of second semester test

#### 教材・テキスト・参考文献等

American Headway 1 (2<sup>nd</sup> edition. ISBN 978-0-19-472945)

By Riz and John Soars (Oxford University Press)

#### 成績評価方法

Work in class - 50% Unit Tests - 30% Final Exam - 20%

#### その他

It is my experience that an active, positive atmosphere is necessary for learning to speak a new language. Students are expected to maintain a supportive atmosphere so that everyone may advance. Mistakes during class are not to be feared as they are part of the learning process.

講義科目 : 英語講読	単位数 : 2
マークシート略 : [英語講読]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村井 美代子	

#### 講義内容・方法および到達目標

- ・ビジネス心理学の観点から、職場で起こり得る様々な場面を想定して15のテーマにまとめたテキストを読む。各レッスンは読み切り形式で、350～450語程度にまとめられている。面接の心得や対人関係へのアドバイスなどの様々な処世術を、的確に把握できる読解力と語彙力を養う。
- ・各レッスンにはリーディング課題だけでなく、語彙やイディオムに関連する問題や、正答を音声で確認する問題、短い英文内容を速読で理解する問題なども用意されている。これまでの英語学習の基礎の上に、実践的な読み取り、聞き取りの力を身につけてほしい。

#### 授業計画

- ・1つの章を2回の授業で読了する予定。ただし、受講生の学習の進捗などによって、授業進行の速度は随時調整する。

第1回	オリエンテーション	第16回	社内で自分らしく
2回	Lesson 1	17回	Lesson 8
3回	ビジネス心理学とは何か?	18回	ギブ・アンド・テイク
4回	Lesson 2	19回	Lesson 9
5回	就職活動の心理学	20回	職場のゴシップ
6回	Lesson 3	21回	Lesson 10
7回	積極的な休暇のすすめ	22回	職場の仕切りたがり屋
8回	Lesson 4	23回	Lesson 11
9回	ロボットとともに働く	24回	行いの立派なのが立派な人
10回	Lesson 5	25回	Lesson 12
11回	会社は男社会①	26回	私の空間、あなたの空間
12回	Lesson 6	27回	Lesson 13
13回	会社は男社会②	28回	起業家になるためには
14回	Lesson 7	29回	Lesson 14 ブレインストーミングと情報化社会
15回	前期学習内容のまとめ	30回	後期学習内容のまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

『Mind Matters 社会で役立つビジネス心理』 (南雲堂)

#### 成績評価方法

- ・毎回出席をとる。
- ・前期最終授業時と後期最終授業時に試験を行う。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・成績は前後期試験を中心にして、出席状況や課題の提出状況、学習態度などから総合的に判断する。評価基準の目安は、試験：平常点 = 7 : 3

講義科目 : 総合英語	単位数 : 2
マークシート略 : [総合英語]	学習形態 : 選択科目
担当 : ドライデン いづみ	

#### 講義の内容・方法および到達目標

本講義ではテキストのTOEICテスト問題演習を通して、TOEICテストのスコアアップとスキルアップを目指す。

テキストのTOEIC問題を教材として、語彙力・文法・リスニング・リーディングを含む総合的な英語コミュニケーション、英語運用能力の向上を目標とする。授業方法としては、TOEIC頻出重要語句の意味・発音・品詞・文の構造の基礎力を養成し、TOEICテストのリスニング・リーディングの出題傾向に慣れ、各パートの攻略法を学ぶ。

#### 授業計画

第1回 Unit 1 : Listening	第16回 Unit 8 : Listening
第2回 Unit 1 : Reading	第17回 Unit 8 : Reading
第3回 Unit 2 : Listening	第18回 Unit 9 : Listening
第4回 Unit 2 : Reading	第19回 Unit 9 : Reading
第5回 Unit 3 : Listening	第20回 Unit 10 : Listening
第6回 Unit 3 : Reading	第21回 Unit 10 : Reading
第7回 Unit 4 : Listening	第22回 Unit 11 : Listening
第8回 Unit 4 : Reading	第23回 Unit 11 : Reading
第9回 Unit 5 : Listening	第24回 Unit 12 : Listening
第10回 Unit 5 : Reading	第25回 Unit 12 : Reading
第11回 Unit 6 : Listening	第26回 Unit 13 : Listening
第12回 Unit 6 : Reading	第27回 Unit 13 : Reading
第13回 Unit 7 : Listening	第28回 Unit 14 : Listening
第14回 Unit 7 : Reading	第29回 Unit 14 : Reading
第15回 Practice Test 1	第30回 Practice Test 2

#### 教材・テキスト・参考文献等

「一歩上を目指すTOEIC® LISTENING AND READING TEST: Level 1 - Basic- (STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST: Level 1- Basic- )」

北尾泰幸 / 西田晴美 / 林姿穂 / Brian Covert (著)

1,836円(本体1,700円+税)

朝日出版社 (ISBN: 978-4-255-15614-9)

#### 成績評価方法

40% Practice Test

40% 課題 (予習及び提出物)

20% 出席及び授業参加

#### その他

5回の授業欠席で失格となりますので注意すること。

テストの追・再試及び課題提出期限の延長はありません。

辞書は必携すること。

授業計画はクラスの進度によって変更することがあります。

講義科目 :独語Ⅱ	単位数 :2
マークシート略 :〔独語Ⅱ〕	学習形態 :選択科目
担当 :今本 幸平	

### 講義の内容・方法および到達目標

「独語Ⅰ」の単位を取得していることを前提に授業を行います。初めてドイツ語を学ぶ方は「独語Ⅰ」を受講して下さい。

「独語Ⅰ」で扱えなかった文法事項を学習した後、やや発展的な教材（簡単な読み物、検定試験対策問題など）を用いて、初級文法の定着を図り、ドイツ語検定試験4級から3級程度（中学2、3年の英語と同程度）のドイツ語が理解できるようになることを目指します。

### 授業計画

第1回 ガイダンス、復習①	第16回 前期テストの復習
第2回 復習②	第17回 zu不定詞
第3回 ドイツ語検定5級の問題①	第18回 練習問題
第4回 ドイツ語検定5級の問題②	第19回 関係代名詞
第5回 動詞の過去形、過去分詞	第20回 練習問題
第6回 練習問題	第21回 接続法
第7回 現在完了形	第22回 練習問題
第8回 練習問題	第23回 検定試験対策問題①
第9回 受動態	第24回 検定試験対策問題②
第10回 練習問題	第25回 読解問題①
第11回 形容詞、比較表現	第26回 検定試験対策問題③
第12回 練習問題	第27回 検定試験対策問題④
第13回 再帰代名詞	第28回 読解問題②
第14回 練習問題	第29回 読解問題③
第15回 前期まとめ、テスト	第30回 後期まとめ、テスト

\*前年の「独語Ⅰ」の進度、受講生の理解度に応じて内容は適宜変更します。

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・「独語Ⅰ」で使用した独和辞典
- ・「独語Ⅰ」で使用した教科書
- ・プリント（必要に応じて事前に配布します）

### 成績評価方法

原則的には前、後期末に行うテストの平均点で評価します。授業中に理解度確認のための小テストを行う場合がありますが、その点数は参考程度とします。各期とも10回以上の出席がなければ成績評価の対象外とします（遅刻・早退は0.5回の欠席とみなします。欠席回数による減点や加点は行いません）。欠席、遅刻等の回数は必ず各自で把握しておいてください。

### その他

辞書と教科書は毎回持参してください。知らない単語の意味を辞書で調べる、教科書で文法事項の確認をするなど、能動的に学習するとより記憶が定着しやすくなります。授業中に疑問があれば遠慮なく質問してください。

講義科目 : 仏語Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [ 仏語Ⅱ ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 岩本 篤子	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 仏語Ⅰに続き、フランスの美しい一地方について書かれたテキストを用い、文法の説明、受講者による訳に基づいて会話と文法を学ぶ。  
フランス文化に親しめるよう、映像・歌の視聴をたびたび行う。
- ・ 会話の暗記、聞き取りを通じて発音を定着させ、フランス語検定5級さらに4級の実力を養うことを目標とする。

#### 授業計画

第1回	仏語Ⅰで習ったことの確認	第16回	13課 過去のことを話す
2回	仏語Ⅰの対話文復習	17回	13課の続き
3回	8課 興味を述べる	18回	13課の続き
4回	8課の続き	19回	2種類の過去形の確認
5回	9課 誘う	20回	過去形の練習問題
6回	9課の続き	21回	仏検4級をめざして2
7回	9課の続き	22回	14課 仮定する
8回	綴り字の読み方と音節の復習	23回	14課の続き
9回	10課 天候と時刻	24回	仮定表現の練習問題
10回	10課の続き	25回	重要な動詞の復習
11回	仏検4級をめざして1	26回	基本動詞を用いた役に立つ表現
12回	11課 数量を表す	27回	役に立つ表現の確認
13回	11課の続き	28回	仏語Ⅱの対話文復習
14回	11課の続き	29回	講読部分の読み復習
15回	12課 比較する	30回	全体の復習と小テスト最終回

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキスト：藤田 裕二「パリ・ボルドー」 朝日出版社

#### 成績評価方法

- ① 授業中に行う小テストの平均点が60点以上あれば、合格とする。
- ② 6回以上欠席すると単位を認めない。

#### その他

せっかく始めたフランス語をやめてしまうのはもったいないことです。  
仏語Ⅰの成績は全く関係ありません。必ず何かの役に立つと思って、頑張って続けてみましょう！（フランス語初心者の方の受講はご遠慮ください）



講義科目 : 中国語Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [中国語Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 花尻 奈緒子	

#### 講義の内容・方法および到達目標

中国語Ⅰで学習した文法事項を踏まえ、簡単なリスニングと会話のトレーニングを行う。語彙や表現を増やし、中国語の背景にある文化や社会についても学ぶ。

#### 授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	前期の復習
第2回	基礎発音の復習	第17回	第八課・色々な副詞
第3回	ピンインの規則の復習	第18回	第八課・金額の言い方
第4回	軽声・声調の変化	第19回	実践会話練習
第5回	アール化・数の表現	第20回	第九課・色々な助動詞
第6回	あいさつ語と応答練習	第21回	第九課・前置詞
第7回	リスニングチャレンジ	第22回	第九課・時点と時量
第8回	第五課・名前の言い方・きき方	第23回	実践会話練習
第9回	第五課・実践自己紹介	第24回	第十課・助数詞の応用
第10回	第六課・応用形容詞述語文	第25回	第十課・結果補語
第11回	第六課・形容詞の表現	第26回	長文講読
第12回	第七課・動詞の表現	第27回	第十一課・程度補語
第13回	第七課・動詞述語文の完了形	第28回	第十一課・方向補語
第14回	実践会話練習	第29回	第十一課・進行形
第15回	前期の復習と総括	第30回	復習および総括

#### 教材・テキスト・参考文献等

「パイロットテキスト・中国語Ⅰ演習」

#### 成績評価方法

出席50%、前・後期の期末試験50%

#### その他

予習復習を欠かさず行うこと。中国語Ⅰとの同時履修は望ましくありません。

講義科目 : 地域史	単位数 : 2
マークシート略 : [地域史]	学習形態 : 選択科目
担当 : 鈴木 えりも	

#### 講義の内容・方法および到達目標

史料や文献、作成資料を提示しながら各回のテーマを解説しながら、以下の事項を目標とする

- ①三重地域の近世・近代の歴史を学ぶために必要な基礎知識を身につける
- ②三重地域が近世・近代にどのような特徴を持つ地域であったのか考える
- ③史料を基礎としてそこから何が読みとれるのかを学び考える
- ④自分の育った地域の歴史に関心を持つ
- ⑤文献に基づいて自分の考えをまとめる方法を身につける

#### 授業計画

- 第1回 講義の進め方、時代の区切り
- 第2回 近世概略(近世という時代の基礎知識) 1
- 第3回 近世概略(近世という時代の基礎知識) 2
- 第4回 三重地域の諸藩
- 第5回 海運と河村瑞賢
- 第6回 近世の三重地域周辺の物流と伊勢商人の活躍
- 第7回 三重地域の村と町
- 第8回 三重地域の街道と宿場
- 第9回 伊勢神宮の近世とおかげまいり
- 第10回 近世の人々の暮し
- 第11回 近代のはじまり
- 第12回 三重地域の地租改正
- 第13回 三重地域の一揆
- 第14回 三重地域の自由民権運動
- 第15回 三重地域の災害

受講生の希望する事柄を取入れた講義を1回は行い、希望内容によって上記の適当な回と差替える。また学生の理解程度によって回数を増やしたり、講義の順序を入換えることもある

#### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。講義中に配布するプリントに即して講義を行う  
参考文献は講義中に取上げた内容に即して紹介する

#### 成績評価方法

レポートによって評価する。課題及び評価基準は講義中に随時伝達する  
出欠はとるが、評価の参考とするにとどめる

#### その他

レポートの書き方・評価基準について、聞きのがす学生が多い。講義を欠席した場合は講義内容を出席者に確認するなど、各自注意を怠らないこと

欠席した場合、講義中に配布した資料を入手することを怠らない

講義に取入れてほしい内容、理解できなかった点等を発言するなどの積極性を望む

講義科目	:自治体行政特論	単位数	:2
マークシート略	:〔自治行政〕	学習形態	:選択科目
担当	:小野寺 一成	実務経験	:有

#### 講義の内容・方法および到達目標

この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義である。また、地方議会の傍聴も予定している。法経科では行政法、行政学、地方政治論、財政学など地方行財政を取り扱う講義科目、生活科学科では、地域政策論、地域福祉論Ⅰ・Ⅱ、地域環境学、都市計画論、環境政策論など、自治体行政に関わる講義科目があり、それらをあわせて受講することにより、現在の地方行政に対する理解など、地方自治体に関する基礎知識を深めることを目標にしている。

#### 授業計画(予定)

第1回	オリエンテーション、津市の概況、選挙について
2回	津市シティプロモーション（広報課）
3回	津市の政策について（政策財務部）
4回	文化・スポーツについて（スポーツ文化振興部）
5回	津市の教育について（教育委員会事務局）
6回	産業振興（商工業／観光）について（商工観光部）
7回	防災について（防災室）、津市議会傍聴にむけて
8回	津市議会傍聴【6月】
9回	産業振興（農林水産業）について（農林水産部）
10回	都市計画について（都市計画部）
11回	財政について（政策財務部）
12回	環境行政について（環境部）
13回	津市の福祉について（健康福祉部）
14回	参加と協働のまちづくりについて（市民部）
15回	自治体経営（市長）

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

- 毎回の講義の概要、感想などをまとめた「講義ノート」を提出する。
- 6月津市議会を傍聴し、レポートを提出する。

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書・参考文献等の指定はない。毎回の講義時に配布される各講師が準備したレジュメ・資料をもとに進めていく。

#### 成績評価方法

- ・出席状況、講義ノート、議会傍聴レポートなどを総合して評価する。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

#### 実務経験

- ・講師は、現職の津市長を始め各課の専門職員であることから、それぞれの専門分野で実務を経験し各種の専門計画・事業に携わっている。授業では、これらの実務経験を活かした実践的な自治体基礎知識の養成に努める。

講義科目 : 農林体験セミナー	単位数 : 2
マークシート略 : [ - ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠本 孝	

後日揭示

講義の内容・方法および到達目標

授業計画

教材・テキスト・参考文献等

成績評価方法

その他

講義科目 : キャリア形成セミナー	単位数 : 2
マークシート略 : [キャリア]	学習形態 : 選択科目
担当 : 石原 洋介	実務経験 : 有

#### 講義内容・方法および到達目標

- ・ 職場、家庭、地域の一員として、将来の自身のあり方を考えます。
- ・ 本学の卒業生、あるいは様々な分野の専門家、人生の先輩たちの話を通し、自身の人生を選びとってゆく力をつけます。（講師は毎回変わります。）
- ・ 具体的な仕事や人生観に触れながら、自身の職業観、勤労観を獲得し、卒業後の進路選択に役立てます。
- ・ 全講義を通して学ぶことで、自身のキャリアイメージを形成していきます。
- ・ 毎回、アンケート、質問票を兼ねた小レポートを提出し、文章を簡潔にまとめる力、適切な表現力をつけることを目指します。
- ・ 1年生の履修を原則とします。

#### 授業計画

- ・ 講師の都合などによって前後することがあります。

第1回	キャリアとは何か（ガイダンス）
2回	地域を知る、地域で働く
3回	労働者を取りまく環境を知る
4回	地域を知る、地域で生きる
5回	自分を見つめる
6回	企業から求められる人材とは
7回	人生設計を考える
8回	国際協力という仕事
9回	働くことの意味
10回	栄養士として働く
11回	建築士として働く
12回	福祉に関わる仕事
13回	企業で働く
14回	働くことの意味を改めて考える
15回	まとめ（最終レポート作成）

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・ 各講師より配布されるレジュメ、資料を使用します。

#### 成績評価方法

- ・ 出席が基本です。出席状況や毎回の小レポート、最終レポートなどの提出状況、学習態度などから総合的に評価します。
- ・ 5回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

#### 実務経験

津市長、津市商工観光部や労働局職員、社会保険労務士や栄養士、建築士、JICA職員等が、受講生の進路選択の一助となるよう、それぞれの実務経験から得た職業観や人生観、現在の職業を選択するに至った経緯などを話します。

講義科目 : 食と観光実践	単位数 : 2
マークシート略 : [ - ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠本 孝	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・この講義科目は、三重大学が実施する事前・事後学習及び現地学習に他大学生とともに参加することになります。
- ・三重県の重点課題である食と観光に対して、東紀州地域における世界遺産活用の観点から現地でのフィールドワークを交えた体験型実習を行います。
- ・三重県における社会的事象（観光客誘致、インフラ整備、事業継続性等）を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探究します。本科目の特徴は合宿型（2泊3日）であるという点です。3～5人のグループワークを通して地域課題（「食と観光」）を発見し、それについて深い分析・考察を加え、その成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元することを目標とします。
- ・地域住民や社会人といった異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮することができます。

#### 授業計画

##### ○事前学習

第1回 5月11日（土）13：00～17：00  
三重大学においてオリエンテーション、事前学習、グループワーク

第2回 6月15日（土）13：00～17：00  
三重県総合博物館において、博物館見学、講義、グループワーク

##### ○現地学習（合宿、2泊3日：8月28日～30日、宿泊先：ハマケン水産）

1日目 山間部観光地見学／フィールドワーク／講義／グループワークなど

2日目 沿岸部観光地見学／フィールドワーク／グループインタビュー／グループワークなど

3日目 グループインタビュー／成果発表に向けた取りまとめ、など

##### ○事後学習

第1回 9月9日（月）13：00～16：00  
三重大学にて食と観光に関する提案プレゼンテーション、事後レポートなど

※諸事情により実際の授業実施に際しては変更の可能性があります。

#### 教材・テキスト・参考文献等

特になし

#### 成績評価方法

授業や現地合宿への積極的な参加40%、成果発表30%、レポート30%

#### 実務経験

講義プログラムの中に、実務者が実務経験に基づいて講義をする時間が含まれています。

#### その他

- ・履修希望者が定員を超えた場合は抽選で履修者を決定します。また、履修希望者は授業計画の全日程に参加することを前提として履修申告してください。
- ・学生の費用負担があります。飲食費で5千円程度の予定です。

講義科目 : 次世代産業実践	単位数 : 2
マークシート略 : [ - ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠本 孝	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・この講義科目は、三重大学が実施する事前・事後学習及び現地学習に他大学生とともに参加することになります。
- ・三重県の将来的な主要産業に成長する可能性を持つ、「次世代産業」に注目し、グループワーク、ディスカッション、現地見学・実証実験を通じて、課題発見及び社会協働を学びます。
- ・本授業においては、航空宇宙産業をテーマに扱うが工学的な内容に限定せず、素材化学や生物資源活用、それらを地域産業という観点からいかに活かしていくかの視野を広げるとともに、他分野に対する関心や様々な専門性を他者と議論することで、新しい価値を生み出す考え方や産業構造を刷新していく社会人としての基礎的素養を身につけることを目的としています。
- ・本科目では合宿講義（2泊3日）を通じて、3～5人のグループワークで地域課題（次世代産業）を発見し、討論によりそれぞれの専門性を発揮して最終的な結論を発表するところまで行います。

#### 授業計画

##### ○事前学習

1 2月14日（土）13:00～17:00

三重大学において事前学習、事前レポートなど

##### ○現地学習（合宿、2泊3日：2月18日～20日、宿泊場所：三重県立鈴鹿少年センター）

1日目 オリエンテーション、講義、グループワークなど

2日目 講義、実習、グループワーク、ワークショップなど

3日目 三重樹脂（鈴鹿市）、航空機部品生産協同組合（松阪市）、ユークレナ藻類エネルギー研究所（多気町）の見学など

##### ○事後学習

3月6日（金）13:00～16:00

三重大学において「次世代産業に対する提言」、事後レポート

予習：座学・自主調査（文献・Web）・事前レポートの提出

復習：事後レポートの提出

#### 教材・テキスト・参考文献等

特になし

#### 成績評価方法

授業や現地合宿への積極的な参加40%、成果発表30%、レポート30%

#### その他

- ・履修希望者が定員を超えた場合は抽選で履修者を決定します。また、履修希望者は授業計画の全日程に参加することを前提として履修申告してください。
- ・本講義を2年生が受講する場合、単位が出て卒業に間に合いません。そのため履修を1年生に限らせていただきます。
- ・学生の費用負担があります。食費等で0.5～1万円を想定しています。

講義科目 : 医療・健康・福祉実践	単位数 : 2
マークシート略 : [ - ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠本 孝	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・この講義科目は、三重大学が実施する事前・事後学習及び現地学習に他大学生とともに参加することになります。
- ・三重県の重要課題である医療・健康・福祉に対して、主に僻地（離島）医療の観点から現地でのフィールドワークを交えた体験型実習を行います。
- ・三重県における社会的事象（僻地医療、地域包括ケア等）を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探求する。本科目の特徴は合宿型（2泊3日）だという点です。3～5人のグループワークを通して地域課題（「医療・健康・福祉」）を発見し、それについて深い分析・考察を加え、その成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元することを目標とします。
- ・地域住民や社会人といった異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮することができます。

#### 授業計画

##### ○事前学習

6月29日（土）10：00～17：00

三重大学において事前学習、地域住民インタビューのやり方

##### ○現地学習（合宿、2泊3日：9月3日～5日）

1日目 志摩市においてフィールドワーク、講義など

2日目 離島フィールドワーク、グループワーク（取りまとめ）など

3日目 離島フィールドワークなど

##### ○事後学習

9月13日（金）13：00～16：00

三重大学においてグループワーク（取りまとめ）、成果報告会

##### ○事後レポート（9月末まで）

※諸事情により実際の授業実施に際しては変更の可能性があります。

#### 教材・テキスト・参考文献等

特になし

#### 成績評価方法

授業や現地合宿への積極的な参加40%、成果発表30%、レポート30%

#### 実務経験

講義プログラムの中に、実務者が実務経験に基づいて講義をする時間が含まれています。

#### その他

- ・履修希望者が定員を超えた場合は抽選で履修者を決定します。また、履修希望者は授業計画の全日程に参加することを前提として履修申告してください。
- ・学生の費用負担があります。飲食費で5千円程度の予定です。



講義科目 : 日本国憲法	単位数 : 4
マークシート略 : [日本憲法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 鎌塚 有貴	

#### 講義の内容・方法および到達目標

講義形式で行う。

日本国憲法の構造と人権保障の内容について理解すること。特に近代立憲主義において人権が果たしてきた重要な役割を意識しながら、現在のグローバル化社会や情報社会における新しい権利保障についても考察すること。

#### 授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	選挙制度
第2回	国家と憲法	第17回	選挙権
第3回	基本的人権	第18回	国会の権能
第4回	外国人の人権と人権の国際化	第19回	国会の活動
第5回	私人間における人権保障	第20回	国政調査権
第6回	法の下での平等	第21回	行政権
第7回	思想・良心の自由	第22回	議院内閣制
第8回	信教の自由	第23回	司法権
第9回	表現の自由(1)	第24回	裁判所の組織
第10回	表現の自由(2)	第25回	司法権の独立
第11回	経済活動の自由	第26回	違憲審査制
第12回	社会権1:生存権	第27回	財政
第13回	社会権2:教育権	第28回	地方自治
第14回	社会権3:労働憲基本権	第29回	憲法改正
第15回	人権分野まとめ	第30回	統治分野まとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

芦部信喜『憲法〔第6版〕』（岩波書店，2015年）

加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第2版〕』（啓文堂，2018年）

#### 成績評価方法

試験2回（各50点）の総合点による。

講義科目 : 民法 I	単位数 : 4
マークシート略 : [民法 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 川上 生馬	

### 講義の内容・方法および到達目標

コンビニでの買い物、マイホーム購入のためのローン、下宿先を借りる、結婚するなど、様々な場面で民法は登場してくる重要な法律です。本講義では、その中でも最も基本的なルールを定めている「民法総則」と所有権など物に関するルールが定められている「物権」について学習します。

これら民法の規定は、民法を理解するうえでも非常に重要な内容となっていますので、基本概念をしっかりと理解してもらいます。さらに、本講義では具体的な事例を多く取り上げ、どのような場面において民法を活用するのかわせて学習してもらうことで、法的思考能力のトレーニングも行います。

### 授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	時効①時効とは
2回	権利能力・行為能力	17回	時効②時効の援用・放棄
3回	法律行為概論	18回	時効③取得時効
4回	法律行為①意思表示とは	19回	時効④消滅時効
5回	法律行為②心裡留保	20回	物権とは
6回	法律行為③虚偽表示	21回	所有権・占有権
7回	法律行為④錯誤	22回	地上権・地役権
8回	法律行為⑤詐欺・強迫	23回	その他の用益物権
9回	無効と取消し	24回	担保物権とは
10回	代理①代理とは	25回	留置権
11回	代理②表見代理	26回	抵当権
12回	代理③表見代理	27回	その他の担保物権
13回	代理④無権代理	28回	総復習①
14回	条件・期限	29回	総復習②
15回	前半講義内容まとめ	30回	講義内容まとめ

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書：『コンパクト民法 I』角紀代恵（新世社、2018年）

講義はレジュメを中心に行う。

教科書については、予習・復習の際に使用する。

### 成績評価方法

前半講義内容まとめ（第15回）の中で小テスト、講義内容まとめ（第30回）の中で試験を行う。

成績評価は平常点15点、小テスト25点、試験60点の配分で行う。

### その他

講義には六法を持参すること。

講義中は私語厳禁とする。

講義科目 : 民法Ⅲ	単位数 : 2
マークシート略 :〔民法Ⅲ〕	学習形態 : 選択科目
担当 : 川上 生馬	

#### 講義の内容・方法および到達目標

民法Ⅲでは、契約に関するルールと不法行為について学習する。民法には売買、請負、消費貸借、賃貸借など典型契約と呼ばれる契約に関する個別のルールが定められている。今般の民法改正により、これらの規定に関しても様々な改正が加えられることとなった。そこで、最新の改正に基づいた講義を行うことで社会に出た際に実用的な知識を身に付けることを本講義の目標とする。また、不法行為制度とは事故や犯罪等に巻き込まれた際に、その損害に対する賠償に関するルールである。近時注目すべき最高裁判決が数多く出ているため、本講義では判例を中心に不法行為制度についての理解を深めたい。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス・契約の種類
- 第2回 契約の成立（合意・約款）
- 第3回 契約の効力（同時履行の抗弁権・危険負担）
- 第4回 契約の解除
- 第5回 贈与契約・売買契約
- 第6回 消費貸借契約・使用貸借契約
- 第7回 賃貸借契約・雇用契約
- 第8回 請負契約・委任契約・寄託契約
- 第9回 和解契約・組合契約・終身定期金契約
- 第10回 事務管理・不当利得
- 第11回 不法行為制度概論
- 第12回 監督者責任・使用者責任
- 第13回 共同不法行為
- 第14回 重要論点講義
- 第15回 これまでの講義のまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

教科書：『新プレミアム民法4』青野博之・谷本圭子ほか（法律文化社、2018年）

講義はレジュメを中心に行う。

教科書については、予習・復習の際に使用する。

#### 成績評価方法

試験はまとめの講義の中であわせて行う。

成績評価は平常点30点、試験70点の配分で行う。

全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、成績評価の対象外とする。

#### その他

講義には必ず六法を持ってくること。

講義中は私語厳禁とする。

講義科目 : 家族法	単位数 : 4
マークシート略 : [家族法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 木村 義和	

#### 講義の内容・方法および到達目標

講義の内容・方法：「あなたにとって大切なものは何ですか？」と尋ねられた時、多くの人が答えるものの一つが「家族」です。この家族の関係についての基本的なルールを理解することを本講義の目標にします。本講義では、家族法の重要な制度を重点的に解説します。

到達目標：家族法の重要な制度を理解し、基礎知識が修得できる。

#### 授業計画

第1回	家族法の意義と親族	第16回	相続法序論
第2回	婚姻の成立	第17回	相続回復請求権
第3回	婚約・結納・内縁	第18回	相続欠格
第4回	婚姻の一般的効果	第19回	相続人の廃除
第5回	婚姻の財産的効果	第20回	相続分
第6回	離婚の手續	第21回	特別受益
第7回	離婚の有責主義と破綻主義	第22回	寄与分
第8回	離婚の効果（財産分与）	第23回	遺産の範囲
第9回	離婚の効果（子をめぐる問題）	第24回	遺産の分割方法
第10回	嫡出子	第25回	相続の承認
第11回	非嫡出子	第26回	相続の放棄
第12回	普通養子	第27回	遺言の方式
第13回	特別養子	第28回	遺贈
第14回	親権	第29回	遺言の無効・取消・撤回
第15回	扶養	第30回	遺留分

#### 教材・テキスト・参考文献等

レジュメを配布します。

テキスト：床谷文雄・神谷遊・稲垣朋子・且井佑佳・幡野弘樹『新プリメール民法5 家族法』（法律文化社）

#### 成績評価方法

各回に行く小テスト60%+試験40%で評価する。

#### その他

熱意を持って楽しく分かり易い授業をすることをモットーにしています。この授業モットーに賛同し、授業を楽しく受講できる学生はぜひ履修してください。実りある講義になるようにお互い努力しましょうね。

講義科目 : 商法 I	単位数 : 4
マークシート略 : [商法 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 名島 利喜	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 会社の組織と行動に関する基本ルールを定める会社法全般について概説を行なう。会社、とりわけ株式会社に関する法規制および条文の解釈についての判例学説の状況を、初学者にも理解できるように説明する。
- ・ 会社法は制度論であるといえる。そこで、何のために、どのような制度ができてきているか、その内容と意義を的確に理解できるようにする。そのうえで、会社法の諸制度が、経済社会でどのように機能しているのかを知ることを見目標にする。

#### 授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	株式会社の機関構造
第2回	会社法と会社	第17回	株主総会の権限
第3回	会社の実態と法律上の定義	第18回	株主総会の招集・運営
第4回	会社の権利能力	第19回	株主総会決議の瑕疵
第5回	会社の法人性	第20回	取締役
第6回	資本制度	第21回	取締役会
第7回	株式制度	第22回	代表取締役
第8回	株式会社の設立①	第23回	取締役の義務と報酬
第9回	株式会社の設立②	第24回	取締役の責任
第10回	株式譲渡自由の原則	第25回	株主代表訴訟
第11回	株式の公開	第26回	監査役・監査役会
第12回	株式譲渡の制限	第27回	会計監査人
第13回	自己株式の取得	第28回	会社の資金調達
第14回	親子会社関係	第29回	組織再編行為
第15回	前期学習内容のまとめ	第30回	後期学習内容のまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

教材：最新版の六法（小型のものでよい）  
 テキスト：特に指定しない（講義中に紹介する）

#### 成績評価方法

- ・ 前期最終授業時と後期最終授業時に筆記試験を行なう。
- ・ 成績は主に後期試験によって評価する。
- ・ 出席10%、筆記試験90%

#### その他

- ・ 毎回の講義を欠かさず聞くことを大事にしてほしい。
- ・ 株式会社法の制度的側面ばかりではなく、日本経済新聞等に目を通したりして、わが国の会社経営の実状についても視野を広げてほしい。

講義科目 : 商法Ⅱ	単位数 : 4
マークシート略 :〔商法Ⅱ〕	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠井 嘉行	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

手形・小切手のしくみとその経済的機能等、銀行預金、貸付け、担保等や銀行取引実務、株式の取扱い実務を中心に学習する。銀行取引約定書、手形・小切手の見本、当座勘定規定を用いて平易に解説したい。金融取引実務に関するビデオ等を見て、知識をより深いものにする。

#### 授業計画

手形・小切手がどのような目的で用いられているのか、銀行取引約定、当座勘定・融資等を学習しつつ、銀行取引の具体的な実務を学習する。金融機関や手形交換所の実務見学も行い、金融機関等が社会的にどのような働きをしているかを知る。

- 第1回 銀行の仕事
- 第2回 預金業務
- 第3回 銀行取引約定
- 第4回 金融機関の個人情報保護
- 第5回 手形・小切手の経済的機能
- 第6回 手形・小切手の振出し、裏書
- 第7回 手形交換
- 第8回 株式について
- 第9回 貸付け、信用調査
- 第10回 為替、付随業務
- 第11回 でんさいネットについて
- 第12回 金融機関の見学
- 第13回 手形交換所の見学
- 第14回 取引先の倒産
- 第15回 まとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ①「金融法務読本 第27版」（一般社団法人金融財政事情研究会）  
川田悦男監修・著
  - ②「わかりやすい銀行業務 全訂5版」（一般社団法人金融財政事情研究会）加藤浩康著
- ※①②とも参考文献として参照されたい

#### 成績評価方法

レポートによる評価の予定。単位の心配をせず授業をよく聞いて学習されたい。

#### 実務経験

三重県弁護士会に弁護士登録。金融取引法の経験を生かしてお話しします。

#### その他

金融機関、手形交換所の見学のほか、実務に関連したビデオもできるだけ多く見て頂く予定である。社会人となって有用と思われる金融取引実務を身につけてほしい。

講義科目 : 刑法	単位数 : 4
マークシート略 : [刑法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠本 孝	

### 講義の内容・方法および到達目標

刑法は、国家に刑罰権を付与する法であると同時に、国家刑罰権の限界を明確にすることによって、市民の権利を保障する法でもある。本講は、刑法の基本原則を理解し、それを踏まえて、マスコミ等でセンセーショナルに取り上げられる刑法現象を批判的に論評する目を養うことを目的とする。

近代刑法は、アンシャン・レジームの過酷な刑罰制度を克服するため、国家の刑罰権を抑制し、市民の人権を保障する諸原則を発達させてきた。ところが現代刑法は、この近代刑法の諸原則を修正して「現代社会のニーズ」に合わせる動きを見せている。この近代刑法原則の現代的変容とはどのようなもので、それは我々の社会にとってどのような意味を持っているのかを考えたい。

### 授業計画

1 刑法と刑法学	2 刑罰論①
3 刑罰論②	4 犯罪論の基本原則
5 罪刑法定主義①	6 罪刑法定主義②
7 罪刑法定主義③	8 罪刑法定主義④
9 犯罪の定義と犯罪論の体系	10 行為と構成要件
11 故意	12 過失
13 錯誤	14 結果的加重犯
15 因果関係論	16 不作為犯
17 違法阻却事由	18 可罰的違法性
19 被害者の承諾／安楽死	20 正当防衛と緊急避難
21 正当防衛の不処罰根拠	22 緊急避難の不処罰根拠
23 責任／期待可能性	24 違法性の意識の可能性
25 責任能力	26 原因において自由な行為
27 未遂①－実行の着手	28 未遂②－不能犯／中止犯
29 共犯①－共犯の従属性	30 共犯②－共謀共同正犯

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書：教科書は特に指定しない。ただし、六法は必携。

参考書として楠本孝『刑法解釈の方法と実践』（現代人文社）

また、毎回資料を配布するので、その整理を怠らないこと。

### 成績評価方法

最後の講義日に試験をし、その成績をベースに判断するが、小レポート（2回程度）の内容を加味して判断する。試験の成績80%、小レポート20%。レポートを提出しても、内容の無いものは評価しない。

再試験は行わない。

### その他

「刑事政策」も受講することが望ましい。刑罰論の詳細や少年法などの解説は「刑事政策」で行います。

講義科目 : 行政法	単位数 : 4
マークシート略 : [行政法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 藤枝 律子	

### 講義の内容・方法および到達目標

社会保障、道路交通、ガス・水道・電気などの生活手段の整備や運営・管理にとどまらず、環境保全、消費者保護など様々な分野における公共的な仕事が、国や地方公共団体によって担われている。現代社会に生きる我々にとって、行政は不可欠な存在である。しかしながら、一方では、「官から民へ」と民間化が進行しており、改めて行政の役割とは何かが問われるようになってきている。本講義では、こうした現代的状況を視野に入れつつ、多くの判例を取り上げて、行政救済の視点から行政法を考えていきたい。そして、制度変化の中にある行政法について、基本的な原理や仕組みについて理解を深め、法的思考を身につけることを目標とする。

### 授業計画

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 1. 現代行政と行政法      | 16. 行政事件訴訟法とは        |
| 2. 行政法の概念        | 17. 法律上の争訟           |
| 3. 法治主義          | 18. 取消訴訟とは           |
| 4. 行政法の法源        | 19. 処分性-行政行為・行政準則    |
| 5. 行政法の諸原則       | 20. 処分性-行政計画・行政指導    |
| 6. 行政救済とは        | 21. 原告適格①            |
| 7. 国家賠償法の概念      | 22. 原告適格②            |
| 8. 国家賠償法1条の要件①   | 23. 客観的訴えの利益         |
| 9. 国家賠償法1条の要件②   | 24. 無効等確認訴訟・不作為の違法確認 |
| 10. 国家賠償法2条①     | 25. 義務づけ訴訟・差止訴訟      |
| 11. 国家賠償法2条②     | 26. 当事者訴訟            |
| 12. 国家賠償法2条と水害訴訟 | 27. 仮の救済①            |
| 13. 損失補償の概念      | 28. 仮の救済②            |
| 14. 損失補償の要否      | 29. まとめと確認①          |
| 15. 結果責任に基づく国家補償 | 30. まとめと確認②          |

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書、参考文献等は、初回講義時に提示をする。
- ・講義時に、レジュメ、資料を配布する。
- ・『ポケット六法』等コンパクトなものでよいので六法を持ってくること。

### 成績評価方法

記述式の確認テスト70%、および平常点30%で評価する。

### その他

憲法とあわせての受講計画が望ましい。



講義科目 : 労働法	単位数 : 4
マークシート略 : [労働法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 川崎 航史郎	

### 講義の内容・方法および到達目標

近年、「ワーキング・プア」「長時間労働による過労死・過労自殺」「パワハラ・セクハラ」など労働問題が社会の注目を集めています。厳しい労働状況の中、学生諸君は働くことを余儀なくされています。しかし、働く労働者に対してまっとうな労働条件を保障することは国・企業の義務・責任です。戦後の日本社会は、憲法で「個人の尊重・幸福追求の権利」(憲法13条)を謳い、さらに「人間らしい生活を営む権利」(憲法25条1項)を保障しました。労働法はこれらの憲法の規定を受け、労働者が働く時に守られるべきルール(憲法27条2項)を定めました。労働法を勉強することは、働くときに人間らしい生活を送るための力となります。本講義は、労働法の基本的仕組みを解説し、必要となる知識と、法的な解決方法を身につけることを目指します。

### 授業計画

第1回	労働法の仕組みと履行確保	第16回	健康・安全衛生
2回	雇用の成立①労働者・使用者とは誰か	17回	労働災害への補償
3回	雇用の成立②採用過程	18回	非正規労働①有期契約
4回	労働契約の権利義務	19回	非正規労働②パート労働
5回	懲戒制度	20回	非正規労働③派遣労働
6回	労働条件の決定①労使対等決定原則	21回	雇用確保策と職業能力形成
7回	労働条件の決定②就業規則	22回	労働組合
8回	労働条件の変更①合意変更	23回	組合活動
9回	労働条件の変更②就業規則	24回	不当労働行為①意義
10回	雇用の終了	25回	不当労働行為②救済
11回	賃金	26回	団体交渉
12回	労働時間規制と休息①	27回	労働協約
13回	労働時間規制と休息②	28回	争議行為
14回	職業生活と私生活保障	29回	労働法の課題
15回	雇用差別の禁止	30回	講義のまとめ(試験)

### 教材・テキスト・参考文献等

講義の最初に指示します。

### 成績評価方法

平常点20%(リアクションペーパーを用いて、2・3の課題を示すので、それに回答を記入する。質問や感想、復習なども記入し、次週以降に講師から回答を行う。)、試験80%

講義科目	: 民事訴訟法	単位数	: 4
マークシート略	: [民事訴訟]	学習形態	: 選択科目
担当	: 伊賀 恵	実務経験	: 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

民事裁判の手續と実務についての理解を深めます。

民事裁判というと堅苦しく聞こえますが、実は皆さんの身近に民事紛争はあり、民事訴訟法は、民事紛争を解決する手續です。例えば、お金をかしたけれど返してくれない、交通事故に遭ったから治療費を支払ってほしい、就職先がブラック企業で残業代を支払ってくれないなど様々な民事紛争はいつでも起こりえます。

民事訴訟法は、そのような民事紛争を、どこで、どのように、解決するかが定められているのです。民事訴訟法を知るのは、日常生活ではもちろん、将来就職したときにも役立つと思います。

講義では、民事訴訟を具体的にイメージできるよう、三重短子さんという架空人物を設定し、三重短子さんに起きた貸金返還請求事件、建物明渡し請求事件、離婚事件などにあてはめながら進めます。

また、生の事件を肌で感じられるよう、弁護士である私の経験談をご紹介したり、法律に関する実務家の体験談を聞いたり、法廷や施設(去年は裁判所、検察庁、少年鑑別所、刑務所)の見学もしたいと思います。

#### 【授業計画】

以下の予定で進めていきますが、進行度に合わせて大きく変更することがあります。法廷見学や施設見学は、裁判所や施設の都合により、順番が前後する可能性があります。

- 第1回 民事裁判とは何か、刑事裁判との違い、裁判官、弁護士等の役割  
民事訴訟制度の基本理念、DVD視聴
- 第2回 管轄、除斥、忌避、訴えの提起
- 第3回 訴訟物論、処分権主義
- 第4回 一部請求、当事者
- 第5回 訴訟能力、訴えの利益
- 第6回 口頭弁論、弁論主義
- 第7回 証拠、立証
- 第8回 自由心証主義、証明責任
- 第9回 証拠調べ、判決
- 第10回 判決によらない訴訟の終了、請求の客観的複数
- 第11回 請求の主観的複数、上訴
- 第12回 法廷見学
- 第13回 施設見学①
- 第14回 施設見学②
- 第15回 テスト、テストの講評

#### 【教材・テキスト・参考文献等】

教科書は使用しません。参考文献は適宜紹介します。六法必携です。

#### 【成績評価方法】

出席を毎回とります。法廷見学や施設見学の出席もとります。また、法廷見学や施設見学の現地までの交通費(津駅や津新町駅周辺)は各自負担となります。成績については、出席50%、期末テスト50%とします。

#### 【実務経験】

三重弁護士会に所属する弁護士。主に民事事件を担当。実務経験を話したり、皆さんに訴状などを起案してもらったり、実際の事件を疑似体験できるような授業を目指します。

講義科目 : 刑事訴訟法	単位数 : 4
マークシート略 : [刑事訴訟]	学習形態 : 選択科目
担当 : 加藤 拓也	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 刑事手続きの概略や流れ、刑事手続きの登場人物とそれぞれの立場、法的論点とその解釈論、実務上の運用状況と判例の動向等について、日頃刑事手続きに関与している弁護士が、具体的な事件に即して解説します。基本的には講義形式ですが、受講者の発言や意見を求めることもあります。
- ・ 刑事手続きの概略や流れを理解するとともに、具体的な事件について法律的な観点から問題点を発見し、考察できる力及び刑事手続きのあるべき姿を多角的な観点から検討できる力等を身につけることを目標とします。

#### 授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	刑事裁判の概略
第2回	刑事事件に関わる人とその役割	第17回	刑事裁判の基本原則
第3回	ビデオ視聴と解説（前半）	第18回	刑事裁判の審判対象
第4回	ビデオ視聴と解説（後半）	第19回	証拠物・科学的証拠
第5回	強制捜査と任意捜査	第20回	自白の取り扱い
第6回	捜査の始まり	第21回	供述調書の取り扱い
第7回	証拠物を収集する捜査	第22回	違法に収集された証拠
第8回	新しい捜査方法	第23回	適正な事実認定
第9回	被疑者の身柄拘束	第24回	判決・上訴・再審
第10回	被疑者の取調べ	第25回	裁判員裁判
第11回	被疑者の防御権	第26回	少年法との違い
第12回	捜査の終結	第27回	犯罪被害者保護
第13回	筆記試験	第28回	筆記試験
第14回	捜査弁護の実務	第29回	有罪判決後の処遇と更生
第15回	筆記試験の解説	第30回	筆記試験の解説

#### 教材・テキスト・参考文献等

授業ごとにレジュメを配布します。教科書は特に指定しませんが、「刑事訴訟法判例百選（第10版）」（有斐閣）等の判例集を読むことをお勧めします。また、授業には必ず六法を持参してください。

#### 成績評価方法

出席点（不定期に実施する小テストやレポート課題の結果を含む）	50%
筆記試験（年2回）	50%

第2回講義以降は出欠をとり、10回以上欠席があった場合には、成績評価は不可とします。また、質問は随時受け付けます（出席点で加味します。）。

#### 実務経験

講師は、三重弁護士会に所属する弁護士です。刑事事件は、今までに100件以上担当してきました。その中で得られた実務経験も踏まえながら、刑事手続きについてお話をします。

#### その他

期末試験（第13回・第28回予定）については採点をした上で返却し、各期の最後の授業（15回・30回）で講評を行います。返却の上講評するのが、当講義の大きな特徴です。

講義科目 : 政治学原論	単位数 : 4
マークシート略 : [政治原論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長澤 高明	

### 講義の内容・方法および到達目標

現代政治を理解するための基礎知識・基礎概念および物事を考えるときの視角について講義する。私が一方的に喋るということはず、受講生と対話しながら講義を進める。時事問題を講義冒頭で取り上げて解説する。政治は苦手だという人も、この講義を受けてニュースが理解できるようになれば幸甚である。

### 授業計画

テキストの目次に沿って解説する。テキストを補足する資料やプリントも配付する。講義は2コマ連続でおこなう。

- |                     |                  |
|---------------------|------------------|
| 第1回 日本の政治文化         | 第16回 議会主義の歴史 (2) |
| 第2回 日本の新しい政治文化にむけて  | 第17回 議会制民主主義     |
| 第3回 メディアと政治         | 第18回 世界の選挙制度     |
| 第4回 私たちの認識枠組み       | 第19回 衆議院の選挙制度    |
| 第5回 アメリカに従属する日本 (1) | 第20回 参議院の選挙制度    |
| 第6回 アメリカに従属する日本 (2) | 第21回 投票分析        |
| 第7回 経済と政治の関係 (1)    | 第22回 政党とはなにか     |
| 第8回 経済と政治の関係 (2)    | 第23回 日本の主要政党 (1) |
| 第9回 戦後内閣史 (1)       | 第24回 日本の主要政党 (2) |
| 第10回 戦後内閣史 (2)      | 第25回 戦後政党史 (1)   |
| 第11回 戦後内閣史 (3)      | 第26回 戦後政党史 (2)   |
| 第12回 統治と正当性         | 第27回 市民運動とは何か    |
| 第13回 国家とは何か (1)     | 第28回 住民運動と社会運動   |
| 第14回 国家とは何か (2)     | 第29回 政治と宗教       |
| 第15回 議会主義の歴史 (1)    | 第30回 身の回りの民主主義   |

### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは長澤高明『入門 現代日本の政治』（学習の友社）。参考文献はその都度指示する。

### 成績評価方法

毎回出席をとる。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合は成績評価の対象としない。成績は「出席状況 (30%) + 小テスト2回 (20%) + レポート (3000字。50%)」の総合評価とする。

### その他

新聞の政治欄や用語辞典を読む習慣をつけてほしい。

講義科目 : 行政学	単位数 : 4
マークシート略 : [行政学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 立石 芳夫	

### 講義の内容・方法および到達目標

本講義は、国＝中央政府を軸とする政治行政制度について取り扱う。日本の制度を主対象としながらも、部分的には主要先進各国の制度についても言及していく。政治行政制度のあり方は、政策を通じてよかれ悪しかれ市民生活に大きな影響を及ぼす。講義は教科書と（その内容を補足する）レジュメに沿って進める。講義の中心テーマは、民主主義的な理念に照らした政治行政制度はどうあるべきか、に設定したい。

### 授業計画

第1回	講義の概要および序	第16回	戦前日本の政治行政制度
第2回	序	第17回	占領期の政治制度改革
第3回	市民革命と近代国家の成立	第18回	議院内閣制における議会
第4回	近代国家から現代国家へ	第19回	議院内閣制における内閣
第5回	福祉国家とは何か	第20回	府省庁の設置とその仕組み
第6回	福祉国家の形成	第21回	中央省庁等の再編
第7回	福祉国家の発展	第22回	中央省庁等再編の帰結
第8回	福祉国家の危機・再編	第23回	戦前の官吏制度
第9回	福祉国家の現状と今後	第24回	国民主権のもとでの公務員
第10回	近代的公務員制度の確立	第25回	人事院
第11回	近代官僚制とは何か	第26回	公務員の服務など
第12回	官僚制の形式的合理性	第27回	公務員制度改革
第13回	官僚制の実質的非合理性	第28回	政策の形成過程
第14回	行政国家とその問題性	第29回	予算の編成過程
第15回	行政国家を超えて	第30回	講義のまとめ（試験）

### 教材・テキスト・参考文献等

テキストとして、新藤宗幸『新版 行政ってなんだろう』岩波ジュニア新書、2008年。初回の講義から使用する。

### 成績評価方法

試験で評価する。出欠は毎回とる。出席率が3分の2を下回る受講生は評価対象外とするので、留意していただきたい。

### その他

政治行政のリアルな展開に関する主要情報は、日々ニュース報道で伝えられている。日頃からとくに新聞購読を心がけてほしい。

本講義とあわせて、他の政治学関連の科目（政治学原論・地方政治論・政治史・政治思想史）の履修を勧めたい。

講義科目 : 社会福祉論	単位数 : 2
マークシート略 : [社会福祉]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長友 薫輝	

#### 講義の内容・方法および到達目標

社会福祉の理念とその進展、概念の理解を通じて、社会福祉の役割について十分に理解させることを目的とする。さらに、実際に援助者として社会福祉の対象と援助、援助形態についての基本的理解を求める。また、社会福祉の取り組むべき対象とする課題は何か、その課題に対してどのような援助が存在するのかといったことについて理解させる。

#### 授業計画

- 1) 社会福祉を学ぶ意義
- 2) 社会福祉の存在と日本国憲法
- 3) 社会福祉の理念（人権尊重）
- 4) 社会福祉の理念（権利擁護）
- 5) 社会福祉の理念（自立支援）
- 6) 社会福祉の概念
- 7) 社会福祉の範囲
- 8) 社会福祉の役割
- 9) 社会福祉の対象課題
- 10) 社会福祉の援助方法
- 11) 社会福祉の援助形態
- 12) 社会福祉の専門性
- 13) 社会福祉の人権意識
- 14) 社会福祉の職業倫理
- 15) 社会福祉を実生活に活用する

\*なお、受講生の状況などによって内容を変更する可能性がある。

#### 教材・テキスト・参考文献等

教科書：追って指示する。

上記以外の参考文献や資料は必要に応じて、講義時に指示または配付する。

#### 成績評価方法

- ① 毎回の講義時の小レポート（40%）
  - ② 小テスト（2回程度）（20%）
  - ③ 筆記試験（40%）
- 上記の①から③を総合的に評価する。

講義科目 : 法学基礎演習	単位数 : 2
マークシート略 : [法基礎演]	学習形態 : 選択科目
担当 : 鎌塚 有貴	

#### 講義の内容・方法および到達目標

「日本国憲法」の講義中では詳細に扱うことのできなかつた事柄について、より詳細に検討することに加えて、憲法学が直面している時事問題についても理解を深めることを目標とする。

#### 授業計画

各回担当者による報告形式とする。報告担当でない者は、質疑応答の際に参加できるように予習してくることが望ましい。

#### 教材・テキスト・参考文献等

憲法判例百選第6版Ⅰ、Ⅱ（有斐閣、2013年）

その他、教材について授業中に指示することがある。

#### 成績評価方法

授業への出席、報告等を総合的に判断する。

#### その他

「日本国憲法」を履修していること。

2年次憲法演習の履修を希望する者は、この法学基礎演習を履修してください。

講義科目 : 法学基礎演習	単位数 : 2
マークシート略 : [法基礎演]	学習形態 : 選択科目
担当 : 川上 生馬	

#### 講義の内容・方法および到達目標

本講義では、民法に関する具体例・判例を検討する。

判例に基づく学習では、問題分析力や日常の中にある法律問題に気づく力、また報告を行うことでプレゼン力等を養うことができる。

このような法的思考能力は、単に法学を学ぶだけでなくそれを生きた知識とするために必要不可欠なものである。

そこで、本講義では受講生が判例報告を行うことで法的思考能力を習得・修練することを目標とする。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 判例報告①
- 第3回 判例報告②
- 第4回 判例報告③
- 第5回 判例報告④
- 第6回 判例報告⑤
- 第7回 判例報告⑥
- 第8回 判例報告⑦
- 第9回 判例報告⑧
- 第10回 判例報告⑨
- 第11回 判例報告⑩
- 第12回 判例報告⑪
- 第13回 判例報告⑫
- 第14回 判例報告⑬
- 第15回 まとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

ガイダンス時に複数の教材を提示し、その中から報告判例を選択する形を採ることを予定している。

#### 成績評価方法

毎回の報告内容・質問内容により総合的に評価する（平常点100％）。

#### その他

あらかじめ民法Iを履修していることが望ましい。

2年次に民法の演習講義を履修することを予定している場合、本講義を履修していることが望ましい。



講義科目 : 法学基礎演習	単位数 : 2
マークシート略 : [法基礎演]	学習形態 : 選択科目
担当 : 川崎 航史郎	

#### 講義の内容・方法および到達目標

法学基礎演習では、2年次からの演習の準備として、労働や社会保障の実態を理解し、問題の把握をすることを目指します。まずは、各自の関心を発表したのちに、指定した教材に掲載されているテーマを中心に、各参加者が自由に選択した課題を取り上げ、報告を行います。報告者以外は、報告への事前学習と積極的な意見提供を行うことが求められます。報告者はテーマに関連する資料を収集し、綿密な報告の準備が必要です。資料収集の方法や、報告の仕方については演習の最初に指示します。報告は大きなテーマ設定はしますが、内容は関心があることに取り組んでもらって大丈夫です。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 情報収集の方法・情報処理室・図書館の使用方法
- 第3回 報告
- |
- 第15回 同上

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義中に指示します

#### 成績評価方法

平常点（ゼミ中の討論への参加75%）、報告準備・内容（25%）

#### その他

施設見学（児童養護施設、労働基準監督署、裁判所）に行くこともあります。

講義科目	: 法学基礎演習	単位数	: 2
マークシート略	: [法基礎演]	学習形態	: 選択科目
担当	: 楠本 孝		

#### 講義の内容・方法および到達目標

テーマ：犯罪と刑罰に関する基本問題を掘り下げて理解する

概要：刑法の講義で勉強した犯罪と刑罰についての基本問題を掘り下げて考える。講義で扱いきれなかった刑法学の争点について検討するとともに、刑事訴訟法や少年法など隣接する分野の知識を含めて、刑法を体系的に理解することをめざす。

#### 授業計画

ゼミ員は、担当する論文・判例を読み、レポートにまとめ、ゼミで報告する。その報告について、ゼミ員全員で討論する。

#### 教材・テキスト・参考文献等

演習時において指示する。

#### 成績評価方法

ゼミへの貢献度を総合的に評価する。

#### その他

「刑法」及び「刑事政策」を受講すること。

講義科目 : 法学基礎演習	単位数 : 2
マークシート略 : [法基礎演]	学習形態 : 選択科目
担当 : 藤枝 律子	

#### 講義の内容・方法および到達目標

現代の行政における諸問題に関して、事例研究を中心とする多様な観点から検討を試みる。まずは行政法を学ぶ上でこれだけは知っておきたいという判例の判決文や評釈等を読み、ディベート形式で議論をすることで、行政法における基本的な原理を学んでいくようにする。さらに、最近の注目すべき判例や、テレビや新聞等で報道されるニュースを素材にして、行政法をめぐる論点・争点に対する問題意識を持てるようにし、2年次の演習へと繋げていくことを目指す。

#### 授業計画

主なテーマとして

- ① 行政指導
- ② 行政手続
- ③ 行政計画
- ④ 行政処分
- ⑤ 行政準則
- ⑥ 行政上の義務履行の手段
- ⑦ 行政事件訴訟法
- ⑧ 国家補償 等

#### 教材・テキスト・参考文献等

参考資料等は、各回の演習時にその都度のテーマに合わせて提示をする。

#### 成績評価方法

出席、ゼミでの報告や議論など平常点を総合して評価する。

#### その他

検討・報告素材等は、参加者と協議して決める

講義科目 : 刑事政策	単位数 : 2
マークシート略 : [刑事政策]	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠本 孝	

### 講義の内容・方法および到達目標

刑事政策とは、国家が刑罰やこれに類似する諸制度（保安処分や保護処分など）を手段として犯罪に対する闘争を行う場合に依拠すべき諸原則に関する学問である。その射程範囲は広いが、本講では刑事政策の課題を網羅的に扱うのではなく、現在最も重要な課題になっている①死刑存廃論、②少年非行と少年法改正、③精神障害者による犯罪とその対策 ④ストーカーへの対応、に絞って検討したいと思う。

各種の犯罪統計は、わが国の治安が一時期の危険水域を脱し、現在では極めて良好であることを示しているにもかかわらず、各種の世論調査は、国民の多くが依然として「自分も犯罪の被害に遭うのではないか」という不安を抱いているとしている。この「体感治安」の悪化を受けて、政府は「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」なるものを策定し、次々と手を打ってきているが、それらは押しなべて、厳罰化と市民生活への規制強化という特色を持っている。本講は、それらの厳罰化や規制強化が、本当に犯罪情勢の改善に繋がるのかという点について、各人が考える材料を提供していきたい。

### 授業計画

- 1 死刑制度の現況
- 2 死刑存廃論
- 3 終身刑導入をめぐる議論の状況
- 4 少年司法手続の概要
- 5 少年法改正①－厳罰化その1
- 6 少年法改正②－厳罰化その2
- 6 少年法改正③－事実認定手続の改正その1
- 7 少年法改正④－事実認定手続の改正その2
- 8 少年法改正⑤－被害者への配慮と修復的司法
- 9 少年法改正⑥－新たな少年法改正の動き
- 10 少年法改正⑦－残された問題・少年の実名報道
- 11 精神障害者の強制入院制度
- 12 触法精神障害者問題
- 13 心神喪失者等医療観察法
- 14 ストーカー規制法①
- 15 ストーカー規制法②

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は特に指定しない。講義の際に毎回資料を配布するので、これを整理して、テキストの代わりとしてほしい。

ただし、六法は必携。初回の授業から持参するように。

### 成績評価方法

最後の講義日に試験をし、その成績をベースに、小レポートの内容を加味して判断する。試験80%、レポート20%。小レポートは出席確認ではない。内容の無いレポートは評価しない。出席状況は成績評価に関係が無い。

再試験は行わない。

### その他

「刑法」を受講していることが前提の授業になります。

講義科目 : 社会保障法	単位数 : 2
マークシート略 : [社会保障]	学習形態 : 選択科目
担当 : 川崎 航史郎	

#### 講義の内容・方法および到達目標

病気、障害、高齢、失業、育児、介護、労働災害などは、誰にでも生じ、これらをきっかけに容易に貧困に陥る危険がある。これらの状態に遭遇した場合でも、人間らしい生活を送ることを権利として保障するために、憲法は、生存権を保障した。社会保障法は、憲法25条生存権規定を受け、年金、医療、介護、雇用、労災保険などの社会保険制度や福祉サービス提供の仕組みを整え、生活保障を実現する法分野である。本講義は、人々の社会保障に対する権利構造と国等の社会保障実施・生存権保障義務について、講義を行い、法的視点から権利としての生活保障制度を理解することを目的とする。

#### 授業計画

- 第1回 権利としての社会保障受給の意義
- 第2回 社会保障の成立と発展①イギリス
- 第3回 社会保障の成立と発展②日本
- 第4回 国際化と外国籍の社会保障受給権
- 第5回 社会保障法の保障方法(社会保険、社会福祉、社会手当、公的扶助)
- 第6回 生活保護法①生活保護の実態
- 第7回 生活保護法②生活保護の給付構造
- 第8回 生活保護法③保護の補足性
- 第9回 労災補償①労災への使用者の責任
- 第10回 労災補償②労災保険の給付内容
- 第11回 医療保障①医療制度と医療保険
- 第12回 医療保障②医療保険の給付内容
- 第13回 所得保障①年金保険の構造
- 第14回 所得保障②年金保険の給付内容
- 第15回 まとめ(試験)

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義初回に指定する。

#### 成績評価方法

平常点20% (リアクションペーパーを用いて、2・3の課題を示すので、それに回答を記入する。質問や感想、復習なども記入し、次週以降に講師から回答を行う。) 、期末試験80%

講義科目 : 国際法	単位数 : 4
マークシート略 : [国際法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 竹内 徹	

### 講義の内容・方法および到達目標

憲法をはじめとする国内法が国内社会に妥当するルールであるのに対して、国際法は国際社会に妥当するルールである。それは、さしあたり、国家間の約束事と定義することができる。この授業では、現代国際社会で生じる様々な事象を法的観点から把握し、主体的に考察する能力を養うために、国際法の基礎知識を修得する。ニュースや新聞等で報じられる国際的な出来事を、国際法と関連づけて理解できるようになることを到達目標とする。

授業では毎回レジュメを配布するほか、適宜、新聞記事の切り抜き等の資料を配布する。レジュメは口頭の説明を聞かないと理解できないようになっているので、必ず授業に出席してノートをつくるようにすること。

### 授業計画

第1回 オリエンテーション	第16回 海洋法 (2)
第2回 国際社会と国際法	第17回 領域内私人の地位 (1)
第3回 国際連合と国際法	第18回 領域内私人の地位 (2)
第4回 国際法の主体	第19回 領域内私人の地位 (3)
第5回 国際法と国内法の関係	第20回 多数国間条約制度 (1)
第6回 国際法の成立形式	第21回 多数国間条約制度 (2)
第7回 条約法 (1)	第22回 多数国間条約制度 (3)
第8回 条約法 (2)	第23回 刑事国際協力 (1)
第9回 国家の成立および国家機関	第24回 刑事国際協力 (2)
第10回 国家の基本的権利・義務 (1)	第25回 戦争・武力行使違法化
第11回 国家の基本的権利・義務 (2)	第26回 集団的安全保障
第12回 国家の基本的権利・義務 (3)	第27回 武力紛争法
第13回 国家の領域	第28回 国家責任
第14回 領域紛争の諸問題	第29回 紛争の平和的解決 (1)
第15回 海洋法 (1)	第30回 紛争の平和的解決 (2)

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書：杉原高嶺『基本国際法（第3版）』（有斐閣、2018）
- ・参考書：薬師寺公夫ほか（編）『ベーシック条約集2019』（東信堂、2019近刊）

### 成績評価方法

単元の切れ目に小テストを複数回実施する。また、すべての授業終了後に筆記試験（期末試験）を実施する。小テストは国際法の基本的用語を暗記するもの、筆記試験は国際法の重要語句を自分の言葉で説明するものを予定している。小テスト30%、期末試験70%の割合で成績を評価する。

### その他

毎回の授業終わりに、次回に取り扱う教科書の範囲を指示するので、一度読んでくること。授業で配布する新聞記事のコピー等の資料を通読する時間は授業中にはないので、授業後にレジュメやノートと照らし合わせながら読んで理解を深めておくこと。

講義科目	: 法哲学	単位数	: 4
マークシート略	: [法哲学]	学習形態	: 選択科目
担当	: 竹村 和也		

### 講義の内容・方法および到達目標

本講義のねらいは、まずは法哲学・法思想についての基礎的な知識をえることです。さらにこれらの知識を活用して、様々な法現象について考えることも目的となります。法哲学は抽象的な学問であると敬遠されることもありますが、日常生活の問題や社会問題とも密接な関係があり、これらの問題について自分なりの思想を身につけることができれば講義は成功であるといえるでしょう。少なくとも議論の楽しさを理解し、実感してもらえればよいと思っています。

### 授業計画

本講義では、大きな柱として、①法理論、②法思想、③「現代社会の諸問題についての議論」を据えています。①法理論は、「法とは何か」、「正義とは何か」、「裁判官は何をしているのか」を扱います。②法思想は、古代から現近代の代表的思想家の法についての思索を学びます。③「現代社会の諸問題についての議論」では、代理出産・着床前診断・クローン技術などの生命倫理に関する問題や刑事・民法についての最近のトピック、国際社会に関する問題などから、受講者の関心に応じて選んだテーマについて議論したいと思います。

授業は2コマ連続（全体で30回）で行います。以下に具体的な計画を示しておきますが、受講者の関心などにより大幅に変更する可能性があります。

第1週	第1. 2回	イントロダクション、現代社会の諸問題についての議論①
第2週	第3. 4回	法源と自然法、ギリシャの法思想
第3週	第5. 6回	現代社会の諸問題についての議論②、自然法と法実証主義①
第4週	第7. 8回	ローマの法思想・ローマ法・大陸法
第5週	第9. 10回	自然法と法実証主義①、中世の法思想
第6週	第11. 12回	現代社会の諸問題についての議論③、自然法と法実証主義②
第7週	第13. 14回	司法裁量論①、現代社会の諸問題についての議論④
第8週	第15. 16回	裁判官は何をしているのか②、近代自然法論
第9週	第17. 18回	正義とは何か①、現代社会の諸問題についての議論⑤
第10週	第19. 20回	正義とは何か②、フランス啓蒙思想
第11週	第21. 22回	正義とは何か③、ドイツ啓蒙思想
第12週	第23. 24回	現代社会の諸問題についての議論⑥
第13週	第25. 26回	現代法哲学①、歴史法学と法実証主義
第14週	第27. 28回	現代法哲学②、現代社会の諸問題についての議論⑦
第15週		まとめと確認

### 教材・テキスト・参考文献等

テキスト：深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』ミネルヴァ書房、2007年 参考文献については随時授業で指示します。

### 成績評価方法

平常点・レポート・試験で総合的に評価します。これらの割合は、平常点（出席及び特に授業への積極的な参加）30% レポート 30% 試験 40%

### その他

法哲学を履修する学生に限らず、大学生として当然のことですが、社会で起こっている様々な問題に関心を持つということ、また新聞に目を通すということが必要です。

講義科目 : 憲法訴訟論	単位数 : 2
マークシート略 : [憲法訴訟]	学習形態 : 選択科目
担当 : 鎌塚 有貴	

#### 講義の内容・方法および到達目標

講義形式で行う。

違憲審査制度を理解すること。訴訟上の争点が憲法の解釈に関係する事例について扱い、その制度の全体像を捉えるとともに、審査基準論の思考枠組みを整理すること。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 違憲審査制の比較
- 第3回 司法権の範囲
- 第4回 事件性と客観訴訟
- 第5回 憲法訴訟における当事者適格
- 第6回 憲法判断回避の準則・合憲限定解釈
- 第7回 憲法適合的解釈
- 第8回 違憲判断の方法
- 第9回 合理的期間論と事情判決の法理
- 第10回 立法行為の憲法訴訟
- 第11回 違憲判決の効力
- 第12回 判例変更
- 第13回 内容確定型人権と内容形成型人権
- 第14回 違憲審査基準論
- 第15回 まとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

高橋和之『体系 憲法訴訟』（岩波書店、2017年）

加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第2版〕』（啓文堂、2018年）

#### 成績評価方法

筆記試験100%による。

#### その他

授業計画については、進行具合によって変更する場合があります。



講義科目	: 税法	単位数	: 2
マークシート略	: [税法]	学習形態	: 選択科目
担当	: 今井 富久翁	実務経験	: 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ①税金とはどういうもので、税金はなぜ必要なのか？といった「税金」の意義について解説し、税に関する知識の習得と理解を深めることを目標とします。
- ②わが国の租税制度（＝申告納税制度）が円滑且つ民主的に運営されるために、国民の三大義務の一つである「納税義務」を理解し、税に関する関心を持ってもらえるように講義します。

#### 授業計画

- 第1回 租税とは？
- 第2回 租税法の原則
- 第3回 租税法の法源
- 第4回 租税法の解釈
- 第5回 所得税法①
- 第6回 所得税法②
- 第7回 法人税法①
- 第8回 法人税法②
- 第9回 消費税法①
- 第10回 消費税法②
- 第11回 相続税法
- 第12回 地方税法
- 第13回 国際課税
- 第14回 租税手続法
- 第15回 まとめと確認

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義で使用する教材は、レジュメを作成します。

参考文献として、

「租税法」：金子 宏：弘文堂

「税法」法律学全集5：清永 敬次：ミネルヴァ書房

「税金の実務教室」：森下 幹夫：大蔵財務協会

#### 成績評価方法

理解度を筆記試験で判断し、及第点未満の場合は、出席状況や受講態度などを考慮します。

#### 実務経験

昭和58年8月に税理士事務所を開設。所得税・法人税・消費税・相続税を中心とした実務経験に基づいた具体例を参考に、理解しやすい言葉で講義します。

講義科目 : 消費者法	単位数 : 2
マーケット略 : [消費者法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村田 雄介	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・「消費者」問題が、民法を中心とする一般の法理論によってどのように捉えられているのか、そこには、どのような問題・限界が存在するのかを理解すること。
- ・「消費者」問題が、「消費者法」によってどのように規律されようとしているのか、そこには、どのような基本的考え方があるのかを理解し、「消費者」及び「消費者法」の法的な意義を明らかにすること。
- ・個々の法律や条文の解釈というよりも、「生きた消費者法」と「消費者法の基本原理」を学ぶこと。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス、「消費者法」とは何か
- 第2回 全法体系の中の「消費者法」の位置づけ
- 第3回 一般法としての「民法」と特別法としての「消費者法」
- 第4回 「民法」概説
- 第5回 消費者契約① 契約理論
- 第6回 消費者契約② 意思表示
- 第7回 消費者契約③ 契約の拘束力からの解放
- 第8回 消費者法① 特定商取引に関する法律Ⅰ
- 第9回 消費者法① 特定商取引に関する法律Ⅱ
- 第10回 消費者法② 割賦販売法Ⅰ
- 第11回 消費者法② 割賦販売法Ⅱ
- 第12回 消費者法③ 消費者信用
- 第13回 消費者法④ 消費者契約法
- 第14回 消費者法⑤ 製造物責任法
- 第15回 消費者法⑥ 独占禁止法

#### 教材・テキスト・参考文献等

レジュメに基づいて講義をする。一般的な文献及び六法については初回の授業で、その他の重要な文献については各回の授業で適宜紹介する。

#### 成績評価方法

授業内に行う筆記試験（あるいはレポート）で評価する。

全授業回数の3分の2以上の出席がない場合は、評価の対象外とする。

#### 実務経験

三重弁護士会に所属する弁護士。主に民事訴訟（消費者関係訴訟を含む。）を担当。勤務する弁護士事務所での実務経験をもとに、法理論及び判例、被害事例について話をします。

講義科目 : 地方自治法	単位数 : 2
マークシート略 : [地方自治]	学習形態 : 選択科目
担当 : 藤枝 律子	

#### 講義の内容・方法および到達目標

今日の社会において、行政の果たす役割はますます見逃すことができなくなっている。特に身近な行政機関である地方自治体は、我々の生活に深く関わっており、その果たす役割も大きい。現在、国と地方のあり方や役割分担のあり方を問う「地方分権」を巡り、様々な改革の動きが見られている。また、人口減少期を見据えて、広域化・減量化の動きも活発になってきている。その中で、日本の地方自治は、まさに転換期を迎えていると言えよう。憲法における地方自治保障の理念、地方自治の沿革、現行法制の内容、最近の改革の動きについて学び、これからの日本の地方自治の行方について考えていくための基礎的知識を身につけることを目標とする。

#### 授業計画

- 第1回 地方自治とは何か
- 第2回 地方自治の沿革
- 第3回 地方公共団体の種類①
- 第4回 地方公共団体の種類②
- 第5回 地方公共団体の組織-議会
- 第6回 地方公共団体の組織-執行機関①
- 第7回 地方公共団体の組織-執行機関②
- 第8回 地方公共団体の権能と事務①
- 第9回 地方公共団体の権能と事務②
- 第10回 国と地方との関係
- 第11回 住民の権利-直接請求・住民投票制度
- 第12回 住民の権利-住民監査制度・住民訴訟制度
- 第13回 情報公開制度・個人情報保護制度
- 第14回 地方自治の今日的課題
- 第15回 まとめと確認

#### 教材・テキスト・参考文献等

コンパクトなものでよいので六法を持ってくること  
 テキストは、村林守『地方自治のしくみがわかる本』（岩波ジュニア新書）  
 を使用する。  
 参考文献は最初の講義時に提示する。

#### 成績評価方法

記述式の期末テスト70%および平常点30%で評価する。

#### その他

憲法とあわせての受講計画が望ましい。

講義科目 : 社会思想史	単位数 : 2
マークシート略 : [社会思想]	学習形態 : 選択科目
担当 : 伊藤 信也	

#### 講義の内容・方法および到達目標

1. この講義は、隔年で「西洋中心の社会思想史」と「日本中心の社会思想史」を交互に特集しています。今年は日本の社会思想の歴史に注目して学んでいきます。日本の社会思想の理解を通じて、日本の現代社会のあり方を見直すことを目的としています。日本近代史に対する理解を深め、誤解を改めるきっかけとなることでしょう。
2. また、この講義では「貧困からの解放」というサブテーマを設定し、そのテーマに沿った社会思想も取り上げていきます。思想家の人間観や、そこから生まれた社会理解を通じて、私たち自身の現代社会に対する理解を再検討することが、社会と私たちとの関係の本質を理解することにつながります。
3. 具体的な目標としては、「印象」や「傾向」で社会を見るのではなく、「明確な展望をもって社会と向き合える能力」を養うこととします。
4. 講義は可能な限り工夫して進めます。ドキュメンタリー・ビデオの上映など、映像による資料を随時使用していきます。

#### 授業計画

- 第1回 イントロダクション ～社会思想史と日本～
- 第2回 幕末の社会思想（1）～開国要求による幕末の始まり～
- 第3回 幕末の社会思想（2）～社会運動の本質的問題～
- 第4回 明治前期の社会思想（1）～西洋文明との対峙～
- 第5回 明治前期の社会思想（2）～啓蒙の光と影～
- 第6回 映像学習日①〔予定〕
- 第7回 自由民権運動の思想（1）～自由への探求～
- 第8回 自由民権運動の思想（2）～女性解放思想の誕生～
- 第9回 近代日本キリスト者の思想
- 第10回 映像学習日②〔予定〕
- 第11回 大正デモクラシーの思想（1）～母性保護論争～
- 第12回 大正デモクラシーの思想（2）～社会主義、無政府主義～
- 第13回 「昭和」の社会思想（1）～「戦前」思想の諸相～
- 第14回 「昭和」の社会思想（2）～「日本」を総括する思想～
- 第15回 講義のまとめ（レポート提出）

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・テキストは使用しません（毎回プリントを配布します）。必要な資料等はプリントで配布します。その他、参考文献は講義中に提示します。

#### 成績評価方法

1. 講義中に実施する「ミニレポート」（意見提出。配点は約40%）、
2. 講義の最終日に提出する「期末レポート」（配点は約60%）です。

#### その他

1. 第1週に詳細な「授業計画」ならびに「成績評価方法」、講師への問合せ方法を告知します。履修予定者は最初の週にできる限り出席しておいて下さい。
2. 現代の社会問題に関心の高い受講生の履修を求めます。

講義科目 : 地方政治論	単位数 : 4
マークシート略 : [地方政治]	学習形態 : 選択科目
担当 : 立石 芳夫	

### 講義の内容・方法および到達目標

地方政治論は元々、行政学のなかに位置づけられてきたが、近年では、行政学から相対的に独立した分野を形成するようになっている。本講義は、1999年に実施された「第1次地方分権改革」とそれに続く分権改革の到達点を踏まえながら、戦後日本の地方自治制度や地方自治体の現状と課題について考察することを目的としている。

講義は、テキストを使用することなく、レジュメに沿って進めていく。

地域の政治行政に関心を寄せる学生に本講義の受講をすすめたいことはもちろんだが、とくに、地方公務員をめざす学生が実際に採用されて、自治体行政の基本問題を模索する際、本講義はその重要な手がかりを提供することになるう。

### 授業計画

第1回	講義の概要説明	第16回	地方交付税制度
第2回	地方自治とは何か	第17回	補助金制度
第3回	戦前日本の地方制度	第18回	「三位一体改革」
第4回	日本国憲法と地方自治の原則	第19回	革新自治体とその運動
第5回	占領期の地方制度改革	第20回	革新自治体による諸改革
第6回	戦後日本の地方自治制度	第21回	革新自治体運動とその後
第7回	二元代表制	第22回	地方分権改革
第8回	首長の権限	第23回	第一次地方分権改革
第9回	行政委員会・付属機関	第24回	その到達点と課題
第10回	議会の権限	第25回	第二次地方分権改革
第11回	「強い首長と弱い議会」	第26回	その後の改革
第12回	直接請求制度	第27回	介護保険と自治体行政
第13回	住民投票とその運動	第28回	教育委員会制度
第14回	自治体の税財政制度	第29回	NPMと自治体行政
第15回	いわゆる「三割自治」	第30回	講義のまとめ（試験）

### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。

### 成績評価方法

試験で評価する。出欠は毎回とる。出席率が3分の2を下回る受講生は評価対象外とするので、留意していただきたい。

### その他

国政に関する報道と比べて地方政治のそれはやや散発的であるが、重要な出来事については日々のニュース報道で情報収集するように心がけてほしい。

本講義とあわせて、他の政治学関連の科目（政治学原論・行政学など）の履修を勧めたい。

講義科目 : 政治史(政治過程論を含む)	単位数 : 2
マークシート略 : [政治史]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長澤 高明	

#### 講義の内容・方法および到達目標

欧米の政治史を縦軸とし、それらが日本に与えた影響を横軸として考察する。私が一方的に喋るという形はとらず、諸君と対話しながら講義を進める。

日本における近代国民国家の成立や議会制民主主義の確立、および大日本帝国憲法から日本国憲法への転換など、欧米の政治史を知ることにより深い理解ができるようになる。

#### 授業計画

- 第1回 主権国家と国民国家
- 第2回 主権国家体系の成立
- 第3回 市民革命とアメリカ独立戦争
- 第4回 フランス革命とウィーン体制
- 第5回 ドイツ・ビスマルク体制
- 第6回 植民地帝国主義
- 第7回 第一次世界大戦と各国の動き (1)
- 第8回 第一次世界大戦と各国の動き (2)
- 第9回 ベルサイユ体制とワシントン体制
- 第10回 ファシズム期
- 第11回 第二次世界大戦と各国の動き
- 第12回 冷戦期 (1)
- 第13回 冷戦期 (2)
- 第14回 冷戦後の世界 (1)
- 第15回 冷戦後の世界 (2)

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。毎回レジュメを配付する。参考文献はその都度指示する。

#### 成績評価方法

毎回出席をとる。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合は評価対象としない。成績は「出席状況(30%) + 小テスト2回(20%) + レポート(3000字。50%)」の総合評価とする。

#### その他

これまで歴史科目を履修したことのない受講生もいるはずなので、基礎知識を確認しながら講義を進める。歴史科目を履修したことのある受講生は、できれば歴史教科書を読み直しておくこと。

講義科目 : 政治思想史	単位数 : 2
マーケット略 : [政治思想]	学習形態 : 選択科目
担当 : 井口 吉男	

#### 講義の内容・方法および到達目標

ヨーロッパの著名な思想家の政治思想を中心に講じていく。現代は政治・行政のしくみが複雑化した時代である。けれどもむしろこういう時代だからこそ、いにしえの思想家たちが世に残した古典的著作をひもとき、政治について根本的かつ原理的な考察を行うことがよりいっそう大切になってくるのではなかろうか。

各々の思想家がその時代の課題とどう向き合い、どのような政治社会を構想したのか検討することは、今日の政治のあり方を考える上で、また今後の政治のヴィジョンを描く上で重要な作業である。

受講生にはこの講義を通して、政治の領域において「自由」であるとはどういうことなのか、「デモクラシー」（民主主義）を内実あるものにするにはどうすればいいのか、今日の日本の社会において「市民」であるとはどういうことなのかといった事柄について思考する習慣を身につけるようにしてほしい。

#### 授業計画

以下の予定で進めていく。

- 第 1回 ガイダンス  
プラトンの政治思想
- 第 2回 ストア派における「個人」と「国家」
- 第 3回 マキアヴェリの君主論
- 第 4回 カルヴァン——「神」と「政治」
- 第 5回 ホッブズと「リヴァイアサン」
- 第 6回 ロックと市民政治
- 第 7回 モンテスキューと権力分立
- 第 8回 ルソーと「一般意志」
- 第 9回 スミスと「自由放任」
- 第10回 バークの保守思想
- 第11回 トクヴィルと大衆社会
- 第12回 マルクスと共産主義
- 第13回 ヴェーバー——「心情倫理」と「責任倫理」
- 第14回 西欧政治思想における「自由」
- 第15回 まとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は特に使用しない。

#### 成績評価方法

筆記試験（100点）を基本とするが、平常の受講姿勢も加味する。

#### その他

西欧政治思想の世界の奥深さを味わってほしい。

講義科目 : 国際関係論	単位数 : 2
マークシート略 : [国際関係]	学習形態 : 選択科目
担当 : 三瀬 貴弘	

### ● 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 講義内容は、以下の3点である。
  - (1) 国際社会においてまさに今、生じている様々な問題について、政治的・経済的・文化的・歴史的背景を含め、映像を交えて解説する。
  - (2) それらを深く理解するために必要となる、国際関係論の基礎的な理論・考え方を講義する。
  - (3) 理論と現実の相互作用に注目しながら、国際政治経済学の重要概念である国際公共財を援用し、近年の日米関係の実態について講義する。
- ・ 講義方法は、毎回の講義を以下の4部で構成する。
  - ① 15分間「頭の体操」……ドラえもん・サッカー・ドラクエなど身近なテーマから脳トレ風のクイズ形式で頭をほぐしつつ国際関係論を勉強する。
  - ② 55分間「理論講義」……詳細な穴埋め式のレジュメを配布、それに基づいて講義する。
  - ③ 15分間「映像資料」……最新の国際情勢を、映像資料を通じ視覚的に学習する。
  - ④ 5分間「感想記入」……自分なりに講義を総括し、分かったことを文章化し整理する。
- ・ 到達目標は、国際関係論・国際政治経済学に関する基礎知識の習得、ならびにそれに基づく、1980年代以降の日米関係、国際社会の諸問題を把握できるようになること。

### ● 授業計画 (②55分間の理論講義の内容)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 国際関係とは
- 第3回 国際関係論と国際政治経済学の関係
- 第4回 国際関係論の誕生①
- 第5回 国際関係論の誕生②
- 第6回 リアリズムとリベラリズム①
- 第7回 リアリズムとリベラリズム②
- 第8回 リアリズムの隆盛と行き詰まり①
- 第9回 リアリズムの隆盛と行き詰まり②
- 第10回 学術的政経架橋①
- 第11回 覇権安定論①
- 第12回 覇権安定論②
- 第13回 相互依存論
- 第14回 国際政治学に基づくポスト冷戦秩序の構築
- 第15回 講義のまとめ

- ・ 「③15分間の映像資料」は、日本の安全保障戦略、トランプの外交政策、中東問題、貧困・格差問題、北朝鮮情勢、世界遺産……最新のトピックを随時取り入れる予定。

### ● 教材・テキスト・参考文献等

- ・ 参考文献 坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年

### ● 成績評価方法

- ・ 基本的にレポートのみ(レポート100%)で評価する予定。学生の要望があれば、出席や授業への貢献度も加味する。その場合、講義中に説明するが、最低でもレポートの比重は90%とする。

### ● その他

- ・ 国際政治にとどまらず、多様な観点から国際関係から勉強するため、専攻を問わず、さまざまな学生の受講を歓迎する。
- ・ 詳細なレジュメを毎回配布するので、講義中に理解できなかった場合、家で復習すること。講義に関する文献を毎回数冊紹介し希望者にその場で貸し出す「講義図書館」を実施する。講義で感じた「何かしらの引っかかり」を契機として、関心ある問題について自主的に勉強するサイクルを確立して欲しい。



講義科目 : 地域政策論	単位数 : 2
マークシート略 : [地域政策]	学習形態 : 選択科目
担当 : 小野寺 一成	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

地域政策とは、地域問題を把握し、その解決を図る政策のことである。地域政策は、人口の減少・超高齢化、経済等の国際化、財政の困難等多くの課題に直面しながらも、その地域をより良くしていくよう活性化していくことを目的としている。本講義では、豊かな地域を実現するために必要な社会資本などの国土政策を中心として、県内市町村などの具体例をあげながら講義し、地域の活性化を考えていく基礎知識を身につけることを目標としている。

#### 授業計画

第1回	ガイダンス：地域政策とは、国土のグランドデザイン
2回	社会資本の歴史とその役割
3回	社会資本を取り巻く社会の状況
4回	今後の社会資本のあり方 ー維持管理ー
5回	今後の社会資本のあり方 ー将来を見越した取り組みー
6回	社会資本に関する国土交通行政の方向
7回	観光立国と美しい国づくり
8回	中間試験
9回	東日本大震災からの復興に向けた取り組み
10回	美しく良好な環境の保全と創造
11回	安全・安心社会
12回	競争力のある社会
13回	心地よい生活空間づくり
14回	地域活性化の推進
15回	まとめと確認

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・基本的には、Power Point を使用した講義。ppt資料などを配布。
- ・テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用を予定。

#### 成績評価方法

- ・中間試験、最終講義時試験、講義後のキーワード、出席をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

#### 実務経験

- ・都市計画コンサルタントに勤務し、総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅建替計画などを策定した。授業では、これらの実務経験を活かした実践的な基礎知識及び計画力の養成に努める。

#### その他

- ・授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な小試験を予定。

講義科目 : 環境政策論	単位数 : 2
マークシート略 : [環境政策]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有 哲	

#### 講義の内容・方法および到達目標

21世紀の市民にとっては、環境問題について生活者の立場から発言し行動するだけでは、おそらく不十分であり、主権者として環境政策に積極的にかかわっていくことが求められるものと考えられる。本講義においては、環境政策を考える上での基本的な概念となる「環境問題」「市場経済」「国家」について概観した後、現代における環境政策の核心ともいえる「気候政策」について説明し、あるべき環境政策のあり方について考察する予定である。

#### 授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 環境問題とは何か
- 第3回 環境破壊の人類史①
- 第4回 環境破壊の人類史②
- 第5回 工業化について
- 第6回 グローバル市場経済の仕組み①
- 第7回 グローバル市場経済の仕組み②
- 第8回 市場経済と国家
- 第9回 南北格差の歴史と現状①
- 第10回 南北格差の歴史と現状②
- 第11回 気候政策の国際的展開①
- 第12回 気候政策の国際的展開②
- 第13回 日本における気候政策①
- 第14回 日本における気候政策②
- 第15回 試験とまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義中適宜指示する。

#### 成績評価方法

- ・ 毎回小レポート…50%
- ・ 試験…50%

講義科目 : 統計学	単位数 : 2
マークシート略 : [統計学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 宮西 基明	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・大量のデータを整理し、全体の性質を読み取る能力を身につけます。
- ・平均値、標準偏差の求め方、グラフの作成方法を修得します。
- ・統計解析で得られる数値の意味、正規分布、母集団と標本など統計に関する法則、確率と統計について理解を深めていきます。
- ・解説と練習を適宜組み合わせることで進めていきます。

#### 授業計画

- 第1回 代表値：最頻値、中央値、平均値
- 第2回 ばらつきを表す量：範囲、平均偏差、標準偏差
- 第3回 度数分布表の作成
- 第4回 ヒストグラム、平均値と標準偏差の概略値の求め方
- 第5回 様々な分布の形、正規分布
- 第6回 標準正規分布、正規分布表の見方
- 第7回 正規分布の標準化と個数の推定
- 第8回 母集団と標本、標本の選び方、乱数
- 第9回 t分布、t分布表の見方
- 第10回 標本からの推定、平均値の信頼区間
- 第11回  $\Sigma$ を用いた計算
- 第12回 カイ2乗分布、カイ2乗検定
- 第13回 二項分布と正規分布
- 第14回 回帰直線と相関
- 第15回 まとめと筆記試験

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書：石井俊全著『意味がわかる統計学』ベレ出版。
- ・参考書：入門書として大村平著『今日から使える統計解析』講談社
- ・より専門的な内容の参考書を揃え自主的に学習することを希望します。
- ・随時プリントを配布します。

#### 成績評価方法

- ・欠席は5回以内とし、それ以上は評価の対象外とします。
- ・成績は小テスト30%、筆記試験70%として評価します。  
小テストは10回程度を予定しています。小テストは練習と理解度の確認、平常の取り組みも考慮して成績に加点します。

#### その他

- ・平方根を求めることができる電卓を用意して下さい。
- ・毎回出席をとります。欠席、遅刻のないように注意して下さい。

講義科目 : 経済原論	単位数 : 4
マーケット略 : [経済原論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田添 篤史	

### 講義の内容・方法および到達目標

経済学には、企業や消費主体の最適化に基づく個別主体の選択とその結果に焦点をあてるミクロ経済学と、経済を個々の主体の単純な合成としては把握せず、一つの独自の総体として取り扱い経済全体での動きを考えるマクロ経済学が存在しています。この講義では第2回から第16回においてミクロ経済学、第17回から第29回でマクロ経済学を取り扱います。この講義を通じて経済学の基本的な考え方を身につけることを目標とします。

### 授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	独占企業の行動
第2回	経済学の全体像 - 様々な考え方	第17回	マクロ経済学の基本像
第3回	ミクロ経済学の基本像	第18回	財市場の分析(1)
第4回	消費者の理論(1)	第19回	財市場の分析(2)
第5回	消費者の理論(2)	第20回	財市場の分析(3)
第6回	消費者の理論(3)	第21回	財市場の分析(4)
第7回	労働供給の決定	第22回	資産市場の分析(1)
第8回	企業の生産量決定(1)	第23回	資産市場の分析(2)
第9回	企業の生産量決定(2)	第24回	資産市場の分析(3)
第10回	企業の生産量決定(3)	第25回	資産市場の分析(4)
第11回	完全競争市場均衡(1)	第26回	IS-LM分析(1)
第12回	完全競争市場均衡(2)	第27回	IS-LM分析(2)
第13回	余剰分析(1)	第28回	IS-LM分析(3)
第14回	余剰分析(2)	第29回	経済成長の源泉
第15回	外部経済	第30回	まとめおよびテスト

### 教材・テキスト・参考文献等

#### テキスト

石川秀樹（著）中央経済社

『試験攻略 新・経済学入門塾1 マクロ編』

『試験攻略 新・経済学入門塾2 ミクロ編』

このほか、資料を配布します

### 成績評価方法

出席点：30%

期末テスト：70%

講義科目 : 経済史	単位数 : 4
マークシート略 : [経済史]	学習形態 : 選択科目
担当 : 茂木 陽一	

#### 講義の内容・方法および到達目標

●本年度講義では、世界と日本の人口変動と貨幣・物価変動を軸にした経済発展について講じます。その上で、近代日本の経済発展を戦争・植民地支配と短・中・長期の経済変動、とりわけ世界恐慌＝昭和恐慌との関連で概観し、近代日本のアポリア（難問）に対する一定の解答を示します。

#### 授業計画

第1回	経済史とは何か？	第16回	貨幣の誕生
2回	人口史の方法	17回	江戸期の三貨制度
3回	人類の誕生と農耕革命	18回	藩札と私札
4回	前近代の人口と経済	19回	文政期インフレ成長仮説
5回	価格革命と産業革命	20回	近代幣制の成立
6回	近代経済成長と人口増加	21回	「円」の誕生
7回	人口転換と近代家族	22回	銀行システムの成立と産業革命
8回	人口波動と日本の歴史	23回	金本位制と三環節構造
9回	経済社会化と第三の波動	24回	恐慌と金本位制度の動揺
10回	近代日本の経済成長と第四の波動	25回	総力戦体制と管理通貨制度
11回	人口減少社会と経済変動	26回	敗戦と戦後復興
12回	少子高齢化と第二人口転換	27回	高度経済成長
13回	近代家族の解体	28回	近代日本の戦争・軍隊・植民地
14回	途上国の人口問題	29回	戦争と経済発展
15回	まとめと確認－中間試験	30回	まとめと確認－期末試験

#### 教材・テキスト・参考文献等

- 講義の際に資料とレジュメを配布し、それにしたがって講義を進めます。
- 適宜講義録を配布します。復習のための資料ですが、配付資料とこの講義録を合わせると、テキストになります。
- 講義の参考になる文献として以下のものを挙げておきます。  
G. クラーク『10万年の世界経済史』上・下（日経BP社）、鬼頭宏『人口から読む日本の歴史』（講談社学術文庫）

#### 成績評価方法

- 評価は小レポート①～⑥（各5点、合計30点）、中間試験（35点）、期末試験（35点）の合計で行います。合計が60%以上で可、70%以上で良、80%以上で優とします。また1/3以上欠席した者は無資格とします。出席点はありません。

#### その他

- 毎回出席カードを配付します。質問・要望のある人はカードに書いて下さい。どんな質問でもなるべく丁寧に回答します。
- 正当な理由がある場合以外の遅刻・早退は認めません。私語をやめなかったり、居眠りをしたりする者には退室してもらうことがあります。

講義科目 : 経済政策	単位数 : 4
マークシート略 : [経済政策]	学習形態 : 選択科目
担当 : 森岡 洋	

#### 講義の内容・方法および到達目標

①資本主義経済の特徴は市場経済で運営されていることと私有財産制度が存在することである。この資本主義経済ではどのような解決すべき課題が存在するのか、完全雇用と景気調整の安定化政策および分配政策という解決すべき課題を中心に経済政策について述べる。

②また、経済学の観点から経済政策を考える場合、経済的厚生という概念を使う。この概念を式で示したものに社会的厚生関数があり、このことについても述べる。

#### 授業計画

第1回 資本主義経済と私有財産制度	第16回 前期学習内容のまとめ
第2回 資本主義経済と市場経済	第17回 ケインズ経済学の体系
第3回 資本主義経済の長所	第18回 古典派経済学の労働市場
第4回 短所と経済政策の必要性	第19回 ケインズ経済学の労働市場
第5回 経済政策の形態	第20回 ケインズ経済学の生産物市場
第6回 経済政策の主体、目的、手段	第21回 生産物市場での消費と投資
第7回 経済的厚生について	第22回 生産物市場と景気循環
第8回 ピグーの三命題	第23回 貨幣市場での貨幣供給
第9回 バーグソンの社会的厚生関数	第24回 貨幣市場での貨幣需要
第10回 最適な経済政策とは	第25回 貨幣市場での利子率の決定
第11回 経済発展と所得分配	第26回 ケインズ経済学の金融政策
第12回 ローレンツ曲線とジニー係数	第27回 金融政策の限界
第13回 日本経済での所得格差の拡大	第28回 ケインズ経済学の財政政策
第14回 ピグーの所得分配論	第29回 財政政策の問題点
第15回 格差解消の経済政策	第30回 後期学習内容のまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義中に講義内容に沿ったプリントを配布する。

#### 成績評価方法

講義は毎回出席をとる。講義には3分の2以上出席しなければならない。

講義が半分ほど経過したとき講義の前期のまとめの論述形式でのテストを行う。最終試験で講義の後半部分のまとめの論述形式でのテストを行う。

評価は、中間テスト45%、最終試験45%、出席等学習意欲で10%とする。

講義科目 : 金融論	単位数 : 4
マークシート略 : [金融論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 石原 洋介	

### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 貨幣の役割や金融制度の仕組みを学び、金融に関する基礎知識や金融リテラシー（お金の知識・判断力）を身につけられるようにする。金融で上手に儲けるやり方を伝授するわけではない。
- ・ 金融に関する近年のトピックや最新の統計データを紹介しながら、日本と世界の金融動向や金融政策の特徴について理解が深まるように努める。学生が、それらの情報から現代社会の課題を発見し、事実に基づき分析し、課題解決に向けて考察する力を涵養することを本講義の目標とする。

### 授業計画

各テーマをそれぞれ2～3回の講義で説明していく予定である。

第1回	ガイダンス、貨幣の歴史①	第16回	日本の財政と国債②
第2回	貨幣の歴史②	第17回	短期金融市場①
第3回	商品と貨幣、貨幣の発生①	第18回	短期金融市場②
第4回	商品と貨幣、貨幣の発生②	第19回	長期金融市場①
第5回	貨幣の機能、通貨の発行①	第20回	長期金融市場②
第6回	貨幣の機能、通貨の発行②	第21回	日本銀行と金融政策①
第7回	資本循環、企業の資金調達①	第22回	日本銀行と金融政策②
第8回	資本循環、企業の資金調達②	第23回	日本銀行と金融政策③
第9回	日本の金融機関（前編）①	第24回	国際収支と外為市場①
第10回	日本の金融機関（前編）②	第25回	国際収支と外為市場②
第11回	日本の金融機関（後編）①	第26回	国際収支と外為市場③
第12回	日本の金融機関（後編）②	第27回	デリバティブ市場①
第13回	銀行融資と金利①	第28回	デリバティブ市場②
第14回	銀行融資と金利②	第29回	サブプライム危機①
第15回	日本の財政と国債①	第30回	サブプライム危機②

### 教材・テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用しない。各テーマの最初の講義でレジュメを配付する。

### 成績評価方法

レポート提出による評価（70%）及び出席点（30%）にて成績評価を行う。  
レポート課題は最初の講義（ガイダンス）で発表する。

### その他

関連講義として「統計学」「経済原論」「経済政策」「簿記原理」「財政学」「商法Ⅱ」等の履修を推奨する。また、新聞を毎日読むように。

講義科目 : 財政学	単位数 : 4
マークシート略 : [財政学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 大畑 智史	

#### 講義の内容・方法および到達目標

現在、日本をみても、国や地方自治体は、災害対応、教育、などの面において重要な存在です。本講義では、主として、そうした主体は現在どのような形で運営されているのか、その状況はどうか、などの点を、とりわけ国家の場合（日本）に焦点をあてて説明します。本講義は、そうしたことにより、受講生が、我々の日常生活に身近な国家財政について専門的に考察できることを目標とします。

#### 授業計画

1	オリエンテーション	16	法人課税
2	財政学の歴史	17	法人課税
3	財政学の歴史	18	中間テスト
4	財政の範囲と規模	19	消費課税
5	財政の機能	20	消費課税
6	予算	21	資産課税
7	予算	22	資産課税
8	予算	23	国際課税
9	公共財	24	公債
10	公共財	25	公債
11	公共財	26	国と地方との財政関係
12	租税の基礎	27	国と地方との財政関係
13	租税の基礎	28	社会保障
14	所得課税	29	社会保障
15	所得課税	30	まとめ、最終テスト

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは指定しませんが、下記の文献を参考文献として挙げておきます。

池上惇『財政思想史』有斐閣、2002年

植田和弘、諸富徹 編『テキストブック 現代財政学』有斐閣、2016年

持田信樹『地方財政論』東京大学出版会、2013年

『図説 日本の財政』東洋経済新報社（各年度版）

『図説 日本の税制』財経詳報社（各年度版）

#### 成績評価方法

中間テスト：20%

講義内容についての感想（複数回）：20%

最終テスト：60%

#### その他

・経済政策、地方財政論、などの科目も履修することをお勧めします。



講義科目 : 経営学	単位数 : 4
マークシート略 : [経営学]	学習形態 : 選択科目
担当 :	

後日揭示

講義の内容・方法および到達目標

授業計画

第1回	第16回
第2回	第17回
第3回	第18回
第4回	第19回
第5回	第20回
第6回	第21回
第7回	第22回
第8回	第23回
第9回	第24回
第10回	第25回
第11回	第26回
第12回	第27回
第13回	第28回
第14回	第29回
第15回	第30回

教材・テキスト・参考文献等

成績評価方法

その他

講義科目 : マーケティング論	単位数 : 4
マークシート略 : [マーケテ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 鷲尾 和紀	

#### 講義の内容・方法および到達目標

本講義は最初にマーケティングの原理を学びます。さらに経済における活動に生産と消費がある中で、マーケティング戦略論の主な課題である企業への顧客または市場・環境への対応、競合への対応、手法について学びます。マーケティングは「売れる仕組み」を考えます。またその目標は顧客の価値創造と維持であります。マーケティング戦略の本質を様々な事例を通して理解していくことが授業の到達目標であります。

#### 授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	ブランド戦略①
2回	マーケティング戦略の意義	17回	ブランド戦略②
3回	マーケティング・コンセプト	18回	価格戦略①
4回	需要・顧客価値、競争とマーケティング	19回	価格戦略②
5回	マーケティング・マネジメントの基本	20回	チャネル戦略①
6回	市場機会の分析と発見	21回	チャネル戦略②
7回	SWOT分析(外部)	22回	コミュニケーション戦略①
8回	SWOT分析(内部)	23回	コミュニケーション戦略②
9回	市場細分化	24回	製品ライフサイクル
10回	標的市場の設定	25回	サービスマーケティング①
11回	ターゲティング	26回	サービスマーケティング②
12回	ポジショニング①	27回	商学について
13回	ポジショニング②	28回	流通論
14回	製品戦略①	29回	デジタル・マーケティング
15回	製品戦略②	30回	学習内容のまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

鷲尾和紀・鷲尾紀吉(2017)『マーケティング戦略論』発行：創成社

#### 成績評価方法

- ・テスト
- ・出席を毎回していれば自然とテストの点数が取れます。授業態度等。

#### その他

毎回ではないが簡単な小テストまたはレポートを実施する場合があります。

受動ではなく能動に学生が主体的に考え、教員と学生がコミュニケーションをし、また将来への意識付けができるような授業を目指します。

日常生活においてマーケティングはあらゆるところに存在しています。日々の生活からマーケティングをイメージできるようになれば楽しくなります。

講義科目	: 簿記原理	単位数	: 4
マーケット略	: [簿記原理]	学習形態	: 選択科目
担当	: 稲山 訓央		

### 講義の内容・方法および到達目標

会計学を履修するための基本的ツールである簿記の諸手続きを理解するとともに、十一月試験で日本商工会議所簿記検定三級に合格できるだけの力を養成することを目的とします。

### 授業計画

- 第1回 貸借対照表と損益計算書
- 第2回 取引と勘定
- 第3回 仕訳と転記
- 第4回 決算の基礎
- 第5回 現金・預金
- 第6回 商品売買
- 第7回 手形
- 第8回 有価証券・固定資産
- 第9回 その他の資産・負債
- 第10回 その他の取引
- 第11回 伝票
- 第12回 試算表
- 第13回 決算準備手続
- 第14回 決算本手続の財務諸表の作成
- 第15回 学習内容の確認とふりかえり

注) 1回分は、講義2回分相当量です。

### 教材・テキスト・参考文献等

実教出版『日商簿記ゼミ3級 問題演習』蛭川幹夫 著

曠野会『ぼきのじゅもん基礎編』稲山訓央 著

### 成績評価方法

学習内容の確認(100点)に出席状況(15点)を加算し、評価します。

但し、100点を超える評価、および再度学習内容の確認は行いません。

### その他

簿記は積み上げていく科目ですので、まず出席が重要な科目であると了解しておいてください。

講義科目	: 会計学	単位数	: 4
マークシート略	: [会計学]	学習形態	: 選択科目
担当	: 田中 里美		

#### 講義の内容・方法および到達目標

会計学は、企業や官庁や家計など一定の経済主体を単位として行う会計行為に関する学問のことを指します。企業がおこなう会計行為を企業会計と言い、本講義では企業会計を中心に学習します。会計学の細分化された専門科目を学ぶためには会計に関する一定の基礎知識が必要となります。本講義では、日本の会計基準の形成過程を踏まえ、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書について学習します。

#### 授業計画

第1回 ガイダンス	第16回 確認テスト②と総括
第2回 会計学の基礎知識	第17回 会計コンバージェンスと新会社法①
第3回 日本の会計規制のはじまり①	第18回 会計コンバージェンスと新会社法②
第4回 日本の会計規制のはじまり②	第19回 中小会社会計①
第5回 企業会計原則の設定	第20回 中小会社会計②
第6回 トライアングル体制	第21回 確認テスト③と総括
第7回 会計制度の国際化①	第22回 確認テストまとめ
第8回 会計制度の国際化②	第23回 貸借対照表の見方
第9回 確認テスト①と総括	第24回 損益計算書の見方
第10回 引当金制度①	第25回 キャッシュ・フロー計算書の見方
第11回 引当金制度②	第26回 決算書分析指導①
第12回 減価償却制度①	第27回 決算書分析指導②
第13回 減価償却制度②	第28回 決算書分析指導③
第14回 資本金会計①	第29回 試験と総括
第15回 資本金会計②	第30回 全体のまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

- 田中里美『会計制度と法人税制』唯学書房。
- 矢島雅巳『決算書はここだけ読もう』弘文堂。

#### 成績評価方法

- 期末試験（40%）、確認テスト3回分（60%、1回あたり20%）を基準に評価をします。

#### その他

- 授業の進捗度に応じて授業計画が変更される場合があります。
- 電卓をご用意下さい。

講義科目 : 日本経済論	単位数 : 2
マーケット略 : [日本経済]	学習形態 : 選択科目
担当 : 鷲尾 和紀	

#### 講義の内容・方法および到達目標

我が国の経済環境変化は我々にとって生活そのものを変化させている。今日家計や企業を取り巻く環境にはさまざまな課題が表出している。これらの課題を取り組むためにどう経済を読み解くのか事例を交えて解説していく。また新聞記事や各庁が発行する白書の内容が理解できるようになることを目標とする。

#### 授業内容

第1回	オリエンテーション
第2回	現代経済の仕組み
第3回	日本経済の姿・全体像
第4回	日本経済の歩み①～高度経済成長期
第5回	日本経済の歩み②～バブル経済
第6回	日本経済の歩み③～21世紀
第7回	日本経済の歩み④～次世代
第8回	企業活動①～企業とは何か、会社は誰のものか？
第9回	企業活動②～グローバル化、IT化
第10回	少子高齢化と社会保障制度
第11回	労働①～AI化に向けて
第12回	労働②～若年者、女性の就労、人生100年時代の人材育成
第13回	労働③～今日の諸問題―二極化、格差社会
第14回	経済と環境問題
第15回	まとめ、テスト

#### テキスト

浅子和美・飯塚信夫・篠原総一『入門・日本経済 第5版』 有斐閣、2015年3月

#### 成績評価方法

- ・テスト
- ・出席を毎回していれば自然とテストの点数が取れます。

#### その他

毎回ではないが簡単な小テストまたはレポートを実施する場合があります。

受動ではなく能動に学生が主体的に考え、教員と学生がコミュニケーションをし、また将来への意識付けができるような授業を目指します。

講義科目 : 国際経済論	単位数 : 2
マーケット略 : [国際経済]	学習形態 : 選択科目
担当 : 石原 洋介	

### 講義の内容・方法および到達目標

- ・現代グローバリゼーションの特徴と課題を探るため、ブレトンウッズ体制の成立と崩壊過程の紹介し、日本と東アジアにおいてグローバル化が与えてきた経済、金融、政治への影響を解説する。学生には、国際社会の一員ないしアジアの一員としての視野を身につけ、今後直面するであろう国際的課題について認識を深めてもらうことを目標とする。もとより、国際的課題に単純な解決法はなく、柔軟な発想と粘り強い行動が必要である。学生諸君には、そうした点もふまえながら、よりよい国際経済のあり方について考える契機となることを期待する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自由貿易理論と保護貿易理論、比較生産費説と幼稚産業保護論
- 第3回 戦後ブレトンウッズ体制①——IMF（国際通貨基金）——
- 第4回 戦後ブレトンウッズ体制②——世界銀行——
- 第5回 戦後ブレトンウッズ体制③——GATTからWTOへ——
- 第6回 新自由主義理論の台頭
- 第7回 アジア通貨危機① 危機発生 of 諸要因
- 第8回 アジア通貨危機② 危機発生 of 諸要因（つづき）
- 第9回 アジア通貨危機③ 通貨危機への対応の2つの道
- 第10回 アジア通貨危機④ 通貨危機再発防止への取組
- 第11回 グローバリズムとリージョナリズム① FTA急増の背景
- 第12回 グローバリズムとリージョナリズム② 日本のFTA戦略
- 第13回 グローバリズムとリージョナリズム③ TPPを考える
- 第14回 グローバリズムとリージョナリズム④ TPPと食の安全
- 第15回 新たなグローバリズムの可能性

### 教材・テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用せず、毎回配布するレジユメをもとに講義を進める。

### 成績評価方法

レポート提出による評価（70%）及び出席点（30%）にて成績評価を行う。  
レポート課題は最初の講義（ガイダンス）で発表する。

### その他

新聞を毎日読むことを心がけて下さい。

講義科目 : 地方財政論	単位数 : 2
マークシート略 : [地方財政]	学習形態 : 選択科目
担当 : 大畑 智史	

#### 講義の内容・方法および到達目標

現在、日本をみても、国や地方自治体は、災害対応、教育、などの面で重要な存在です。本講義では、主として、そうした主体は現在どのような形で運営されているのか、その状況はどうか、などの点を、特に日本の地方自治体の場合に焦点をあてて説明します。本講義は、そうしたことにより、受講生が、我々の日常生活に身近な地方自治体の財政に関し専門的に考察できることを目標とします。

#### 授業計画

第1回	オリエンテーション
2回	地方自治体の役割
3回	地方分権と公共財
4回	予算制度と経費の膨張
5回	地方税
6回	地方税
7回	補助金
8回	国と地方との財政関係
9回	国と地方との財政関係
10回	地方債
11回	地方財政健全化
12回	地方公営企業と第3セクター
13回	公会計
14回	地方財政改革
15回	まとめ、最終テスト

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは指定しませんが、下記の文献を参考文献として挙げておきます。

植田和弘、諸富徹 編『テキストブック 現代財政学』有斐閣、2016年

持田信樹『地方財政論』東京大学出版会、2013年

『図説 日本の財政』東洋経済新報社（各年度版）

『図説 日本の税制』財経詳報社（各年度版）

#### 成績評価方法

最終テスト：70%

講義内容についての感想（複数回）：30%

#### その他

・経済政策、財政学、などの科目も履修することをお勧めします。

講義科目 : 経済学史	単位数 : 2
マーケット略 : [経済学史]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田添 篤史	

#### 講義の内容・方法および到達目標

経済学の歴史を学びながら、現代の経済学がどのような流れの中で生み出されてきたのかを理解していきます。それにより経済学の基本的な考え方を身につけることを目標とします。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アダム・スミス(1)
- 第3回 アダム・スミス(2)
- 第4回 アダム・スミス(3)
- 第5回 リカード(1)
- 第6回 リカード(2)
- 第7回 リカード(3)
- 第8回 マルクス(1)
- 第9回 マルクス(2)
- 第10回 マルクス(3)
- 第11回 限界革命
- 第12回 マーシャル(1)
- 第13回 マーシャル(2)
- 第14回 ケインズ(1)
- 第15回 ケインズ(2)

#### 教材・テキスト・参考文献等

松尾匡『対話でわかる 痛快明解 経済学史』日経BP社  
このほか、適宜資料を配布します。

#### 成績評価方法

出席点 : 30%

期末レポート : 70%

#### その他

経済学の知識については特に必要としません。



講義科目 : 環境経済論	単位数 : 2
マークシート略 : [環境経済]	学習形態 : 選択科目
担当 : 森岡 洋	

#### 講義の内容・方法および到達目標

環境に関心のある学生が環境経済学の基本的考え方や分析方法を理解できるようになってもらう。

環境問題が発生するメカニズムを明らかにするとともに、経済学の観点から環境問題を解決する具体的な対策を明らかにする。

#### 授業計画

- 第1回 ごみ問題と循環型社会
- 第2回 外部性と市場の失敗
- 第3回 限界社会的費用について
- 第4回 外部性の内部化
- 第5回 共有資源の利用と管理
- 第6回 漁業資源の管理
- 第7回 公共財とフリーライダー
- 第8回 直接規制と市場メカニズム
- 第9回 琵琶湖の水質管理と直接規制
- 第10回 自主規制
- 第11回 環境税
- 第12回 環境税による経済的厚生改善
- 第13回 地球温暖化問題
- 第14回 温暖化政策と今後の課題
- 第15回 学習内容のまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

栗山浩一・馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ』有斐閣

#### 成績評価方法

出席を3分の2以上すること。

最後に学習内容のまとめの筆記試験を行う。評価として、試験90%、出席・講義への取組み意欲10%として行う

講義科目 : 経営管理論	単位数 : 2
マークシート略 : [経営管理]	学習形態 : 選択科目
担当 : 的場 竜一	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 経営学の理論を歴史にそって学ぶ
- ・ 時事問題を経営管理の視点から考える
- ・ アメリカと中国とのあいだで経済的摩擦が著しいが、そのなかで日本の果たす役割を考える

#### 授業計画

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：企業経営の始まり、イギリス産業革命
- 第3回：経営管理の嚆矢、テイラーの科学的管理法
- 第4回：フォードシステムの誕生
- 第5回：トヨタ生産方式への発展
- 第6回：日本的生産システムの国際的評価
- 第7回：日本的生産システムの課題と再編
- 第8回：中間テスト
- 第9回：中間テストの振り返りとこれまでの復習
- 第10回：経済大国化する中国と新たな生産システム
- 第11回：経営管理をめぐる問題1（中小企業の経営）
- 第12回：経営管理をめぐる問題2（日本の雇用とモノづくり）
- 第13回：経営管理をめぐる問題3（グローバル化と日本企業）
- 第14回：経営管理をめぐる問題4（台頭するアジア）
- 第15回：テスト

#### 教材・テキスト・参考文献等

とくに指定はしない。適宜、指示する。

#### 成績評価方法

コメントカード20%、中間テスト20%、テスト40%

#### その他

出席は取らないが授業後のコメントカードも成績評価に含まれるのでなるべく出席すること。講義の内容に関しては進捗状況などを考慮し、変更することもあり得る。

講義科目 : 経営財務論	単位数 : 2
マークシート略 : [経営財務]	学習形態 : 選択科目
担当 : 上木 敏正	

#### 講義の内容・方法および到達目標

##### (1) 講義の内容・方法

経営財務の基礎的内容を中心とした座学講義。

##### (2) 到達目標

- ・ 経営財務の知識を習得する。経営財務の意義を理解する。
- ・ 経営財務の諸理論を学ぶことにより、論理的思考を身に付ける。
- ・ 資本の流れを通じて企業の経営活動を見る目を養う。

#### 授業計画

講義の具体的な方針等は第1回講義時に説明します。

第1回	第0章 講義内容ガイダンス	第1章 経営財務の本質
2回	第1章 経営財務の本質	第2章 経営財務の(研究)目的
3回	第2章 経営財務の(研究)目的	第3章 財務計画
4回	第3章 財務計画	第4章 運転資本管理
5回	第4章 運転資本管理	第5章 資本予算
6回	第5章 資本予算	
7回	第5章 資本予算	第6章 長期資本調達
8回	第6章 長期資本調達	第7章 資本コスト・資本構成の理論
9回	第7章 資本コスト・資本構成の理論	第8章 配当政策
10回	第8章 配当政策	第9章 企業評価
11回	第9章 企業評価	第10章 ポートフォリオ理論
12回	第10章 ポートフォリオ理論	第11章 資本資産評価モデル
13回	第11章 資本資産評価モデル	第12章 デリバティブ
14回	第12章 デリバティブ	第13章 その他トピックス
15回	まとめテスト	

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義ノートと配付資料による講義を行います。テキストは指定しません。当面の参考図書は以下のものです：細井卓『財務管理論』中央経済社、1981年。諸井勝之助『経営財務講義〔第二版〕』東京大学出版会、1989年。市村昭三編著『財務管理論』創成社、1995年。若杉・斎藤・丸山『経営財務』有斐閣、1998年。井手・高橋『経営財務入門〔第4版〕』日本経済新聞社、2009年。

#### 成績評価方法

第14回講義までのうち合計9回以上出席した受講生を対象に、まとめテスト(100点満点)で評価します。なお、必要に応じて平常点(出席など；プラスにもマイナスにもなり得る)を評価に加味します。

#### その他

経営財務論は、企業における資本の調達と運用を検討対象とし、財務意思決定者の意思決定をサポートすることを目的としています。講義が進むうちに理解できると思いますが、検討領域は企業内のみに留まらず、外部資本市場を含む包括的なものになります。企業経営に必要なこの分野を学習することにより、資本の流れを通じて企業の経営活動を見る目を養って下さい。

講義科目 : 人的資源管理論	単位数 : 2
マーケット略 : [人的資源]	学習形態 : 選択科目
担当 :	

後日揭示

講義の内容・方法および到達目標

授業計画

- 第1回
- 第2回
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

教材・テキスト・参考文献等

成績評価方法

その他

講義科目	:企業論	単位数	:2
マークシート略	:〔企業論〕	学習形態	:選択科目
担当	:山川 敏	実務経験	:有

### 講義の内容・方法および到達目標

(株)三十三総研コンサルティング部の部長（主任コンサルタント）として、日々の企業コンサル業務や企業研修の講師業務等を通じて得た経験をもとに、現在の企業を取り巻く環境に即した講義を実施します。

また、グループ討議等による学生参加型の講義を実施し、内容は会社を運営するうえで大切なこと、経営革新の考え方や起業の視点等に加え、社会人になってからも役立つような実践的な講義を行います。

### 授業計画

第1回	未来を予測して仮説をたてる①	: 起業の意義と外部環境把握①
第2回	〃	②: 外部環境把握②
第3回	〃	③: 〃 ③と仮説①
第4回	〃	④: 〃 ④と仮説②
第5回	お客様の満足を考える	
第6回	事例研究①	
第7回	〃 ②	
第8回	起業家の成功要因を考える: 3つの側面からの考察	
第9回	自分研究: 自分の特長、やってみたいこと	
第10回	経営理念の立て方: 基本理念と行動理念	
第11回	マーケティングと経営戦略①: 意義	
第12回	〃 ②: 勝つための仕組みづくり	
第13回	決算書の見方と資金繰り①	
第14回	〃 ②	
第15回	ビジネスプラン作成	

### 教材・テキスト・参考文献等

教材・テキスト等は、当方でレジュメを用意します。

### 成績評価方法

- 講義終了10分前に、当日の理解度を確認するレポートを提出します。
    - レポート提出をもって出席確認2.5点（未提出の場合、出席点は無し）
    - レポート評価で最高2.5点（出席せずにレポートを提出しても0点）

第1回～15回まで満点の場合、5点×15回＝75点
  - ビジネスプラン提出25点
- 以上の合計100点で採点します。

### 実務経験

現在、(株)三十三総研のコンサルティング部長として企業コンサルをはじめ各種研修会の講師等、現役で業務を行っています。こうした実務経験を活かして、実際のビジネスを取り巻く現在の環境等を十分に理解できる、鮮度ある講義になるよう努めていきます。

### その他

一方的に教えるというものではなく、学生同士が共に影響し合いながら考える力を養成する参加型の楽しい講義を目指します。

講義科目	: 管理会計論	単位数	: 2
マーケット略	: [管理会計]	学習形態	: 選択科目
担当	: 今井 富久翁	実務経験	: 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ① 企業経営において重要性が高まっている管理会計に関して、新聞記事などを紹介して、興味を持ってもらえるように解説します。
- ② 管理会計の基礎概念を理解し、企業の経営資源を効率的に活用するための情報を企業経営者などに提供するプロセスや手段について講義します。
- ③ 企業経営の目的（＝適正な利潤を獲得して社会に貢献すること）を効率よく達成するための様々な方法について具体例を交えて紹介します。

#### 授業計画

- 第1回 管理会計の役割
- 第2回 管理会計と財務会計
- 第3回 経営理念は企業の基本姿勢
- 第4回 利益計画で成り行き経営からの進歩
- 第5回 経営組織の形態と変遷
- 第6回 経営戦略
- 第7回 戦略協力
- 第8回 コスト管理
- 第9回 物流コスト
- 第10回 ABCとABM
- 第11回 企業の社会貢献
- 第12回 投資計画
- 第13回 キャッシュフロー経営
- 第14回 経営分析
- 第15回 まとめと確認

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義で使用する教材は、レジュメを作成します。

参考文献として、

「管理会計レクチャー」：門田 安弘：税務経理協会

「意思決定のための管理会計」：陶山 博太：同友館

#### 成績評価方法

理解度を筆記試験で判断し、及第点未満の場合は、出席状況や受講態度などを考慮します。

#### 実務経験

昭和48年からの税理士事務所や公認会計士事務所勤務と昭和58年開設の今井富久翁税理士事務所での実務経験を活かしたより実践的な「経営学としての管理会計」を解説します。

#### その他

将来、就職した企業から「今年の新入社員は使える」或は「一般常識を良く知っている」といってもらえるようにさまざまな話題を盛り込んだ講義をします。ので、学生諸君は経営者などの企業経営者になったつもりで受講してください。

講義科目 : 財務会計論	単位数 : 2
マーケット略 :〔財務会計〕	学習形態 : 選択科目
担当 : 今井 富久翁	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

会計は、企業の財務状態や業績を数値で表すツールであり、主として企業外部の利害関係者に会計情報を伝達することを目的とする。本講義では、企業活動について実際の財務諸表を参照しながら、財務会計の基本的考え方を説明します。

#### 授業計画

- 第1回 財務会計の基礎
- 第2回 企業会計原則と会計公準
- 第3回 財務諸表の仕組み①
- 第4回 財務諸表の仕組み②
- 第5回 資産の部
- 第6回 負債の部
- 第7回 純資産の部
- 第8回 収益の部①
- 第9回 収益の部②
- 第10回 費用の部①
- 第11回 費用の部②
- 第12回 株主資本等変動計算書
- 第13回 キャッシュフロー計算書
- 第14回 財務諸表分析
- 第15回 まとめと確認

#### 教材・テキスト・参考文献等

- |            |      |         |
|------------|------|---------|
| 「財務会計講義」   | 桜井久勝 | 中央経済社   |
| 「財務会計入門」   | 田中健二 | 中央経済社   |
| 「新・現代会計入門」 | 伊藤邦雄 | 日本経済新聞社 |
| 「新版会計法規集」  |      | 中央経済社   |

#### 成績評価方法

理解度を筆記試験で判断し、及第点未満の場合は出席状況や受講態度などを考慮します。

#### 実務経験

昭和48年4月から税理士事務所や公認会計士事務所に勤務し、昭和58年8月に今井富久翁税理士事務所を開設。実務経験を活用し、理解しやすく「企業会計」を開設します。

#### その他

簡単な計算問題を適宜出題しますので、電卓を持参してください。

講義科目	: 税務会計論	単位数	: 2
マーケット略	: [税務会計]	学習形態	: 選択科目
担当	: 田中 里美		

#### 講義の内容・方法および到達目標

税務会計は、所得税務会計と法人税務会計の分野に分類することができます。所得税務会計では、所得税の考え方や計算方法について学びます。法人税務会計では、法人税の考え方や計算方法について学びます。法人税の計算の仕方を学ぶには企業会計上の利益の計算過程について一定の知識が必要となります。簿記や会計学の知識を踏まえた上で学習することにより、より理解が深まります。法人税は企業会計上の当期純利益を出発点にして法人所得を計算するからです。

本講義では、課税の概念を軸において、日本の法人課税の実態を踏まえながら税務会計を学びます。

#### 授業計画

第1回ガイダンス

第2回税務会計とは？（確定決算主義、申告納税制度、シャープ勧告）

第3回課税の概念①（能力説、応益説、応能負担原則）

第4回課税の概念②（租税法律主義、包括的所得概念、制限的所得概念）

第5回法人所得の計算方法と法人税負担率の計算方法

第6回法人課税の実態①

第7回法人課税の実態②

第8回中間試験と総括

第9回租税特別措置の歴史の変遷

第10回研究開発促進税制

第11回受取配当益金不算入制度と法人擬制説

第12回近年の税制改革①

第13回近年の税制改革②

第14回近年の税制改革③

第15回全体の総括

#### 教材・テキスト・参考文献等

- 田中里美『会計制度と法人税制』唯学書房。

#### 成績評価方法

- 試験（40%）、中間試験（30%）、出席点（30%）を基準に評価をします。

#### その他

- 授業の進捗度に応じて授業計画が変更される場合があります。
- 電卓を使用することがあります。電卓をご用意下さい。



講義科目 : 工業簿記および原価計算	単位数 : 2
マークシート略 : [工業簿記]	学習形態 : 選択科目
担当 : 藤田 美咲	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

この地域を支える製造業における取引の記録システムである工業簿記と、製品原価の計算について理解することを目的とします。

最終的に日本商工会議所簿記検定2級の工業簿記レベルの実力を修得することを目標とします。

#### 授業計画

テキストに沿って、おおよそ以下のように進めていく予定ですが、受講生の状況によって修正をしていきます。

- 第1回 ガイダンス、工業簿記の基礎、工業簿記の勘定連絡
- 第2回 材料費
- 第3回 材料費、労務費
- 第4回 労務費、経費
- 第5回 個別原価計算
- 第6回 個別原価計算
- 第7回 個別原価計算
- 第8回 総合原価計算
- 第9回 総合原価計算
- 第10回 総合原価計算
- 第11回 標準原価計算
- 第12回 標準原価計算
- 第13回 直接原価計算、(財務諸表の表示)
- 第14回 CVP分析、(本社工場会計)
- 第15回 確認テスト

#### 教材・テキスト・参考文献等

(テキスト) 「合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記」 TAC出版

#### 成績評価方法

出席は毎回とります。

全授業回数の3分の1を超えて欠席すると、評価の対象外とします。

試験80%に平常点(出席状況、講義中の態度)20%を加味して判定します。

#### 実務経験

公認会計士としての監査法人勤務経験があり、現在は税理士として税理士法人に勤務。当該実務経験をもとに実際の企業における会計実務や管理会計の状況、経営手法や現代企業における課題などについても織り交ぜます。

#### その他

講義には電卓をご用意ください。

本講義は簿記3級程度の基本的な簿記の知識があることを前提としております。

講義科目 : 上級簿記	単位数 : 2
マーケット略 : [上級簿記]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田中 里美	

#### 講義の内容・方法および到達目標

本講義では、日商簿記検定2級の商業簿記の内容を学習します。

簿記は、会計学の基礎となる科目です。簿記により企業の経済活動を数量的に捉えることによって、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることができます。簿記の知識と技術は、社会的にも大きな役割を果たしており、経済社会で活躍する人たちにとっては、身につけておきたい知識と技術であると言えます。企業の経済活動を数値化することで、企業の管理ができ、投資家に対して情報を公開することができ、さらに税金の計算にも役立てられています。また、簿記を学ぶことで、物事を合理的に考察し、正確かつ迅速に処理する能力や思考力を身につけることができます。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 銀行勘定調整表
- 第3回 固定資産
- 第4回 有価証券、引当金
- 第5回 株式発行、無形固定資産、繰延資産
- 第6回 社債
- 第7回 税金、剰余金の配当と処分
- 第8回 精算表
- 第9回 帳簿組織、財務諸表
- 第10回 問題演習
- 第11回 本支店会計①
- 第12回 本支店会計②
- 第13回 伝票会計
- 第14回 確認テストと総括
- 第15回 総括とまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

- 使用テキストは、最初の授業で指定します。

#### 成績評価方法

- 問題集の回答（50％）と確認テスト（50％）を基準に評価をします。

#### その他

- 日商簿記検定3級取得者、簿記原理で日商簿記検定3級程度の学習を終えた者を対象とします。
- 「工業簿記及び原価計算」とセットで受講することで日商簿記検定2級の学習をすることができます。
- 電卓をご用意下さい。

講義科目	: 演習	単位数	: 4
マークシート略	: [演習]	学習形態	: 必修科目
担当	: 鎌塚 有貴	* 第2学年で履修	

#### 講義の内容・方法および到達目標

「日本国憲法」の講義中では詳細に扱うことのできなかつた事柄について、より詳細に検討することに加えて、憲法学が直面している時事問題についても理解を深めることを目標とする。

#### 授業計画

各回担当者による報告形式とする。報告担当でない者は、質疑応答の際に参加できるように予習してることが望ましい。

#### 教材・テキスト・参考文献等

憲法判例百選第6版Ⅰ、Ⅱ（有斐閣、2013年）

その他、教材について授業中に指示することがある。

#### 成績評価方法

授業への出席、報告等を総合的に判断する。

#### その他

「日本国憲法」を履修済みであること。

講義科目 : 演習	単位数 : 4
マークシート略 : [演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 川上 生馬	* 第2学年で履修

### 講義の内容・方法および到達目標

本講義では受講生の関心のある民法にまつわる問題について、各自が報告を行い、その内容について他の受講生が質問を行うという形で講義を進めることとする。民法にまつわる問題は契約のトラブルや婚姻・離婚・相続など多岐にわたる。そこで、1年次までに学習してきた民法に関する知識を生かし、社会問題を民法の視点から考察することで、法的思考能力のブラッシュアップを目指したい。

### 授業計画

初回講義時に、受講生の希望する報告内容の大枠を決定する作業を行い、第2回講義より報告を開始する。報告担当者はレジュメを作成し、報告者でない受講生は事前配布資料および当日の配布レジュメを基に質問を行うこととする。講義の成果として卒業論文を執筆することを予定している。

### 教材・テキスト・参考文献等

初回講義時に各受講生が報告する際に必要となる資料の検索等を指導の下に行うことを予定している。

### 成績評価方法

報告内容、質問内容、卒業論文の内容によって評価する（平常点100%）。

### その他

民法Ⅰおよび法学基礎演習を履修していることが望ましい。

民法Ⅱ・Ⅲ、家族法を履修していれば検討の幅が広がるため、これらの科目の既履修または演習との同時履修が望ましい。

講義科目 : 演習	単位数 : 4
マークシート略 : [演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 川崎 航史郎	* 第2学年で履修

#### 講義の内容・方法および到達目標

1年の基礎演習において、各自が設定したテーマに沿って、卒業論文の完成を目指します。その過程で、労働法、社会保障法その他生活に関わる問題を広く扱い、法的視点から問題の改善を提案できるような能力を身につけられます。また、夏休みの9月中旬に他大学との合同ゼミに参加する予定（講師・学生の都合により変更有）ですので、その準備も前期は行います。

#### 授業計画

第1回 卒論準備報告  
|  
第10回 同上  
第11回 合同ゼミ報告準備  
|  
第15回  
第16回 卒論報告  
|  
第30回 同上

#### 教材・テキスト・参考文献等

労働法、社会保障法の講義で使用した教科書。その他、講義中に指示します。

#### 成績評価方法

平常点（報告の準備、ゼミ中の討論への参加75%）、卒業論文（25%）

講義科目	: 演習	単位数	: 4
マークシート略	: [演習]	学習形態	: 必修科目
担当	: 楠本 孝	* 第2学年で履修	

#### 講義の内容・方法および到達目標

テーマ：犯罪と刑罰をめぐる諸問題

概要：

2年次のゼミは、ゼミ生が自ら選んだテーマについて調査・研究・報告を行う。

#### 授業計画

最終的には、各自ゼミ論文を作成し、論文集にまとめる。

#### 教材・テキスト・参考文献等

演習時において指示する。

#### 成績評価方法

ゼミ論の内容とゼミへの貢献度を総合的に評価する。

#### その他

夏休みにゼミ合宿（施設見学）を行う予定である。

講義科目 : 演習	単位数 : 4
マークシート略 : [演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 立石 芳夫	* 第2学年で履修

### 講義の内容・方法および到達目標

本演習では、政治学もしくは行政学の観点から、国や地方の政治行政の諸問題を扱っていく。

運営方法としては、文献購読を通じて、旺盛な討論を試みたいと思う。文献など具体的な内容については、学生と相談して決めていきたい。また、受講生の状況次第では、より基礎的な学習方法を実施することもありうる。

本演習は、とくに政治や行政の問題に関心のある学生にすすめたい。ゼミに対しては、通常の講義とは異なり、教員ではなく学生が中心的な役割を担うことを念頭に置いてもらいたい。毎回のゼミでは、受講生が自分の意見や考えを人前で論理的にコミュニケーションできる能力の養成にも努めたい。

### 授業計画

専門文献の講読を進める。どの程度進めるかについては、受講生と相談のうえ決めていく。

### 教材・テキスト・参考文献等

テキストなどについては、受講生と相談のうえ決めていく。

### 成績評価方法

出席状況（50%）、事前準備・授業態度（50%）を総合して評価する。また、ほぼ毎回の授業でペーパーの提出を義務づけ、これについても事前準備・授業態度の部分で成績評価の対象とする。

### その他

本演習とあわせて、行政学、地方政治論、政治学原論を受講しておくこと。

講義科目 : 演習	単位数 : 4
マークシート略 : [演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 藤枝 律子	* 第2学年で履修

### 講義の内容・方法および到達目標

現代の行政とは、国民・住民といかなる関係にあるのか、判例研究を中心として多様な観点から検討を試みる。学期の前半はディベート、後半は各個人の興味関心のあるテーマでの報告の形式で行う。議論・検討を重ねた後、卒業論文の形にまとめ上げることを目標とする。

### 授業計画

主なテーマとして

- ① 環境問題
- ② まちづくり
- ③ 社会保障
- ④ 教育問題
- ⑤ 公共事業
- ⑥ 情報公開・個人情報保護

等

### 教材・テキスト・参考文献等

参考資料等は、各回のテーマに合わせて提示をする。

### 成績評価方法

出席、ゼミでの報告や議論など平常点及び卒論を総合して評価する。

### その他

検討・報告テーマ等は、参加者と協議して決める。



講義科目 : 演習	単位数 : 4
マークシート略 : [演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 石原 洋介	* 第2学年で履修

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 教員の指導の下、指定したテキストを用い、金融に関する学びを深める。
- ・ 各章のまとめと報告を学生が担当し、学生同士で意見交換や議論をすることで、テーマに関する理解を深めるとともにプレゼンテーションやディスカッションの能力を涵養する。
- ・ 夏季休暇には課外研修を行う。東京にある日本銀行、東京証券取引所等を見学することでその役割と機能の理解を深める。なお、ゼミ希望者には、課外研修参加費の多くが自己負担（一部ゼミ補助あり）になることをあらかじめ承知しておいていただきたい。
- ・ ゼミ生の皆さんには、まとまった分量の文章を論理的に書く能力を養うことを目的として卒業論文を執筆してもらう予定だが、夏季に開催される小論文コンクールへの作品提出をもって代替することを認める。
- ・ 株式会社や協同組合の仕組みを体験しつつ、企画力・行動力・協働する力を身につけるために、サマフェスまたは大学祭にゼミ単位で参加する。

#### 授業計画

- ・ 毎週テキストの一定分量を担当学生が報告し、討論する。
- ・ 夏季には東京（日本銀行、貨幣博物館、東京証券取引所を見学）にて課外研修を行う。
- ・ サマフェスまたは三重短祭に参加する。
- ・ 卒業論文または小論文コンクール提出論文を作成する。

#### 教材・テキスト・参考文献等

指定したテキストを最初のゼミまでに購入しておくこと。  
2冊目以降のテキストはゼミ生と相談して決定する。

#### 成績評価方法

出席およびゼミでの報告、討論への参加意欲、卒業論文または小論文コンクール提出作品の出来などを総合的に評価する。

#### その他

演習希望者が募集定員を超えた場合は、1年次のガイダンスで説明したように、金融論などの指定科目の受講状況及びそれらの成績を、ゼミ生選抜の判断材料とする。

講義科目 : 演習	単位数 : 4
マークシート略 : [演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 大畑 智史	* 第2学年で履修

#### 講義の内容・方法および到達目標

地方経済の活性化は、現在の日本における重要な論点の一つです。本演習では、その論点に関する議論などの取組を通じ、地方経済活性化と地方財政との関連性について、履修者が専門的な見解を持てることを目標とします。

#### 授業計画

##### [前期]

- ・ 講読文献の内容に関する議論
- ・ 卒業論文関係：経過報告、議論

##### [後期]

- ・ 講読文献の内容に関する議論
- ・ 卒業論文関係：経過報告・最終報告、議論

\* 地方経済活性化の取組みの現場に訪問（自由参加）することを考えています。この詳細は、受講生と相談の上、決めます。

2016年度：志摩市方面（9月）

2017年度：伊賀市方面（9月）

2018年度：亀山市方面（6月）、四日市市方面（12月）

#### 教材・テキスト・参考文献等

文献講読では、まず、下記の著書を読みます。

木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社、2016年

これ以降は、受講生と相談の上、決めていきます。

その他、本演習関連の文献については、適宜紹介します。

#### 成績評価方法

出席、卒業研究関係報告、これらを総合的に評価します。

#### その他

- ・ できるだけ、財政学関連の講義を受講して下さい。
- ・ 各種行事への積極的な参加を考えています。

講義科目 : 演習	単位数 : 4
マークシート略 : [演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 田添 篤史	* 第2学年で履修

#### 講義の内容・方法および到達目標

テーマ：日本経済を考える

概要：現代の日本経済には様々な課題があります。日本経済について様々な面から取り扱ったテキストを輪読します。

そのうえでゼミ生が自ら選んだテーマに基づいて調査、報告を行い、卒業論文を完成させることを目標とします。

#### 授業計画

最初に1冊目のテキストの輪読を行い、各自が興味あるテーマを設定します。

それをもとにして、各自で調査、研究報告を行います。

2冊目以降のテキストやテーマについては、学生と相談のうえ決定します。

#### 教材・テキスト・参考文献等

初回までに次のテキストを購入しておくこと

岡田知弘・岩佐和幸編『入門 現代日本の経済政策』法律文化社

#### 成績評価方法

出席、ゼミでの発言、卒業論文の内容などにより総合的に判断します。

講義科目	: 演習	単位数	: 4
マークシート略	: [演習]	学習形態	: 必修科目
担当	: 田中 里美	* 第2学年で履修	

### 講義の内容・方法および到達目標

#### テーマ：社会問題と会計・租税

本講義では、身近な社会問題をテーマとして取り上げ、卒業論文をまとめることを目標にする。テーマについては、会計や租税に関することを基本とするが、各個人が最も興味関心のある社会問題を取り上げて、論文作成を行うこととする。

### 授業計画

#### 【前期】

- 基礎的な文章能力、社会問題への興味関心を深めるため、テキストを指定して構成員全員で通読を行う。その際に各個人の意見交換、ディスカッションを行う。

#### 【後期】

- 卒業論文の作成に取り組み、完成させる。
- 毎回の授業において、各人の論文の内容とテーマを報告する。
- 卒業論文は、3,000字以上とする。

### 教材・テキスト・参考文献等

- テキストとして使用する文献は、受講者のレベルに合わせて決定する。
- 必要に応じてレジュメを配布する。

### 成績評価方法

演習であるため、以下の2点を中心に総合的に評価する。

- 報告の回数や報告の内容
- 卒業論文の提出とその評価

### その他

- 会計学や租税、社会問題に興味・関心があることが望ましい。
- 演習であるためゼミ活動に積極的に参加できる者が望ましい。

講義科目	: 演習	単位数	: 4
マークシート略	:[演習]	学修形態	: 必修科目
担当	: 鷲尾 和紀	* 第2学年で履修	

#### 講義の内容・方法および到達目標

本演習は、主としてサービス業を中心としたマーケティング戦略を学修します。今日サービス業が多数ある中、マーケティングにおいてサービスとは何か考える必要があります。そのためには戦略の基礎となるマーケティング・マネジメント・プロセスをより深く理解することが求められます。さらにライフプランに合わせた金融商品や保険サービス等についてサービスマーケティング独自のマーケティング戦略について学修します。

また近年におけるデジタル化によって人々は利便性を求めるようになり、デジタルツールで取引できるサービスについては、時間に対する価値観、期待の持ち方、また新たな環境の中での自己認識のあり方が変わってきています。これらを自分の立場から考え、マーケティングを通じて自分のあり方を考えられることが本演習の狙いです。今までの知識と経験を合わせて、創造性や思考力を育みます。

それぞれの進路に合ったテーマをもとに研究していくことも可能です。学生生活を通じて自己分析を行い、将来に向けて成長を求めている人を望みます。

#### 授業計画

演習では、広く具体的な事例を素材として、マーケティングが果たしている役割や機能を検証していく予定です。また、その作業を通じて最終的に受講者が自らテーマを設定して、最終的に卒業論文を作成してもらいます。その過程で、卒業論文に関する報告を輪番制で行ってもらおう予定です。

#### 教材・テキスト・参考文献等

鷲尾和紀 著 『パーソナルファイナンシャル・サービス・マーケティング』  
発行：創成社, 2016年

#### 成績評価方法

演習時の報告、発言、参加などを総合的に考慮し、さらに卒業論文をもって判断します。無断欠席は厳禁。

#### その他

マーケティング論、日本経済論を受講していることが望ましい。

ゼミ活動実績：サマフェス・学祭、合同ゼミFW、現地調査、いちご農園。